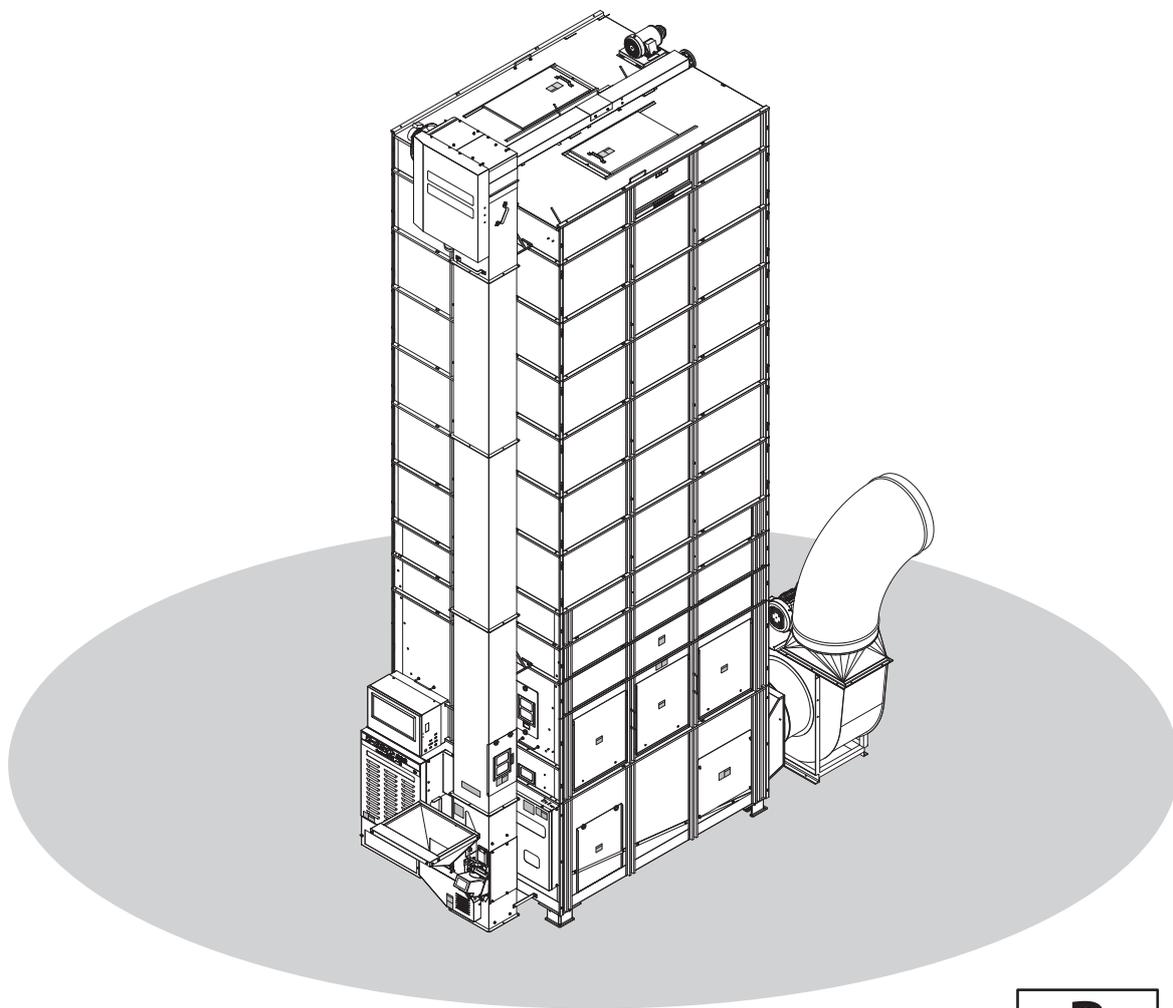


一心号 汎用型大型熱風乾燥機

取扱説明書

型式名：SEL500, SEL600, SEL700, SEL800, SEL1000



B

- この取扱説明書と保証書をよくお読みのうえ、正しくお使いください。
そのあと大切に保存し必要なときにお読みください。
- 保証書は、必ず「納入日・販売店名」等の記入を確かめて、お受け取りください。

保証書別添付

ご愛用の皆様へのご注意

- 1.この乾燥機を使用する前に、この取扱説明書を十分お読みください。
特に重要な使用説明には気をつけてください。
**この製品は、籾・麦の専用乾燥機です。他の目的に使用しないでください。
(コーンを乾燥する場合はコーン専用オプション品が必要になります。)**
- 2.製品の設計には、絶えず検討を加えています。また、この取扱説明書を常に最新ののものにするためのあらゆる努力を払っていますので、仕様と機器を予告なくいつでも変更する権利があるものとします。
- 3.部品を交換される場合には、必ず金子農機の純正部品をご使用ください。
純正部品以外のものを使用したことにより発生した損害・事故に就きましては、弊社は責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。
- 4.乾燥機の設計、開発に当たっては、操作をする人の安全について特に注意を払っています。
本機を改造したことにより発生した損害・事故につきましては、弊社は責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。
- 5.保証期間内であっても、お客さまの操作・設定ミスにより発生した損害・事故につきましては、弊社は責任を負いかねますのであらかじめご了承ください。
- 6.この製品の補修用部品の保有期間は、製造打ち切り後 12 年とします。
但し、保有期間内であっても、特殊部品につきましては、納期などについてご相談させていただく場合もあります。
7.  は、金子農機株式会社の商標です。
- 8.この取扱説明書の中で特に型式指定のない場合には、すべて共通です。

この取扱説明書の構成

取扱説明書の各章は、操作手順通りに構成されており、目的に応じて必要な部分を参照できるようになっています。

■第1章 概要説明

この乾燥機を取り扱う前の安全上の注意事項、乾燥における注意事項、火災予防上の注意事項ならびに本機に貼られている安全ラベルについて説明しています。

■第2章 主要諸元・外観寸法

この乾燥機の主要諸元ならびに本機の外観寸法について説明しています。

■第3章 各部の名称と働き

この乾燥機の本機、制御盤、安全装置とセンサ類および操作パネルの各部名称と働きならびに乾燥機の内部構造と穀物の流れについて説明しています。

■第4章 据付け

この乾燥機の据付け上の注意事項について説明しています。

■第5章 操作説明

この乾燥機の操作に必要な作業・手順について説明しています。

■第6章 点検・整備

この乾燥機の点検箇所と整備のしかたについて説明しています。

■第7章 掃除と保管

この乾燥機の掃除箇所と保管のしかたについて説明しています。

■第8章 故障診断と処置

この乾燥機の故障の原因と処置について説明しています。

■第9章 オプション品

この乾燥機のオプション品について説明しています。

■第10章 緊急時の連絡先

トラブルが発生して復旧ができない場合の連絡先について説明しています。

もくじ

ご愛用の皆様へのご注意	i
この取扱説明書の構成	ii
もくじ	iii

第1章 概要説明

●製造番号	2
●まえがき	2
●安全上の注意事項	4
●操作前の安全ルール	5
●使用上の注意事項	7
●作業時の注意事項	11
●乾燥における注意事項	14
●火災予防上の注意事項	16
●安全ラベル	19

第2章 主要諸元・外観寸法

●主要諸元	22
●外観寸法	23

第3章 各部の名称と働き

●本機の名称と働き	26
●制御盤の名称と働き	28
●バーナ部の名称と働き	29
●安全装置とセンサ類の働き	30
●操作パネルの名称と働き	32
●内部構造と穀物の流れについて	34

第4章 据付け

●据付け上の注意事項	36
------------	----

第5章 操作説明

●運転の種類と動作	40
1.自動運転	40
2.タイマー運転	41
●電源の入れ方と切り方	42
1.電源の入れ方	42
2.電源の切り方	42
●本機の停止とバーナの消火	43
●乾燥条件について	45
●乾燥機能と付属機能	47
乾燥機能	47
付属機能	48
●シーズン前に	50
●始動の前に	51
●穀物の乾燥（自動運転）	53
■穀物を張り込む	53
■穀物を通風循環する	54
■穀物を乾燥する	58
■穀物を排出する前に （水分値確認）	62
■水分値補正のしかた	63
■穀物を排出する	65
●穀物の乾燥（タイマー運転）	66
■穀物を張り込む	66
■穀物を通風循環する	67
■穀物を乾燥する	68
■穀物を排出する	69

第6章 点検・整備

●点検・整備一覧表	72
●点検・整備	73
●配線・配管	74
電源プラグ・コードの確認	74
配管の油もれの確認	74
●グリス塗布箇所	75
駆動チェーンへのグリス塗布	75
●燃料系統	76
油受け容器の残油処理	76
ストレーナの洗浄	76
●燃焼系統	77
バーナの掃除	77
フレームアイの掃除	77
●検出器	79
ロール上の掃除とブラシの掃除	79
●昇降機	80
平ベルトの張り方	80
●送風機	81
送風機ベルトの張り点検	81
送風機ベルトの張り方	81
送風機ベルト ベアリンググリスの補給	81
●保護ヒューズの交換	82
ヒューズの交換のしかた	82
●テスト運転のしかた	83
●消耗部品耐久時間	84

第7章 掃除と保管

●掃除のしかた	86
1.乾燥部	87
2.下部本体	88
3.下部コンベア樋	89
4.昇降機下部	90
●保管のしかた	91
1.本機の保管のしかた	91
2.ハシゴの保管のしかた	92
3.燃料（灯油）の保管のしかた	92

第8章 故障診断と処置

●故障診断と処置	94
----------	----

第9章 オプション品

●オプション品	102
---------	-----

第10章 緊急時の連絡先

●緊急時の連絡先	106
----------	-----

第 1 章

概要説明

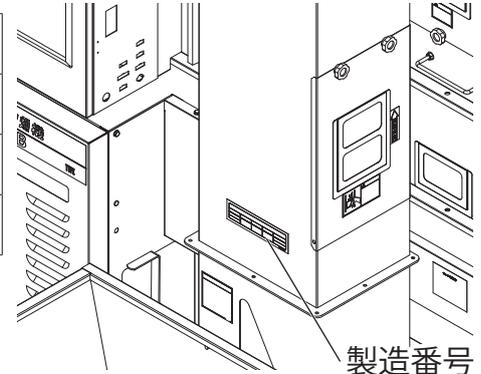
1 章 概要説明

●製造番号

乾燥機の製造番号などを下の欄に記録してください。

お買い上げの販売店に修理を依頼したり、部品を注文される時には、この型式名を必ず一緒にご連絡ください。

製造番号：
型式名：
あなたの住所：
あなたの氏名：



最寄りの弊社支店または営業所の所在

支店または 営業所名：	
所在地：	
電話番号：	
納入年月日： 年 月 日	保証期間：

●まえがき

この取扱説明書には、乾燥機の運転操作、点検・整備ならびに掃除・保管の説明が記載されています。また、本書内とラベルには、一貫して JIS1 号灯油のことを“灯油”と表記してあります。

この取扱説明書および製品には、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産の損害を未然に防止するためにいろいろな表示を使っています。その表示と意味は次のようになっています。

内容をよく理解してから本文をお読みください。

⚠ 危険

指示や手順を守らずに誤った取り扱いをすると人が死亡あるいは重傷を負うことになる内容を示しています。

⚠ 警告

指示や手順を守らずに誤った取り扱いをすると人が死亡あるいは重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

⚠ 注意

指示や手順を守らずに誤った取り扱いをすると人が負傷する可能性が想定される内容を示しています。

その他の表示



⊘ 記号は、禁止の行為であることを示しています。
図の中に具体的な禁止事項（左図の場合は、分解禁止）が描かれています。



● 記号は、必ず守っていただきたい内容を示しています。
図の中に具体的な指示内容（左図の場合は、電源プラグをコンセントから抜いてください）が描かれています。

大切

誤った取り扱いをすると、製品の本来の性能を発揮できなかつたり、機能停止をまねく内容および穀物の品質を損なうおそれのある内容を示しています。

補足

製品を取り扱う上で知ってほしい内容を示しています。

本書の目的は、あなたが乾燥機の運転操作、点検・整備ならびに掃除・保管をどのようにおこなえば効果的でしかも安全であるかを述べたものです。従ってこの取扱説明書どおりに乾燥機を取り扱っていただければより長く、安全にお使いいただけるものと思います。

また、弊社の乾燥機をご納入申しあげた際、あるいは試運転指導にお伺いした際にはいろいろご説明いたしますので、運転操作や点検・整備ならびに掃除・保管のやり方が一層理解いただけるとと思います。

本書について理解しにくい点がありましたらお買い上げの販売店もしくは最寄りの営業所までお問い合わせください。いずれにしても、この取扱説明書をよくご覧になってご理解いただくようお願いいたします。また、乾燥毎の点検を習慣づけ、作業時間を記録するようにしてください。



本書に使用している参考イラストは、原型の乾燥機から取ったものであり、細部においては、標準品と異なる場合があります。
また、本書の参考イラストの中には、分かり易くするため、安全カバーを取り外したものがあります。乾燥機をご使用になる場合は、必ず安全カバーを所定の位置に取り付けてください。

乾燥の条件は、穀物の種類・品種・性状および環境により非常に異なっておりますので、この取扱説明書だけでは、その条件に適した乾燥機の性能や操作方法を詳細にわたって明確に説明することはできません。

従って、本書で説明してあることが実際と違ったり、または説明していなかったために生じた損失や損害に関しては、その責任を負うことはできないことも御理解ください。

弊社の担当員は、各地域の状況や条件によって生じる特殊な問題についての知識を持ち、適切な指導ができるように準備しておりますので、皆様が特殊な条件や悪条件下でこの乾燥機を使用される場合には、必ず弊社担当員にご相談ください。

制御盤の周囲温度は、0～40℃の範囲で使用してください。

1 章 概要説明

●安全上の注意事項

安全上の予防措置

乾燥機的设计、開発にあたっては、操作をする人の安全について特に注意を払っています。そのため、設計者はできる限り安全上の機能を組み込んでいます。次の取り扱い事項をよくお読みいただき、乾燥機の手扱いを慎重におこない、事故を未然に防ぐようにしてください。



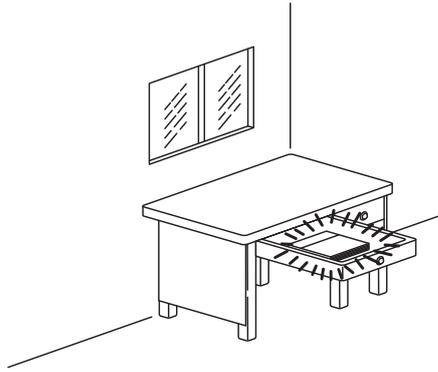
本書では、説明箇所を見易くするために参考イラストの中で安全カバーを取り外したものがあります。しかし、実際に乾燥機を操作する場合は、この状態で決しておこなわないでください。
必ず、全ての安全カバーを所定の位置に取り付けてください。
点検整備のために安全カバーの取り外しが必要な場合、作業終了後、直ちに元の位置に戻してください。

注意、警告、危険の安全ラベルが汚れたり、剥がれたり、見えにくくなった場合は取り替えてください。新しいラベルは弊社に取り揃えてあります。上記安全ラベルの貼り付けてある場所は、本書 p.19 ~ 20 を参照してください。

この型式と同じ中古の乾燥機をお買い上げいただいた場合は、本書 p.19 ~ 20 を参照の上、安全ラベルが正しい位置に貼ってあるか、また読みにくくなっていないかを確認してください。

●操作前の安全ルール

取扱説明書は、すぐに取り出せる場所に保管してください。



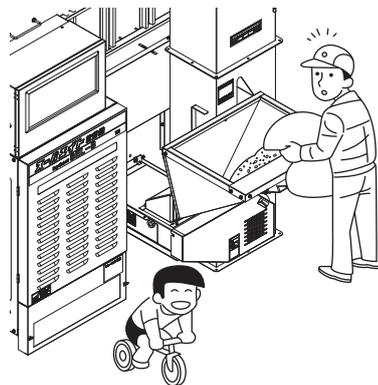
取扱説明書は、よく注意して読み、乾燥機の安全で正しい取り扱いを理解してください。



他の人に乾燥機を運転操作させる場合は、必ず、安全な運転操作方法を説明してからにしてください。



運転操作をおこなうときは、必ず、周囲の安全を確認してからにしてください。特に、子供に気をつけてください。

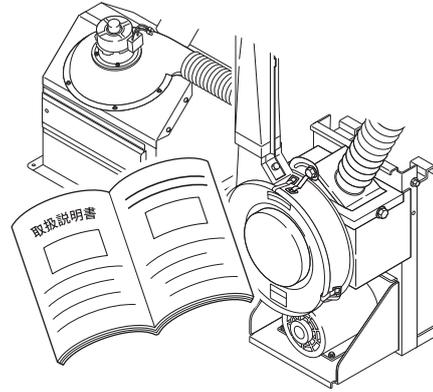


1章 概要説明

安全ラベルは全て、よく読み、理解するようにしてください。(安全ラベルの貼り付けられている場所は、本書 p.19～20 を参照してください。)

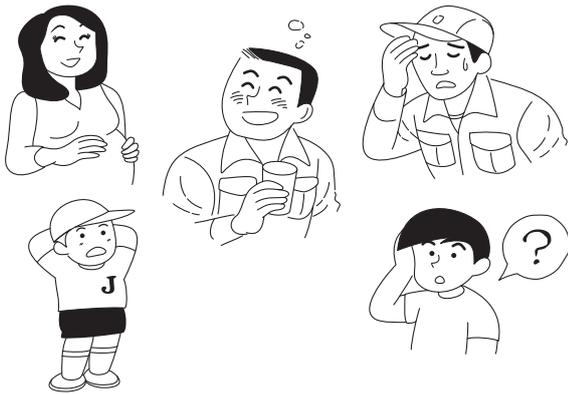


オプションを使用している場合は、専用の取扱説明書の安全上の予防措置を必ず守ってください。



次のような人は、運転操作をしないでください。

- ①過労、病気、薬物の影響、その他の理由により正常な運転操作ができない人
- ②酒気をおびた人
- ③妊娠している人
- ④若年者
- ⑤未熟練者



保護具を着用してください。

着用する衣服は乾燥機や周辺機器の可動部分に巻き込まれないように上着の袖口を止めて、ズボンのスソをすっきりとしてください。また、足元はすべりにくい靴を着用してください。

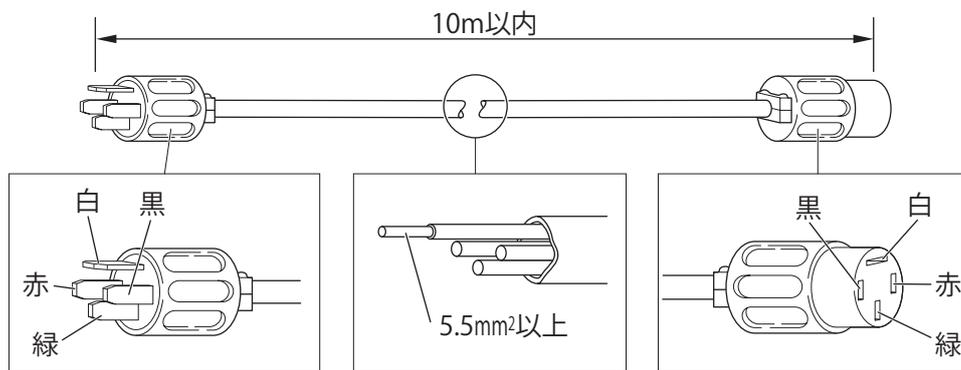


●使用上の注意事項

⚠危険

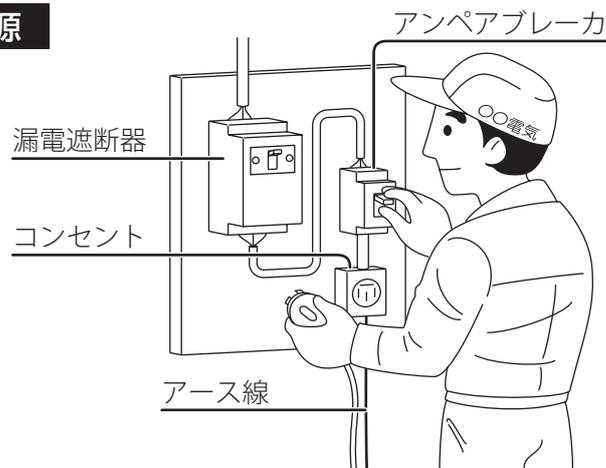
下記項目に従って、乾燥機専用の電源コードを準備してください。

- ① 電気用品取締法、電気用品の型式認定マーク  製品の4芯コードで線芯が5.5mm²以上のものを使用してください。
- ② 電源コードの長さを10m以内にしてください。
- ③ 電源コードの片側に付属の電源プラグ（メス）を組付け、もう一方には、電源プラグ（オス）を準備し組付けてください。尚、電源プラグには、下図のように結線してください。



元電源には、漏電遮断器・アンペアブレーカを装備し、必ず、元電源はアースをとってください。尚、屋内配線工事は電気工事士の資格を持った人しかできませんので、電気工事店に依頼してください。

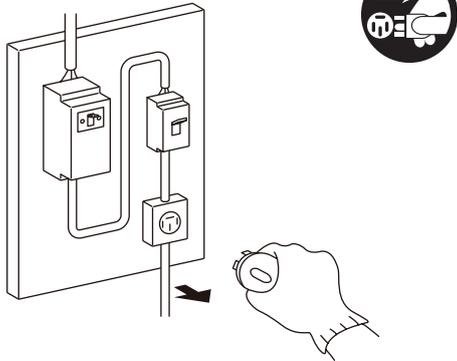
元電源



1章 概要説明

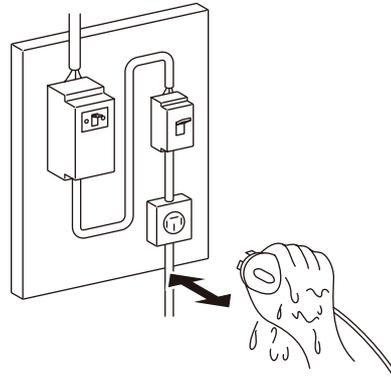
警告

電源プラグを抜くときは、必ず、プラグを持っておこなってください。



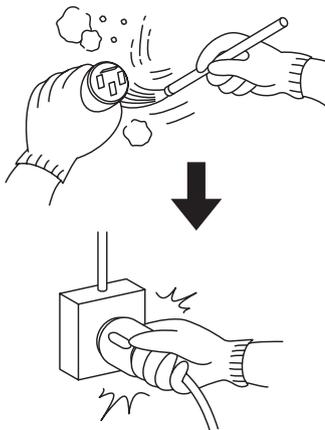
電源コードを引っ張って抜くと、発熱・発火の原因になります。

濡れた手で電源プラグなど電気部品に触れたり、ボタン操作をしないでください。



感電の原因になります。

電源プラグの刃および刃の取付面のホコリを定期的に清浄し、ガタのないように刃の根元まで差し込んでください



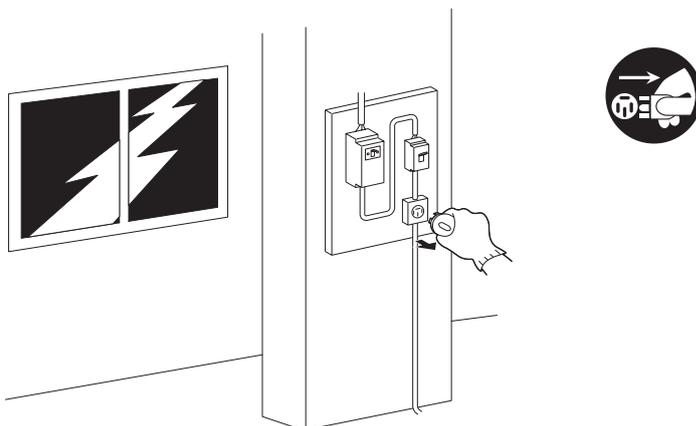
ホコリが付着して、接続が不完全な場合は、感電・火災の原因になります。

異常時は、運転操作を中止して電源プラグを抜き、お買い上げの販売店にご連絡ください。



異常のまま運転操作を続けると、感電・火災の原因になります。

雷が鳴り出したら電源を切り、電源プラグを抜いてください。



電源プラグを抜かずにおくと、火災の原因になります。

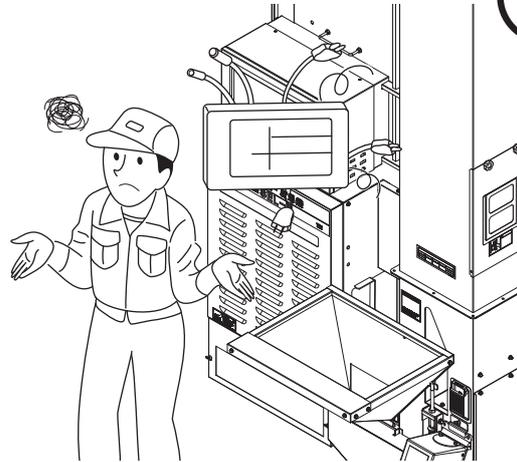
警告

屋内の配線、安全器、プラグの定期点検を電気工事店に依頼してください。



屋内の配線、安全器、プラグが古くなると、感電・火災の原因になります。

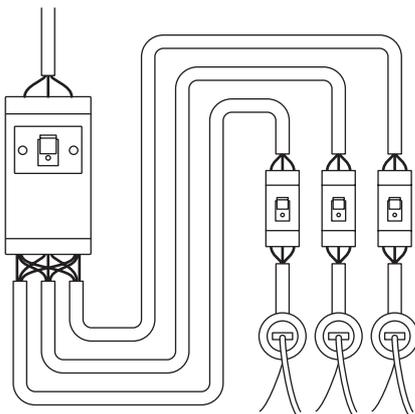
販売店以外の方は絶対に分解したり、修理改造はおこなわないでください。



分解・修理・改造に不備があるとケガをしたり、感電・火災の原因になります。

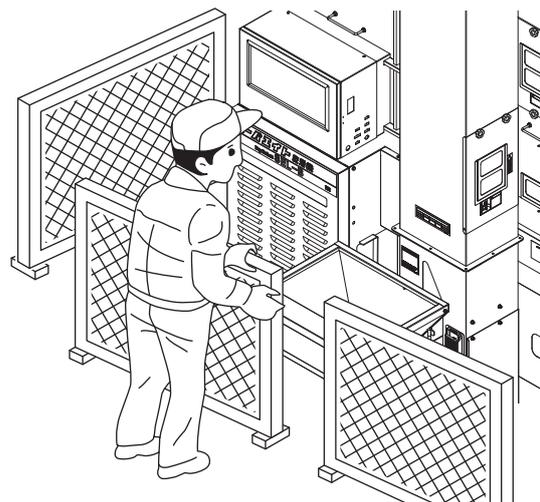
注意

漏電遮断器の併用はやめてください。



1つの製品が漏電していると、その他の機械も停止してしまいます。

取扱者以外の方が触れる恐れのあるときには、保護棚などで製品を囲ってください。



誤使用が原因でケガをすることがあります。

1章 概要説明

⚠️ 注意

夜間運転をするときには、隣家へ迷惑がかからないように十分配慮してください。



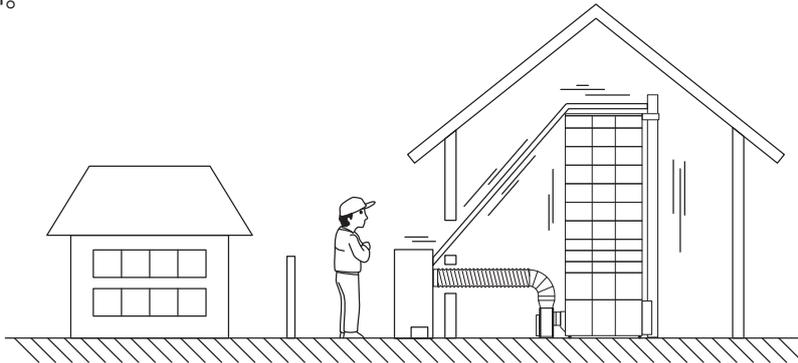
生活環境を守ることが大切です。

長期間使用しない場合は、電源プラグをコンセントから抜いてください。



取扱者以外の人に触れて、誤使用が原因でケガをすることがあります。

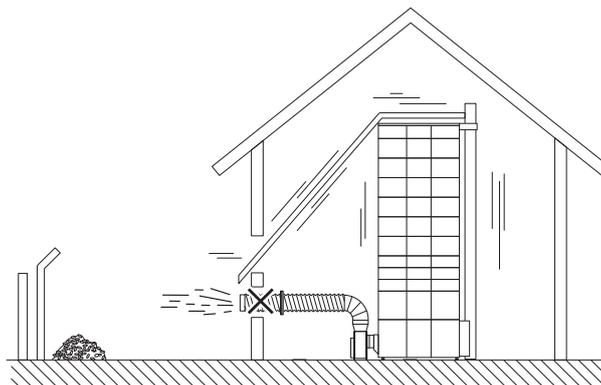
排塵機と送風機からは、ゴミやホコリが飛散しますので隣家へ迷惑のかからないように十分な配慮をしてください。



洗濯物を汚したり、ノド・目を痛める原因になります。

補足 排塵機・送風機からのゴミ・ホコリでお困りの場合には、排風エルボ・集塵装置・除塵機（オプション：別売）をおすすめします。

1. 付属の排風ダクトを延長して使用しないでください。
2. 排風ダクトが潰れた状態で使用しないでください。



大切

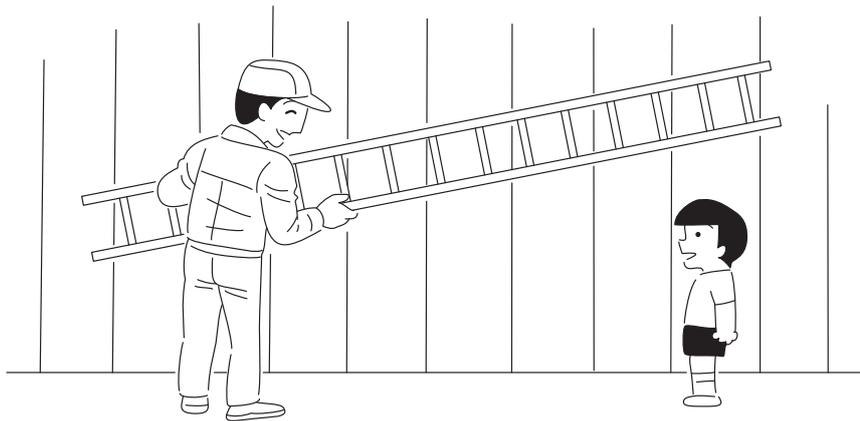
風力が低下し、バーナにカーボンが付きやすくなったり、放射体加熱の原因となります。

●作業時の注意事項

危険

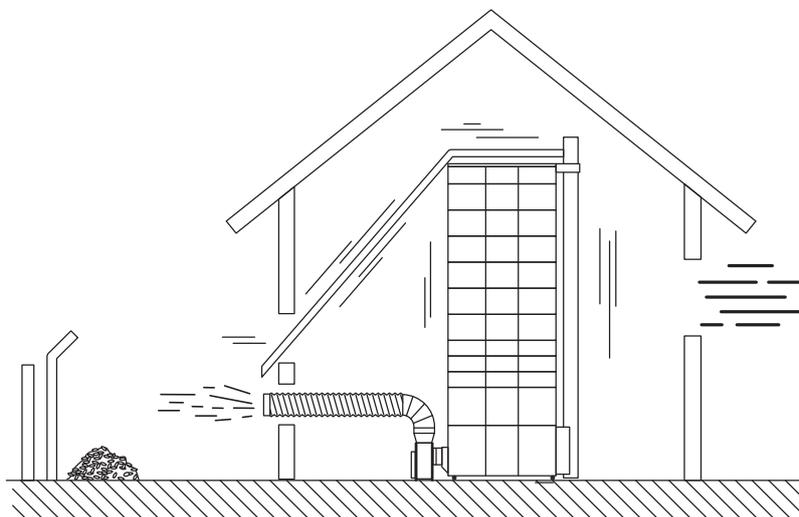
ハシゴは、販売業者の方がメンテナンス時に使用するものです。従って、ハシゴは子供の手の届かない所に保管してください。
また、高所作業は絶対におこなわないでください。

※ハシゴはオプションです。



落下して死亡・重傷の原因になります。

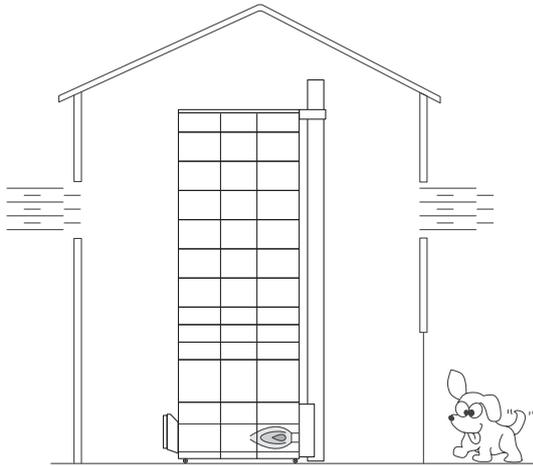
乾燥中は、十分に外気が取り入れられるようにしてください。
乾燥時間がかかったり、火災の原因となります。



1章 概要説明

警告

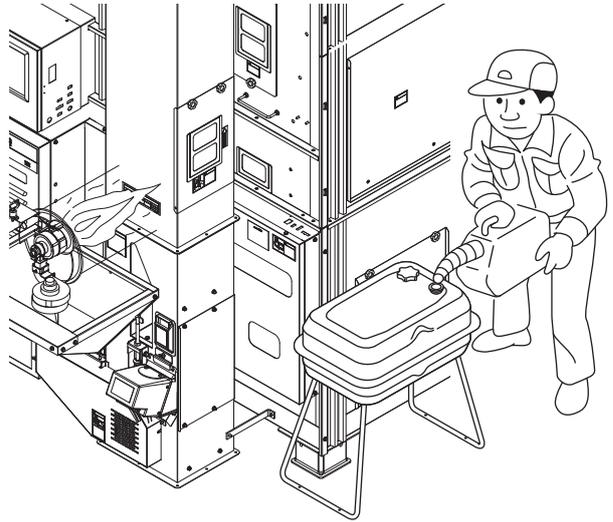
バーナの燃焼中は、できるだけ無人運転は、避けてください。



火災の原因になります。

バーナの燃焼中は、燃料タンクに給油しないでください。

※燃料タンクはオプションです。



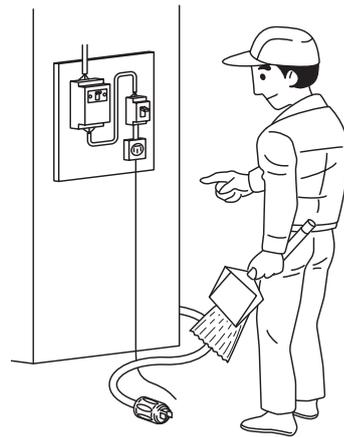
火災の原因になります。

バーナが燃焼中で熱い間は、手をふれないでください。



ヤケドの原因になります。

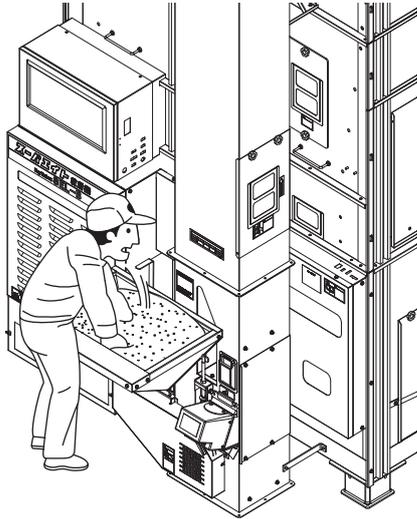
点検・整備あるいは掃除をするときは、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。



感電の原因になります。

注意

穀物をホッパーから投入するときには、手をホッパーの奥に入れてください。



回転部に手が触れて、ケガの原因になります。

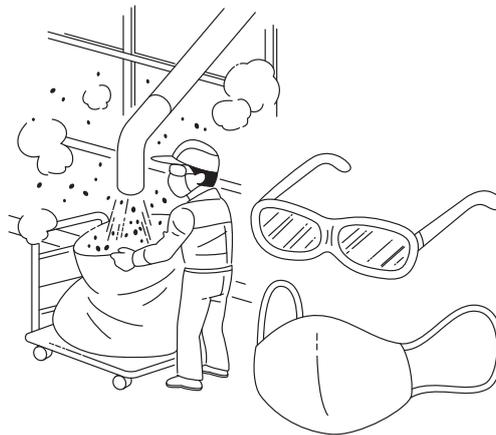
“満量です”のメッセージが表示され、ブザーが鳴った場合には、すぐに穀物の投入を中止してください

大切



張り込みすぎると詰まりの原因になります。

排出時には、目・口をメガネ・マスク等で防護してください。



ホコリによって目・のどを痛めることがあります。

1 章 概要説明

●乾燥における注意事項

籾の乾燥について

生籾にワラくすなどが多く混入していると、籾の流動性が悪く、乾燥ムラや変質の原因となりますので、乾燥機に投入する前に再選別するなどして取り除いてください。	
生籾は刈取り後、直ちに乾燥機に投入し、乾燥する量を全て投入するまでバーナに火をつけないで通風循環してください。	
水分ムラの多い生籾を乾燥する、あるいは青米の混入率の多い場合には、バーナに火をつける前にできるだけ多くの通風循環時間を取るようになしてください。高水分の籾ほど、特に水分の高い青米などは乾く方向に向かい、水分ムラが緩和されます。	
次のような場合には、乾燥速度を‘0.5%時’以下にしてください。 (1) 刈り取り時期が過ぎてしまい、圃場での胴割れがみられる場合 (2) 胴割れしやすい品種の場合 (3) 冷害の影響を受けた籾・くす米・シイナなどが多く混入している籾の場合	
補 足	もち米等の胴割れしやすい品種を乾燥する場合には、“マイルド乾燥”を選択してください。
大 切	張込量が 15 石未満の場合には、乾燥はおこなわないでください。熱風温度が下がりがれず、穀物の品質を損なうことがあります。
乾燥終了後は、必ず手持ちの手動水分計で水分を確認し、水分表示誤差を補正してください。	
青米が多く混入している籾を乾燥した場合には、水分が戻る場合がありますので、早めに籾すりをしてください。	
毎年、初回の乾燥時は、停止水分を希望の値よりも高めに設定して運転をおこなってください。	

麦の乾燥について

麦にワラくすなどが多く混入していると、麦の流動性が悪く、循環ムラを起こしやすくなります。極端に多い場合には、乾燥機内の一部に固まって全く流れず発酵することもありますので、乾燥機に投入する前に再選別するなどして取り除いてください。	
大 切	高水分（25% 以上）の麦は、刈り取らないようにしてください。 高水分の麦を乾燥すると次のような弊害が生じます。 (1) 刈り取り時や乾燥時に発芽障害を起こします。 (2) やわらかいので、脱皮して平たく変形したり粉碎したりなどの被害がでます。 (3) 乾燥時間が長くなり燃料の消費が増大します。 (4) 仕上り時の色や光沢が悪くなります。 (5) 循環ムラをおこすことがあります。
大 切	張込量が 15 石未満の場合には、熱風乾燥はおこなわないでください。 熱風温度が下がりがれず穀物の品質を損なうことがあります。
乾燥終了後は、必ず手持ちの手動水分計で水分を確認し、水分表示誤差を補正してください。	
毎年、初回の乾燥時は、停止水分を希望の値よりも高めに設定して運転をおこなってください。	

小麦の最大張込量は 9,600kg です。それ以上は投入しないでください。乾燥機損傷の原因になります。

コーンの乾燥について（コーン乾燥はコーン専用オプション品を取り付けてください。）

<p>コーン用水分検出器に交換し、エアーホースを接続してください。 エアーが供給されない場合、水分測定ができなくなることがあります。 また、DIN コードと検出器モータコードも接続してください。 ※ 51 ページ参照</p>
<p>投入経路に粗選機がない場合には、張込ホッパーに網を取り付けてください。 コーンコブや土塊が本機内に混入すると繰り出し過負荷になることがあります。</p>
<p>刈取り水分は 25.0%以下でおこなってください。 高水分の場合、損傷粒発生の原因になります。</p>
<p>コーンの最大張込量は 80 石 (9,600kg) です。それ以上は投入しないでください。 乾燥機損傷の原因になります。</p>
<p>最低張込量は 15 石以上 (2,200kg) 入れてください。損傷粒の原因になります。</p>
<p>乾燥終了後は、必ず手持ちの手動水分計でコーンを常温に冷やしてから水分を確認し、必要に応じて水分補正をおこなってください。 コーンが温かい時に手動水分計で測ると水分値が正確に出ない場合があります。</p>
<p>仕上げ水分は 13%前後でおこなってください。過乾燥は損傷粒発生の原因になります。また、仕上げ水分が高いと保存期間が短くなり、カビや腐りの原因になります。 ※国際流通基準水分は 13%です。 ※参考：ケット水分計 830-2 大豆（05 大粒）レンジで 3 回以上計測平均 14.0%以下です。 「必ず冷やしてから、常温で測定してください。」</p>

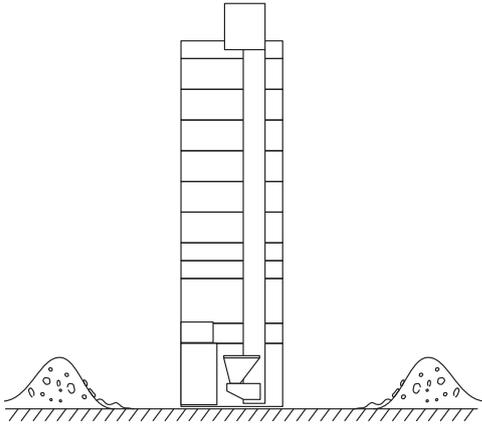
1章 概要説明

●火災予防上の注意事項

火災の原因となりますので、火災予防上の注意事項を守ってください。

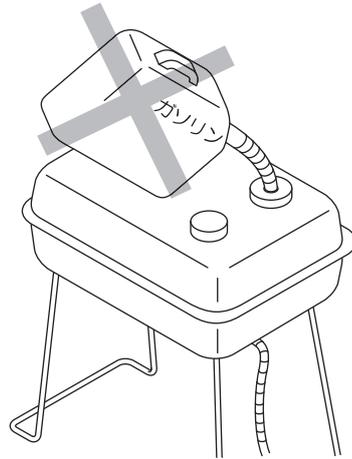
⚠危険

乾燥機の周りにはいつも清掃し、燃えやすいものを置かないでください。

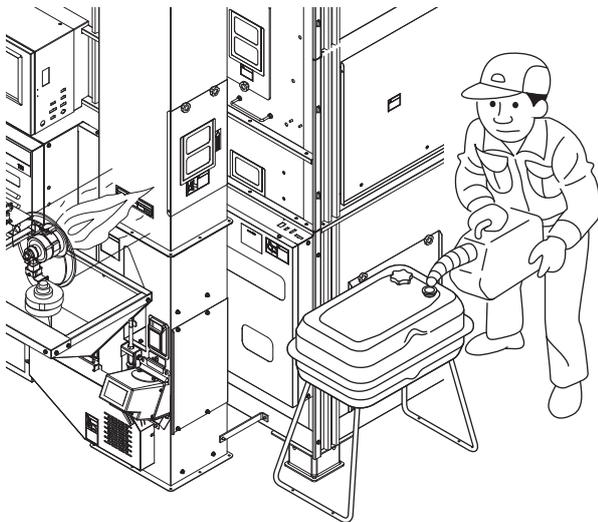


灯油以外の燃料は使用しないでください。

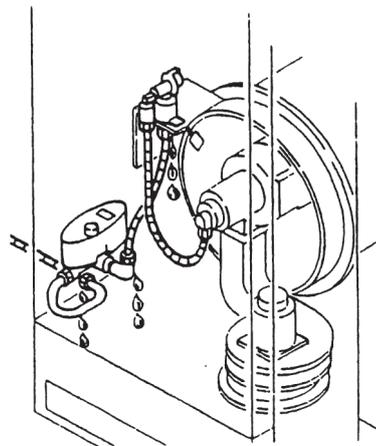
大切



バーナの燃焼中や熱いあいだの給油はおこなわないでください。

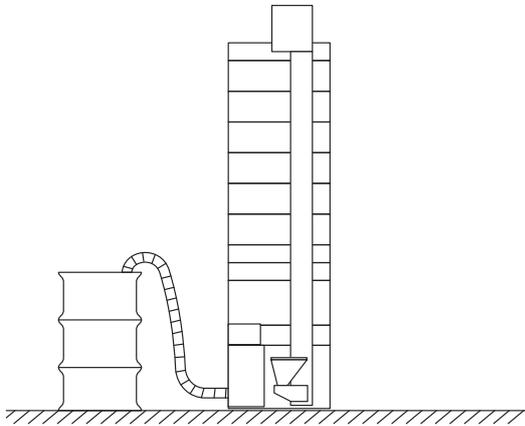


燃料系統部分から油洩れがあるときには、バーナを点火しないでください。

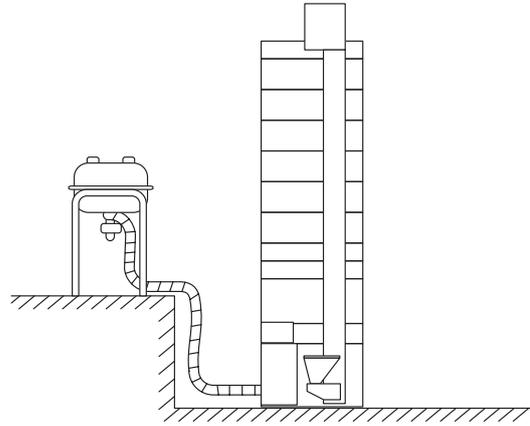


⚠ 危険

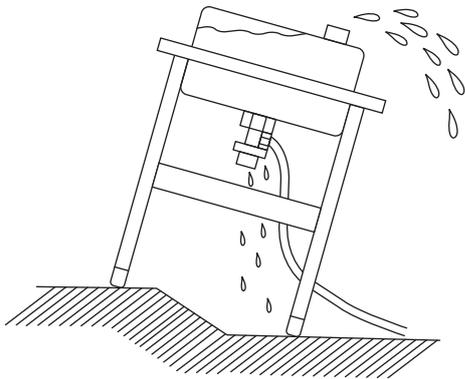
ドラム缶からの配管は、やめてください。



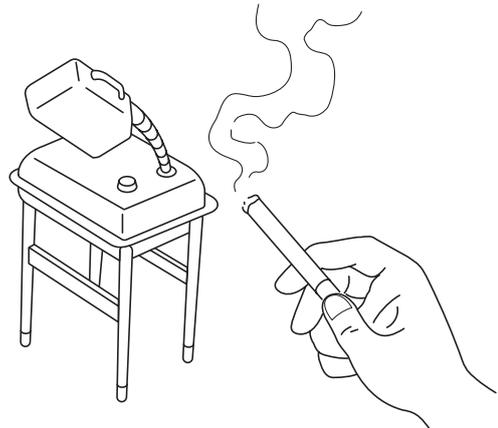
燃料タンクは、本機の据付け面と同一面に据付けてください。



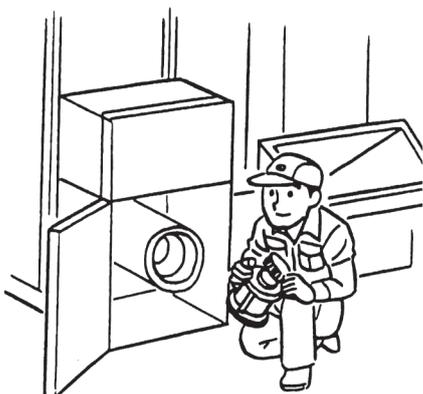
燃料タンクは、水平なところに据付けてください。



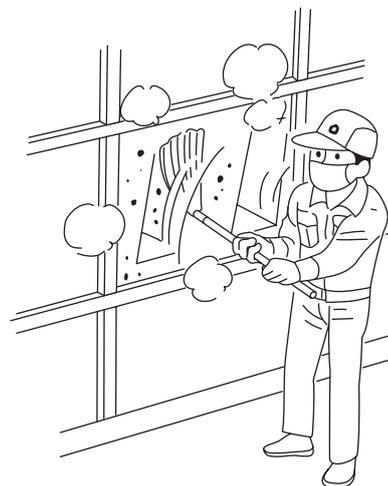
給油時あるいは、燃料系統の点検・整備時には火気を近づけないでください。



定期的にバーナの分解掃除を必ずおこなってください。

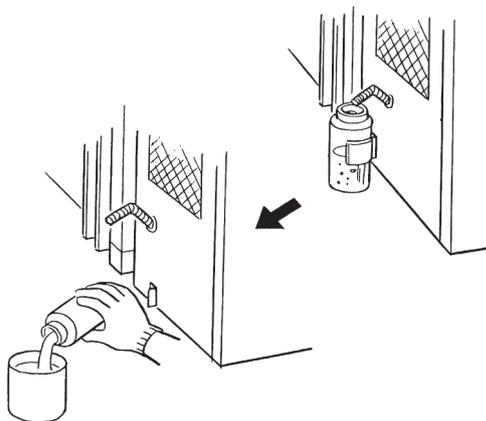


シーズン終了後、本機内の掃除を必ずおこなってください。

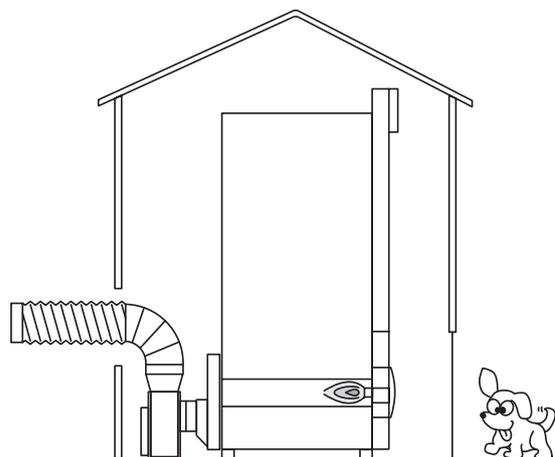


⚠ 危険

油受け容器にオーバーフローした灯油は、あふれる前に処理してください。



バーナが燃焼中は、できるだけ無人運転は避けてください。

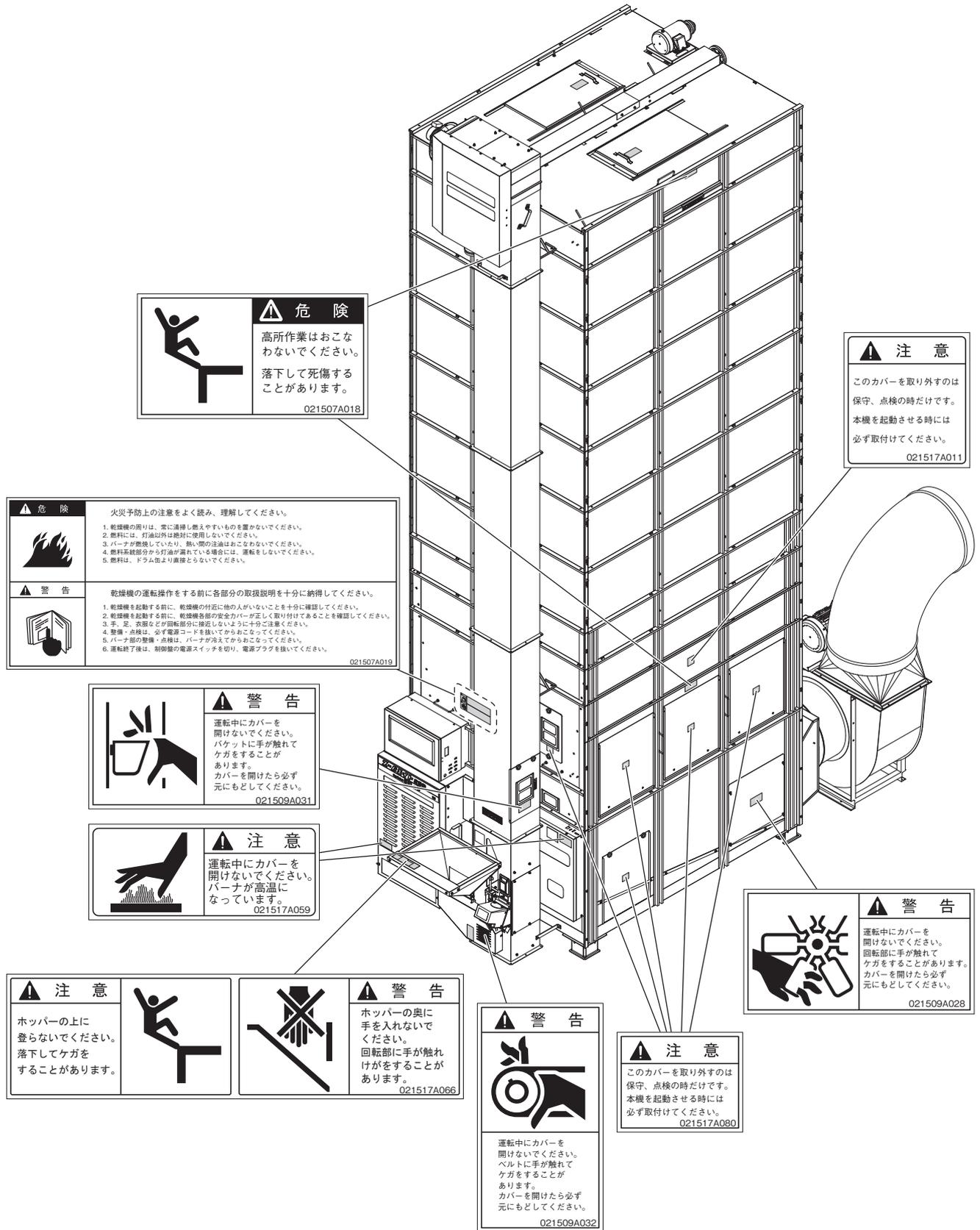


こぼれた燃料は、必ず拭き取ってください。(給油している時、油洩れがあるときなど)

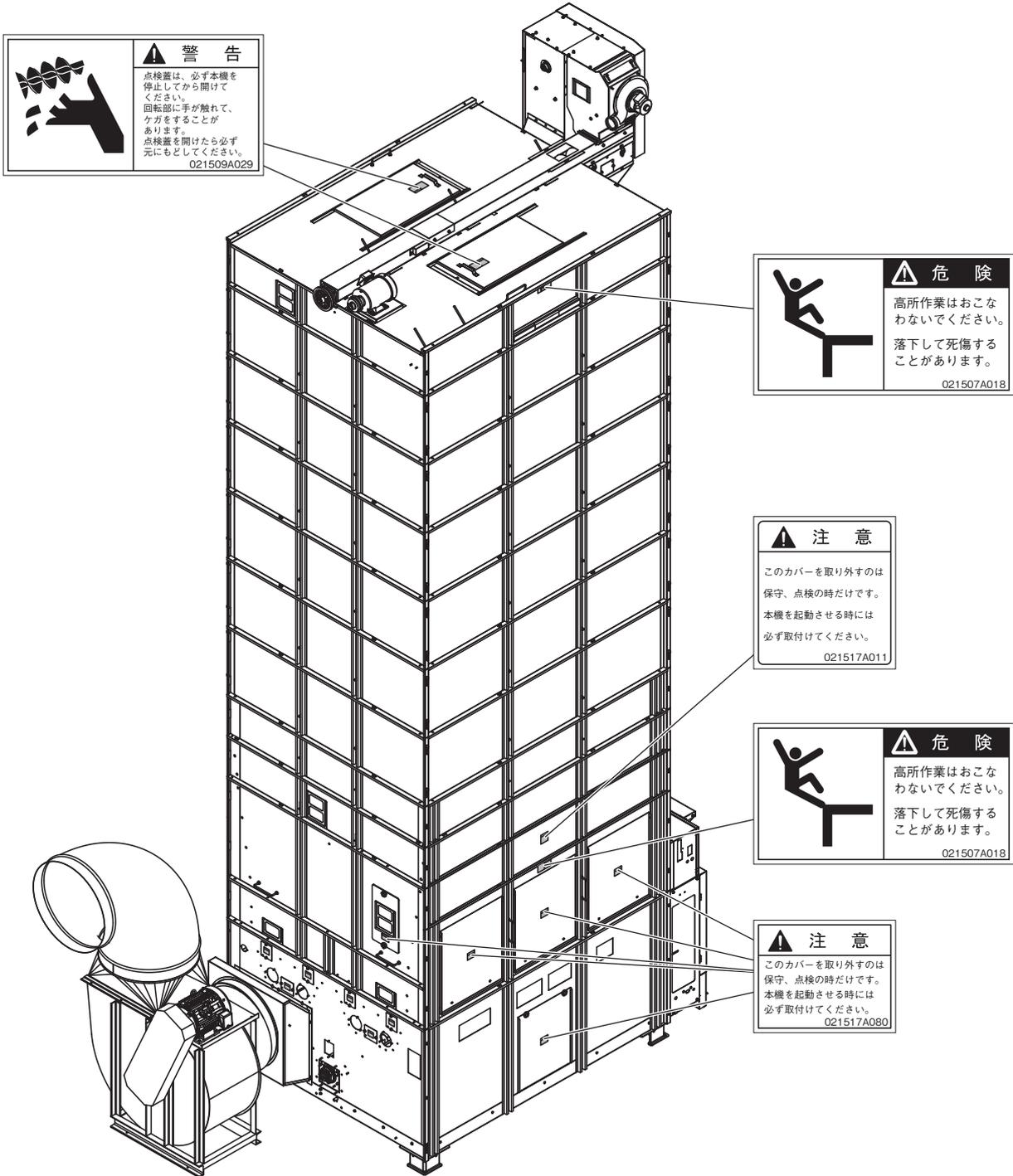
※燃料タンクはオプションです。



●安全ラベル



1 章 概要説明



警告

点検蓋は、必ず本機を停止してから開けてください。回転部に手が触れて、ケガをすることがあります。点検蓋を開けたら必ず元にもどしてください。

Q21509A029

危険

高所作業はおこなわないでください。落下して死傷することがあります。

Q21507A018

注意

このカバーを取り外すのは保守、点検の時だけです。本機を起動させる時には必ず取付けてください。

Q21517A011

危険

高所作業はおこなわないでください。落下して死傷することがあります。

Q21507A018

注意

このカバーを取り外すのは保守、点検の時だけです。本機を起動させる時には必ず取付けてください。

Q21517A080

第 2 章

主要諸元・外觀寸法

2章 主要諸元・外観寸法

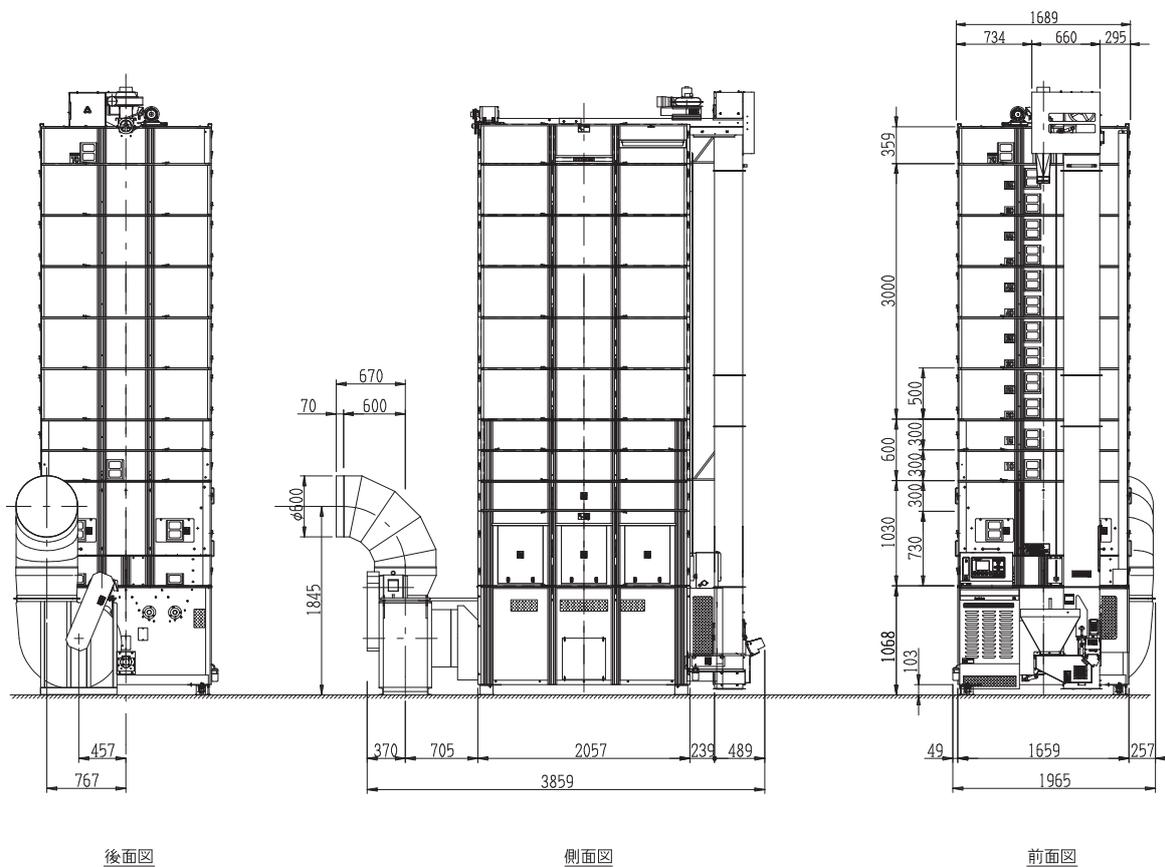
●主要諸元

型 式 名			SEL500	SEL600	SEL700	SEL800	SEL1000
区 分			B5・B6				
穀物の種類 と処理量	粗 穀	容積重 560kg/m ³ kg	1,500 ~ 5,000	1,500 ~ 6,000	1,500 ~ 7,000	1,500 ~ 8,000	1,500 ~ 10,000
	小麦	容積重 680kg/m ³ kg	1,800 ~ 6,000	1,800 ~ 7,200	1,800 ~ 8,400	1,800 ~ 9,600	
機 体 寸 法	全 長	mm	4,039 (昇降機後面時：3,443)				
	全 幅	mm	1,982				
	全 高	mm	5,094	5,594	6,094	6,594	7,594
機 体 質 量 (重量)		kg	1,530	1,600	1,670	1,730	1,870
送 風 機	型 式 名		KLLA-305K				
	種 類		遠心式				
	吐 出 口 径		φ600				
	常 用 回 転 数		1,600				
火 炉	型 式 名		KBR-120-B				
	種 類		ロータリー噴霧式				
	点 火 方 式		自動点火 (セラミックヒータ)				
	燃 焼 量		L/時 3.0 ~ 12.0				
使 用 燃 料		JIS 1号灯油					
燃 料 タ ン ク 容 量		L	-				
所 定 用 格 動 出 力	定 格 電 圧		V 三相 200V				
	搬 送 系 モ ー タ		kw 1.000				
	送 風 機 モ ー タ		kw 3.700				
	繰 出 し モ ー タ		kw 0.090				
	排 塵 機 モ ー タ		kw 0.070				
	バ ー ナ モ ー タ		kw 0.014				
	パ ー ナ フ ァ ン モ ー タ		kw 0.095				
	水 分 計 モ ー タ		kw 0.008				
	排 出 シ ャ ッ タ モ ー タ		kw 0.004				
	コ ン ト ロ ー ラ		kw 0.030				
最大同時使用電力		kw	5.011 (乾燥中：5.007)				
性 能	張 込 時 間	粗 穀	分 20 ~ 23	分 24 ~ 27	分 28 ~ 31	分 32 ~ 35	分 40 ~ 43
		小麦	分 24 ~ 27	分 29 ~ 32	分 34 ~ 37	分 39 ~ 42	
	排 出 時 間	粗 穀	分 30 ~ 36	分 36 ~ 42	分 42 ~ 48	分 48 ~ 54	分 60 ~ 68
		小麦	分 28 ~ 32	分 34 ~ 38	分 40 ~ 44	分 46 ~ 50	
毎 時 乾 減 率	粗 穀	% / 時 0.4 ~ 0.8 (選択方式)					
	小麦	% / 時 0.7 ~ 1.4	% / 時 0.7 ~ 1.3	% / 時 0.7 ~ 1.2	% / 時 0.7 ~ 1.1		
諸 装 置	安 全 装 置		満量センサ 風圧センサ 外気温センサ 熱風温センサ 穀温センサ 感震センサ 過電流検出装置 ヒューズ 圧力センサ 火災検出器				
	運 転 制 御 方 式		穀物水分による熱風温度制御、乾燥速度制御、外気温による補正制御、水分自動検出停止制御				
	標 準 装 備 品		中央張込ホッパー、自動水分計、自動排出シャッター、除塵装置、排風エルボ、定レベル装置				
そ の 他 別 売 部 品		排出用スロワ、側面張込ホッパ、昇降機後面時延長コード、梯子					

備考 昇降機後面組付時には、別途に『昇降機後面時延長コード』が必要になります。

※主要諸元・形態は予告なく変更する事があります。

●外觀寸法



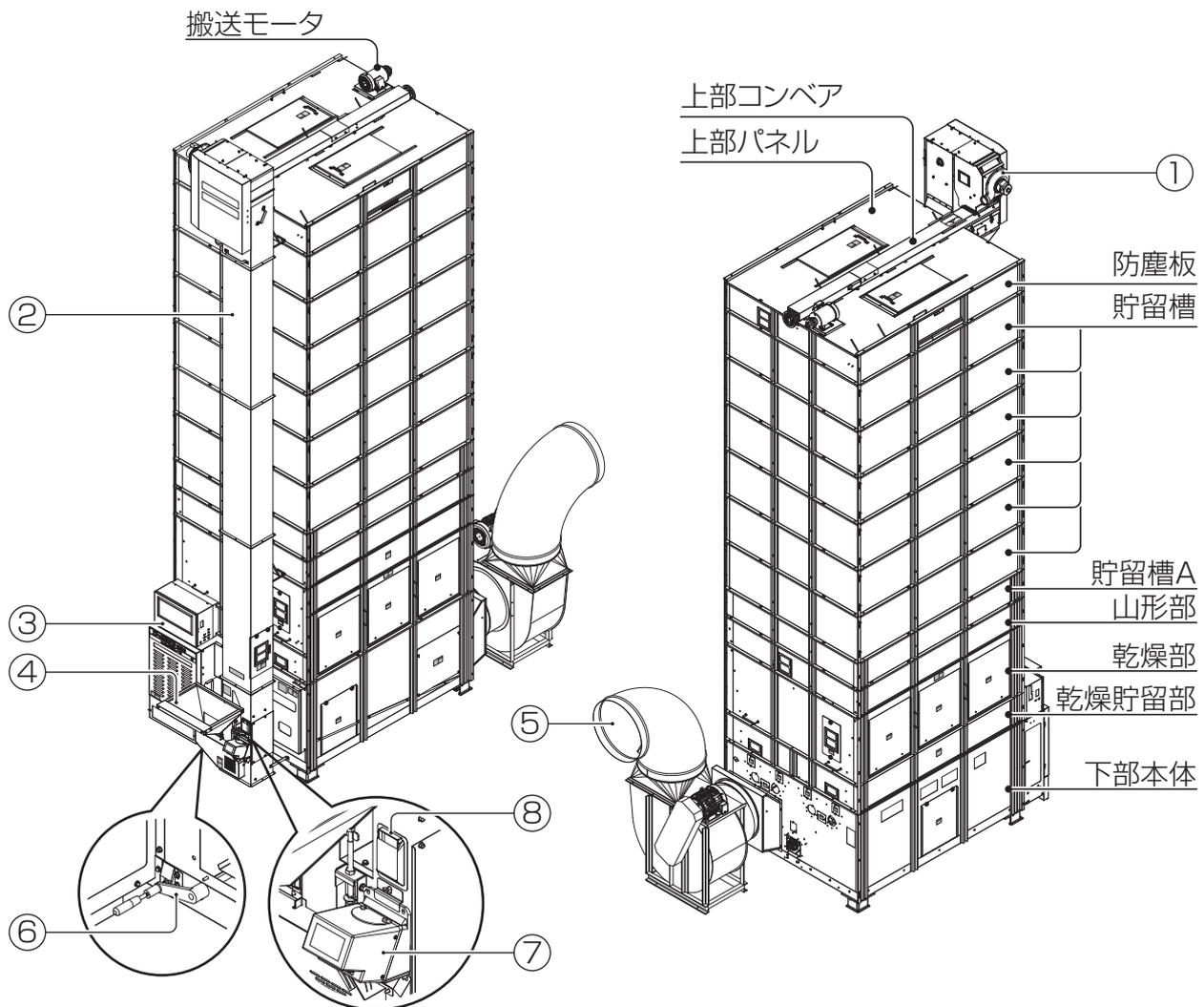
第3章

各部の名称と働き

3章 各部の名称と働き

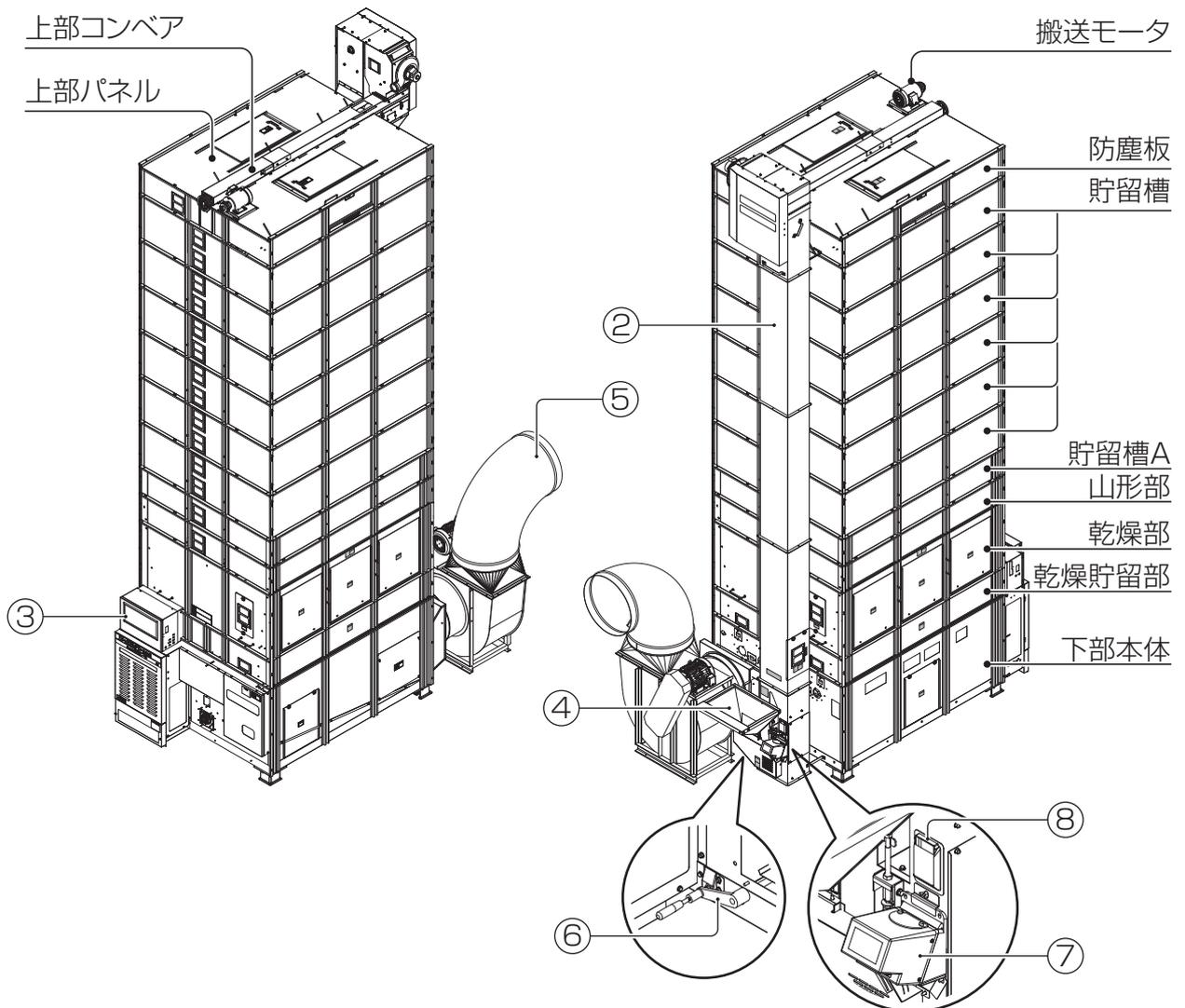
●本機の名称と働き

昇降機前面組付時



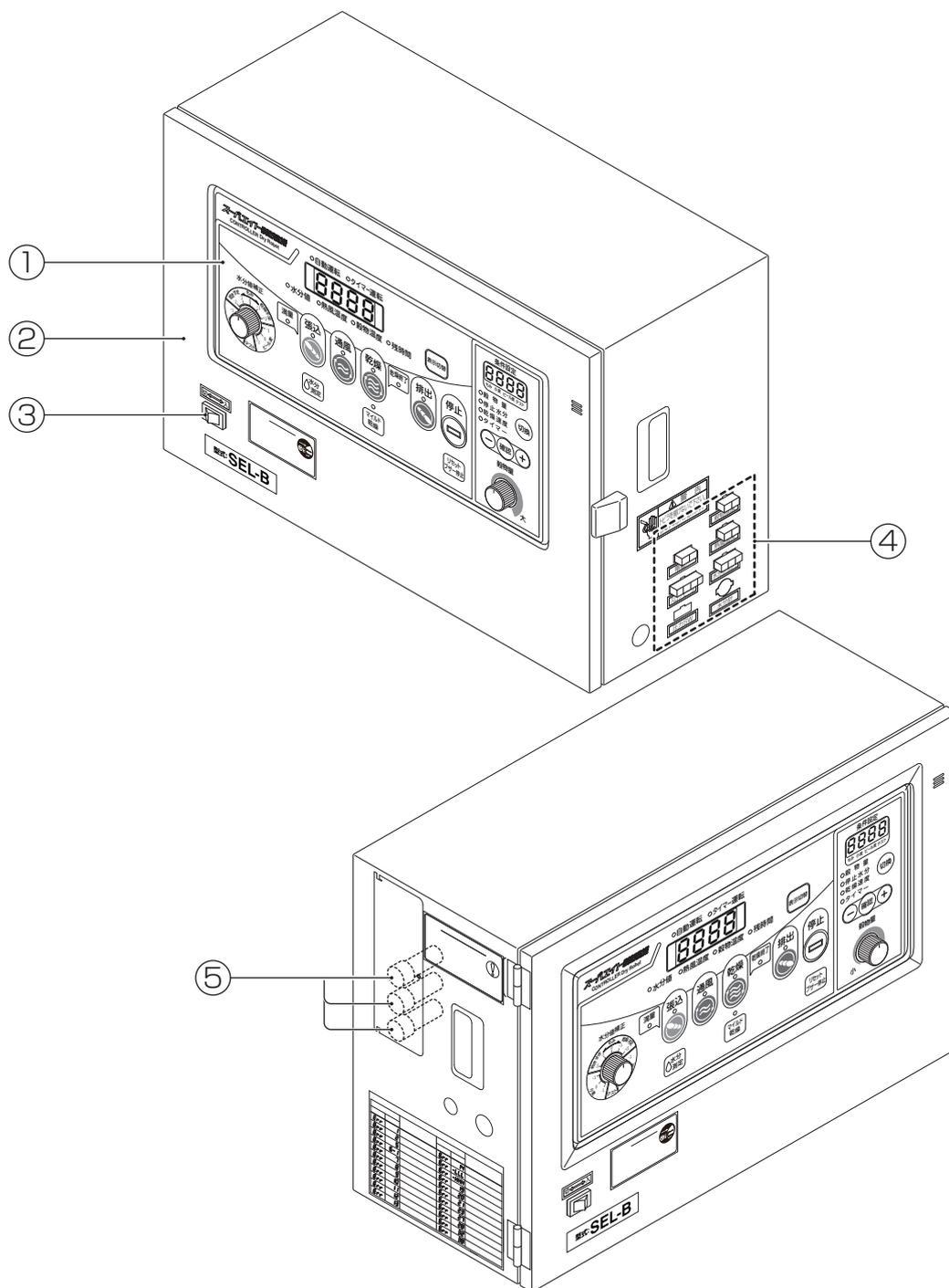
No.	名称	働き
①	排 塵 機	穀物に混入しているゴミ・ホコリを取り除きます。
②	昇 降 機	内蔵されているバケットで穀物を下から上に搬送します。
③	制 御 盤	ボタン操作で本機の起動、バーナの点火をおこなうことができます。 (詳細は p.28 を参照ください。)
④	中央張込ホッパ	ここから穀物を張り込みます。
⑤	送 風 機	穀物に当たっている熱風を吸引すると共にゴミ・ホコリを取り除きます。
⑥	下部コンベア 残米処理レバー	下部コンベア樋内部の残留物を取り除くことができます。
⑦	水分検出器	穀物の水分を測定します。
⑧	サンプル容器	乾燥中の穀物の取り出しができます。

昇降機後面組付時



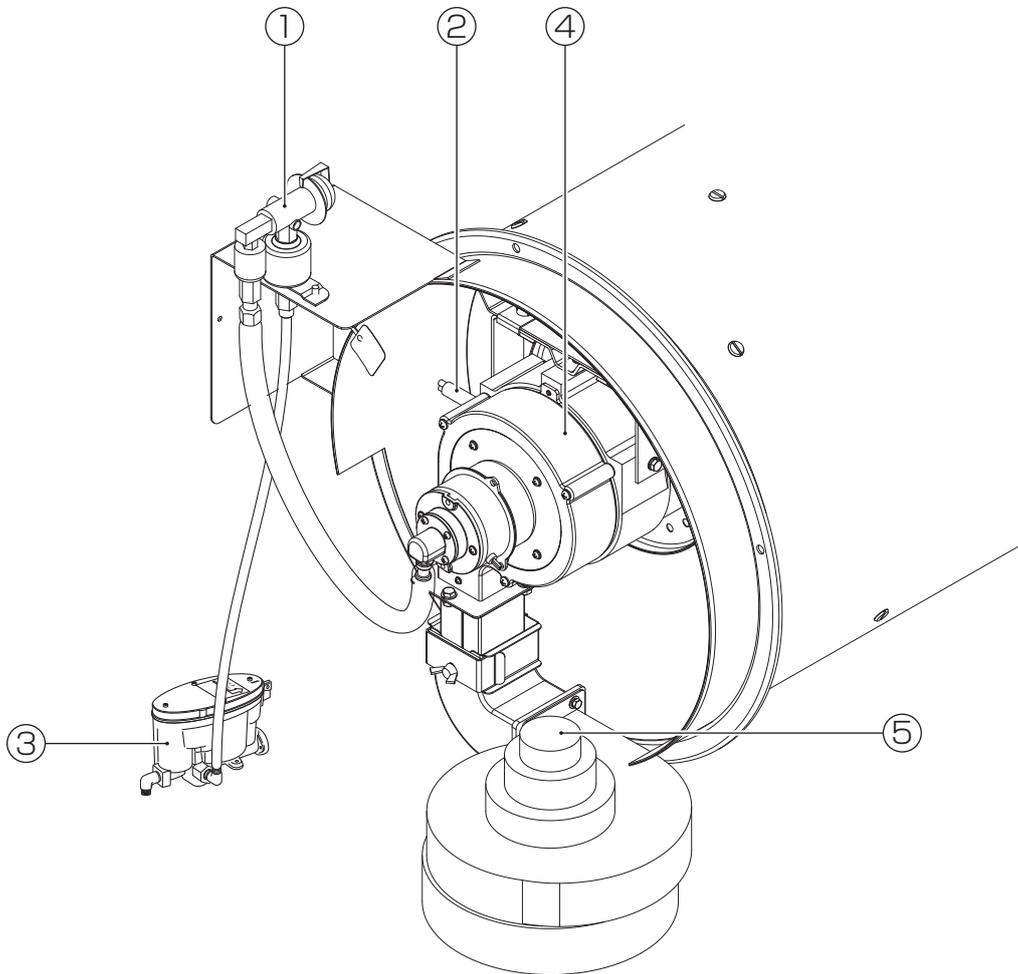
3章 各部の名称と働き

●制御盤の名称と働き



No.	名称	働き
①	操作パネル	乾燥条件を設定、および本機を稼働することができます。
②	正面カバー	制御盤内へのゴミ・ホコリやネズミの侵入を防ぎます。
③	電源スイッチ	制御盤の電源を“入” / “切” できます。
④	電源入力コネクタ	各電源をここからとります。
⑤	ヒューズホルダ	電源・リレー電源・排塵機のヒューズホルダがあり、管ヒューズが内蔵されています。

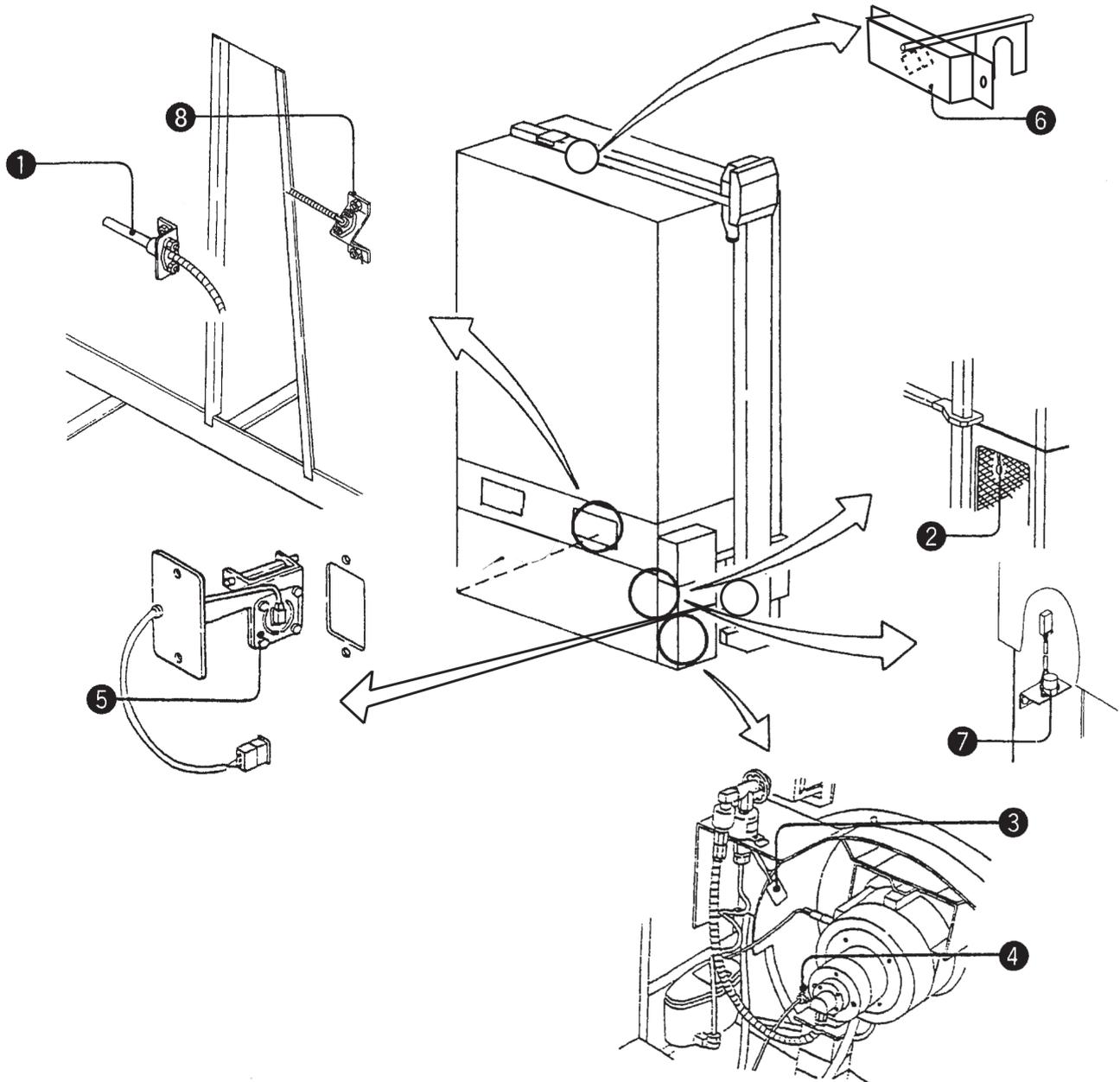
●バーナ部の名称と働き



No.	名称	働き
①	電 磁 ポ ン プ	定レベル装置から灯油をくみあげ、バーナ回転部側に吐出します。
②	点 火 ヒ ー タ	着火時、赤熱しバーナ部回転部から噴霧された灯油に引火します。
③	定 レ ベ ル 装 置	ポンプにかかる油圧を一定に保ち、安定した油量をポンプに供給する装置です。
④	バ ー ナ 回 転 部	乾燥中、回転しながらポンプから吐出された灯油を噴霧し続けます。
⑤	バ ー ナ フ ァ ン	バーナ回転部に適切な燃焼空気を送ります。

3章 各部の名称と働き

●安全装置とセンサ類の働き

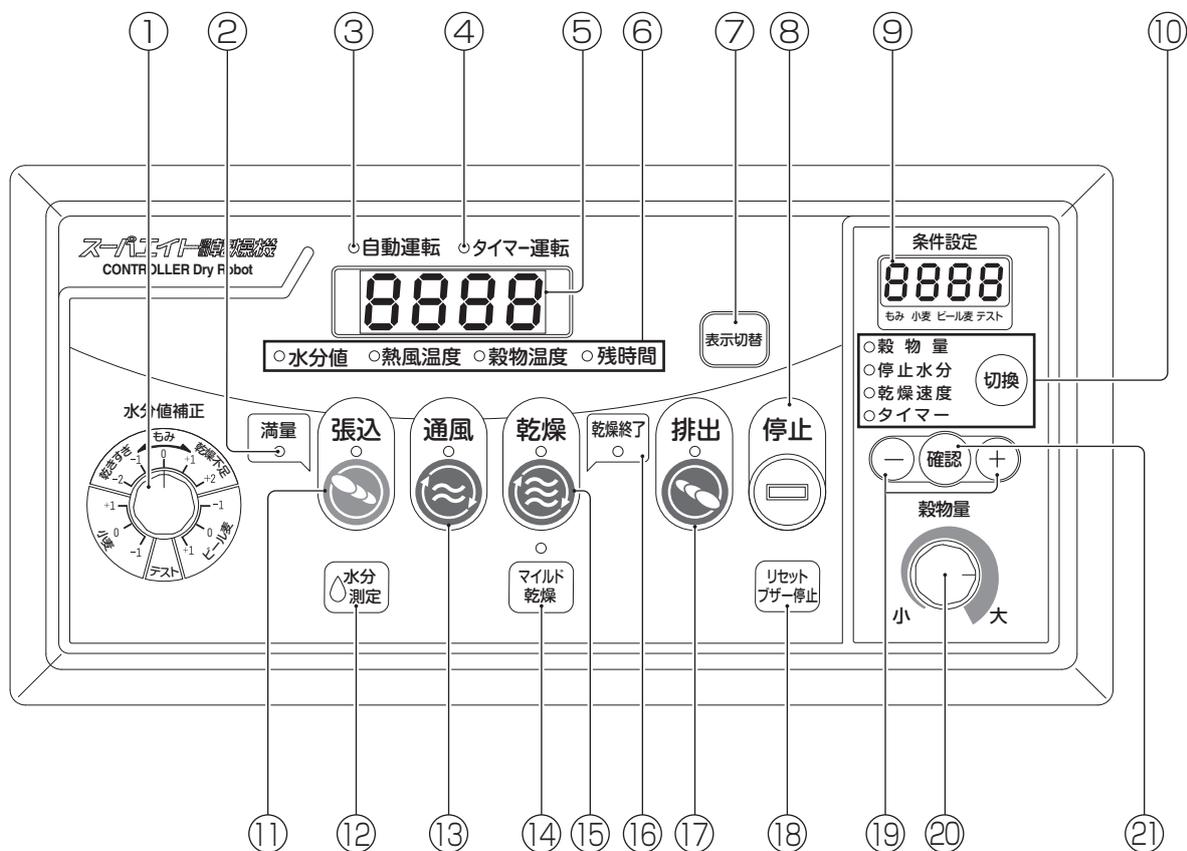


3章 各部の名称と働き

No.	名称	働き
①	熱風温度センサ	常時、熱風温度を検知し、熱風温度が80℃以上になるとポンプを停止し、バーナを消火します。
②	外気温度センサ	常時、外気温度を検知し、バーナの燃焼コントロールをしています。
③	風圧センサ	バーナ燃焼中、なんらかの原因で風量が減少した場合にポンプを停止し、バーナを消火します。
④	フレームアイ	常時、バーナの燃焼状態を検知し、なんらかの原因でバーナの火が消えるとポンプを停止し、バーナを消火します。
⑤	圧力センサ	駆動ベルトが切損し、下部コンベア上に穀物が滞留した場合に作動し、本機を停止します。
⑥	満量センサ	穀物が最大張込量に達すると作動し、満量のメッセージを表示し、ブザー音で知らせます。
⑦	感震センサ	地震を感知し、ポンプを停止し、バーナの火を消します。
⑧	穀物温度センサ	10分毎に穀物温度を検知し、ある温度に達すると、自動的に熱風温度を下げます。

3章 各部の名称と働き

●操作パネルの名称と働き



3章 各部の名称と働き

No.	名称	働き
①	水分値補正ダイヤル	乾燥する穀物の種類を選択することができます。 水分値の補正ができます。
②	満量ランプ	最大張込量に達成するとランプが点灯します。
③	自動運転ランプ	通風または乾燥ボタンを押すと、ランプが自動的に点灯します。
④	タイマー運転ランプ	各運転ボタンを押し、タイマー運転の稼働時間を設定するとランプが点灯します。
⑤	表示部	水分値・熱風温度・穀物温度・残時間のデータを表示します。
⑥	表示ランプ	ランプが点灯し、表示部に各データを表示します。
⑦	 「表示切替」ボタン	1回押すごとに、水分値・熱風温度・穀物温度・残時間のランプの点灯する位置が変わります。 補足 運転状態によって、ランプの点灯する位置が異なります。
⑧	 「停止」ボタン	本機の停止およびバーナを消火することができます。
⑨	条件設定画面	穀物量・停止水分・乾燥速度・タイマーのデータを表示します。
⑩	 「切替」ボタン	1回押すごとに、穀物量・停止水分・乾燥速度リミット・タイマーのランプの点灯する位置が変わります。
⑪	 「張込」ボタン	穀物を張り込むことができます。
⑫	 「水分測定」ボタン	運転中に現在の水分値を確認することができます。
⑬	 「通風」ボタン	穀物に風を送りながら循環することができます。
⑭	 「マイルド乾燥」ボタン	マイルド乾燥の設定ができます。
⑮	 「乾燥」ボタン	バーナが着火し、穀物に熱風を送りながら、循環することができます。
⑯	乾燥終了ランプ	乾燥が終了すると、ランプが点灯します。 補足 タイマー運転は点灯しません。
⑰	 「排出」ボタン	穀物を排出することができます。
⑱	 「リセット・ブザー停止」ボタン	押すとブザー音を止めることができます。再度押すと異常メッセージを消すことができます。
⑲	 「-・+」ボタン	設定する値を小さく・大きくすることができます。
⑳	穀物量ダイヤル	張り込んだ穀物の穀物量を設定することができます。
㉑	 「確認」ボタン	変更した値を設定することができます。

3章 各部の名称と働き

●内部構造と穀物の流れについて

上部コンベア

昇降機で搬送された穀物を奥に送り、貯留槽に落とします。

搬送モータ

上部・下部コンベア、昇降機を起動させます。

③搬送モータベルト

①昇降機上部ベルト

昇降機バケット

下部コンベアで昇降機に送られた穀物をすくい上げ、下から上に運びます。

ベルトサイズ一覧表

	50Hz	60Hz
①昇降機上部	LA-55	LA-55
②昇降機下部	LA-48	LA-48
③搬送モータ	A-36	A-36
④送風機	A-61	A-59

駆動チェーン

④送風機ベルト×2本

繰出しロール

乾燥部内の穀物を回転して定量を下部コンベアに落とします。

②昇降機下部ベルト

繰出しモータ

駆動チェーンを回転させて繰出しロールを回します。

下部コンベア

繰出しロールから落ちた穀物を昇降機に送ります。

← 穀物の流れ

第4章

据付け

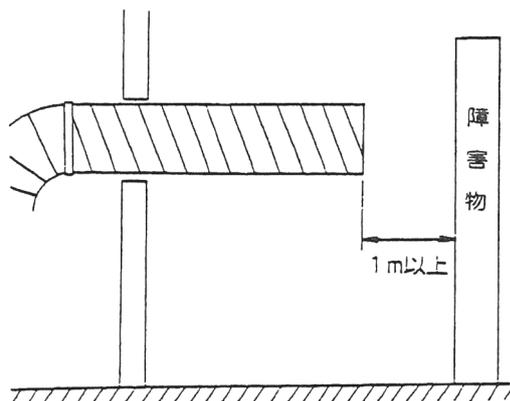
4章 据付け

●据付け上の注意事項

⚠危険

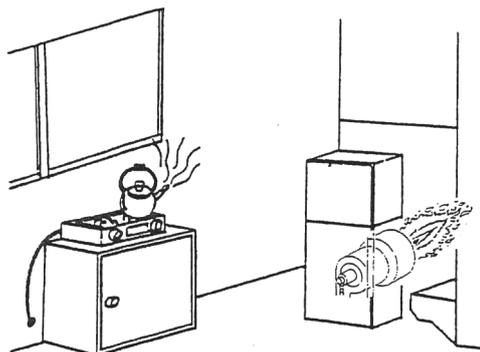
水平な場所で機体重量に耐えられる場所に据付けてください。

排風ダクトは、まっすぐに張ってください。
また、先端から 1m 以内に障害物を置かない
てください。



風量が低下し、バーナにカーボンが付着しやすくなり、火災の原因になります。

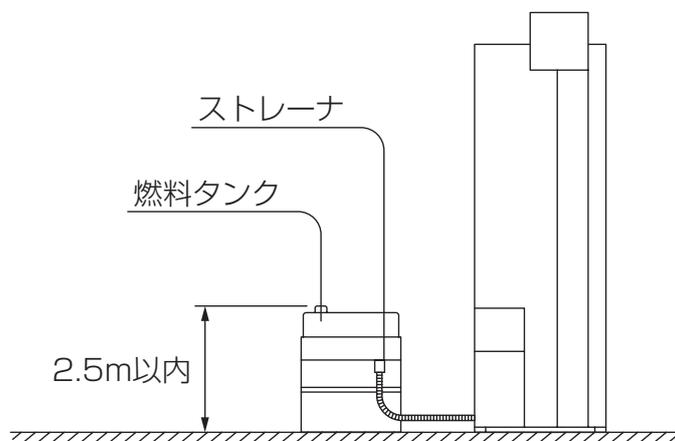
可燃性ガスを使用している機器を、製品の据付けてある作業所には設置しないでください。



万一、ガスが漏れて製品の周囲に溜まると、引火して火災の原因になります。

灯油用燃料タンクを据付ける場合には次の項目を守ってください。

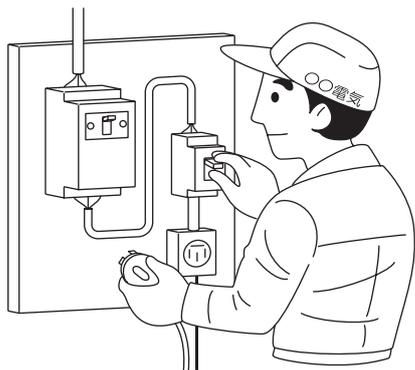
- ①給油時の油面の高さが、本機据付け面から 1 ~ 2.5m の範囲内にある燃料タンクを据付けてください。
- ②燃料タンクと定レベル装置の間に付属のストレーナを設置してください。
- ③同一の燃料タンクから 2 台以上の乾燥機に、燃料を供給する場合には鉄管で配管してください。尚、鉄管の配管はお買い上げの販売店あるいは弊社営業所にお問い合わせください。



バーナの失火あるいは火災の原因になります。

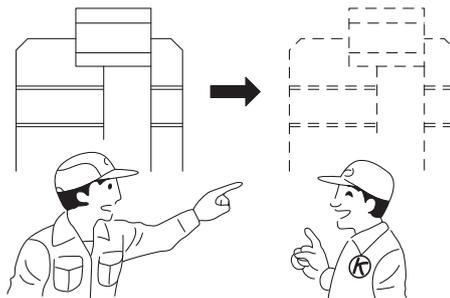
警告

据付け後、元電源の契約電力の確認および屋内の配線の点検を、必ず、電気工事店にお願いしてください。



電気回路容量不足や施工不備があると、感電・火災の原因になります。

移設するときには、お買い上げの販売店あるいは弊社営業所にご相談ください。



据付けに不備があると、感電・火災の原因になります。

付属のアース線を必ず取り付けてください。

アース線はガス管・水道管・避雷針・電話のアース線に接続しないでください。

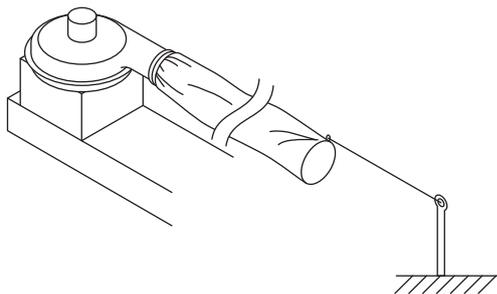


アース線を取り付けないと感電の原因になります。

4章 据付け

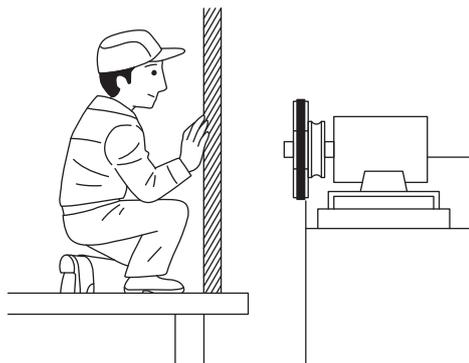
⚠ 注意

排塵ダクトは、ねじったり、曲げたり、先端を絞ったりしないでまっすぐに張ってください。



ゴミ・ホコリの抜けが悪くなったり、排塵機モータが焼損する原因になります。

作業所の中2階があるときには、搬送モータ周辺の駆動部に手が触れないように防護措置を施してください。



搬送モータ周辺の駆動部に手・足が触れてケガの原因になります。

第5章 操作説明

(コーンを乾燥する場合はコーン専用のオプション品が必要になります。)

5章 操作説明

●運転の種類と動作

(コーンを乾燥する場合はコーン専用のオプション品が必要になります。)

運転の種類には、“自動運転” および “タイマー運転” の2つがあり、各運転における動作は次のようになります。

○自動運転とは

- ①穀物種類、穀物の水分値に応じて定期的に水分測定をおこない、停止水分以下の水分値になると自動的にバーナを消火し、本機を停止します。
- ②乾燥中の熱風(バーナ出力)を自動制御し、穀物温度の上昇をおさえ、胴割れを防止します。

1. 自動運転

① (張込) ボタンを押す。

- (1) 昇降機、上部・下部コンベア、送風機、排塵機が稼働し、穀物を投入することができます。
- (2) 最大張込量に達すると満量ランプが点灯しブザーが鳴ります。
- (3) 1分後に自動停止(裏モードで変更可)します。

② (通風) ボタンを押す。

- (1) 昇降機、上部・下部コンベア、送風機、繰り出しロール、排塵機が稼働し、穀物の通風循環が開始されます。
- (2) 検出器ロールが回転し、水分測定をおこないます。水分測定は、穀物の種類に応じて決められた間隔(p.54 参照)で自動的におこなわれます。
- (3) 設定した停止水分値以下の水分値を連続2回検出すると本機が停止します。

③ (乾燥) ボタンを押す。

- (1) 昇降機、上部・下部コンベア、送風機、繰り出しロール、排塵機が稼働します。また、バーナが着火します。
- (2) 検出器ロールが回転し、水分測定をおこないます。水分測定は、穀物の種類に応じて決められた間隔(p.58 参照)で自動的に水分測定がおこなわれます。
- (3) 設定した停止水分値以下の水分値を連続2回検出するとバーナが消火し、5分間の冷却運転をします。

※冷却時間は1時間・2時間・連続の選択が裏モードでできます。

お買い上げの販売店あるいは弊社営業所にお問い合わせください。

④ (排出) ボタンを押す。

- (1) 昇降機、上部・下部コンベア、送風機、繰り出しロール、排出シャッタ、排塵機が稼働します。

補 足 契約電力によっては張込・排出時に送風機を停止することもできますので、お買い上げの販売店あるいは弊社営業所にお問い合わせください。

○タイマー運転とは

設定した稼働時間が経過すると本機が停止します。また、乾燥時にはバーナ消火後、本機が停止します。

補足 タイマー運転時は、自動的に水分計が作動しません。水分を確認する場合には、

 ボタンを押してください。

2. タイマー運転

①  (張込) ボタンを押す。

- (1) 昇降機、上部・下部コンベア、送風機、排塵機が稼働し、穀物を投入することができます。
- (2) 設定した稼働時間が経過すると、本機が停止します。

②  (通風) ボタンを押す。

- (1) 昇降機、上部・下部コンベア、送風機、繰出しロール、排塵機が稼働し、穀物の通風循環が開始されます。
- (2) 設定した稼働時間が経過すると、本機が停止します。

③  (乾燥) ボタンを押す。

- (1) 昇降機、上部・下部コンベア、送風機、繰り出しロール、排塵機が稼働します。また、バーナが着火します。
- (2) 設定した稼働時間の残時間が5分になるとバーナが消火し、約5分後に本機が停止します。
また、冷却時間は1時間・2時間・連続の選択ができます。

④  (排出) ボタンを押す。

- (1) 昇降機、上部・下部コンベア、送風機、繰り出しロール、排出シャッタ、排塵機が稼働します。
- (2) 設定した稼働時間が経過すると本機が停止します。

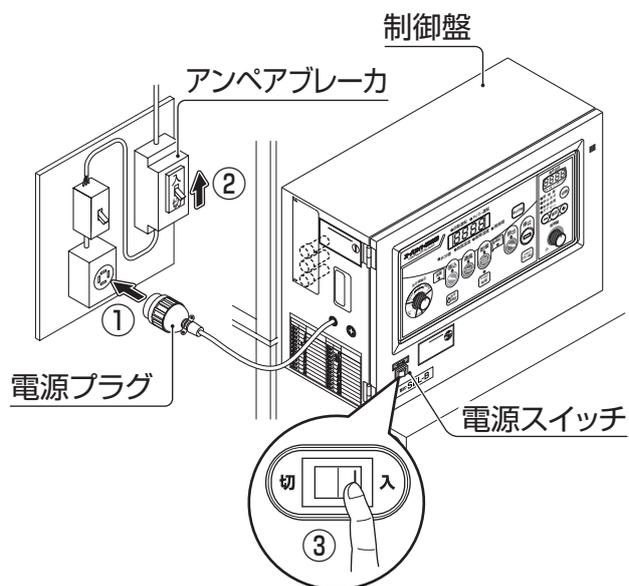
補足 契約電力によっては張込・排出時に送風機を停止することもできますので、お買い上げの販売店あるいは弊社営業所にお問い合わせください。

5章 操作説明

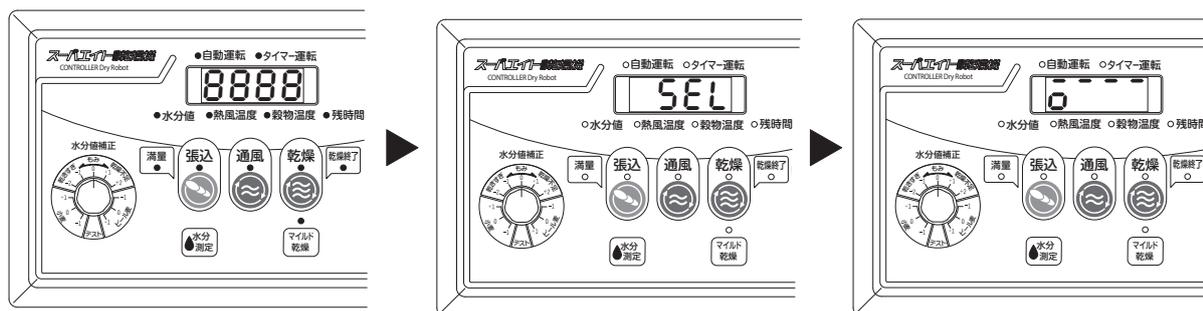
●電源の入れ方

電源を入れてから制御装置の自己診断が終了すると、本機を始動することができます。

- ① 電源プラグを制御盤に差し込んでください。
- ② アンペアブレーカを“ON”または“入”にしてください。
- ③ 制御盤の電源スイッチを押して、“入”の状態にしてください。

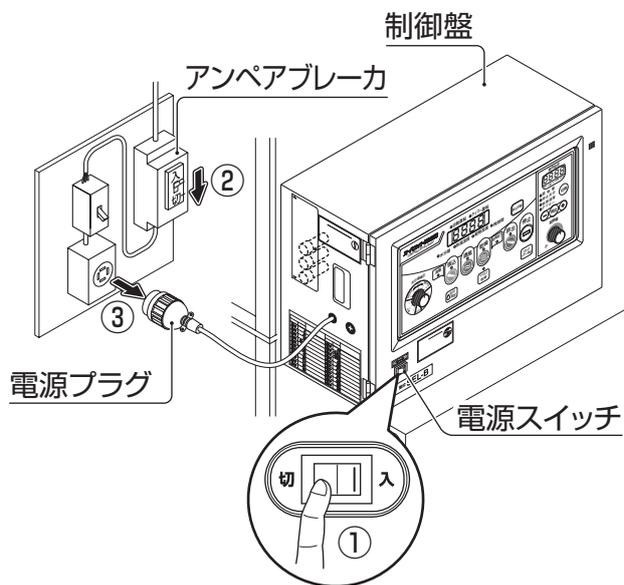


▶電源を入れると、操作パネルのランプ点灯表示が次のように変わります。



●電源の切り方

- ① 制御盤の電源スイッチを押して、“切”の状態にしてください。
- ② アンペアブレーカを“OFF”または“切”にしてください。
- ③ 電源プラグを制御盤から抜いてください。



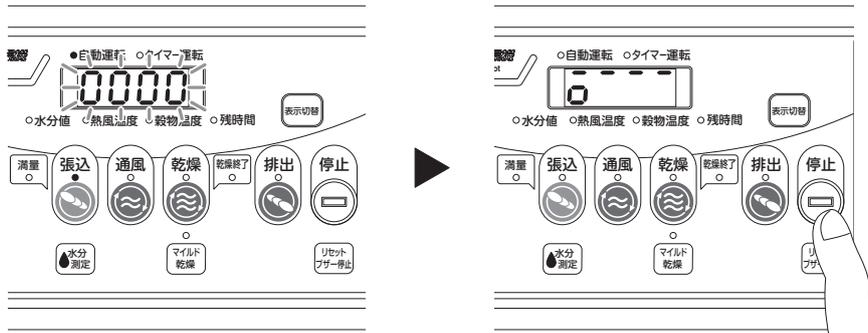
●本機の停止とバーナの消火

「本機を停止する」あるいは「バーナを消火する」には、次の運転操作をおこなってください。

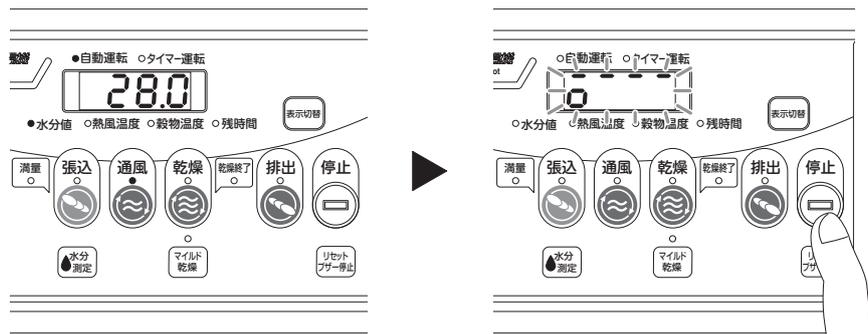
本機を停止する場合は、（停止）ボタンを押します。

※本機を停止した時の、操作パネルの状態を以下に示します。

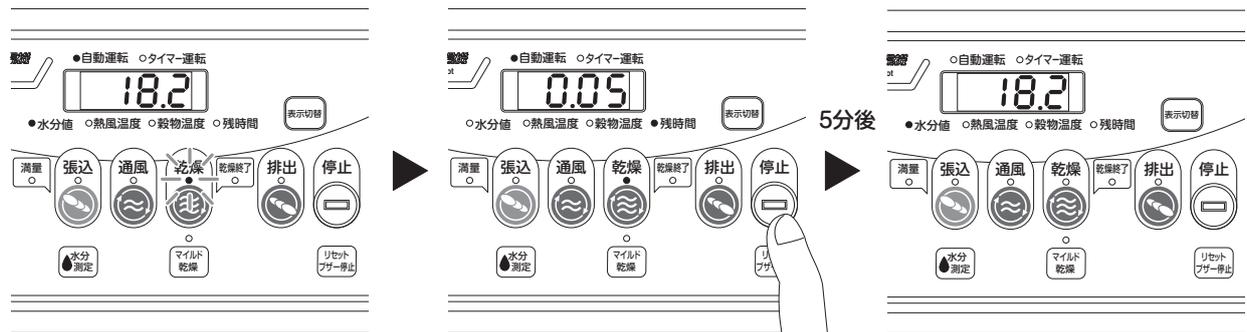
◇ 張込み中に停止



◇ 通風循環中に停止



◇ 乾燥中に停止



バーナが消火し、約5分後に本機が自動停止します。また、バーナ消火後すぐに本機を停止する場合には、再び （停止）ボタンを押してください。

ただし、送風機は5分間稼働し続けます。

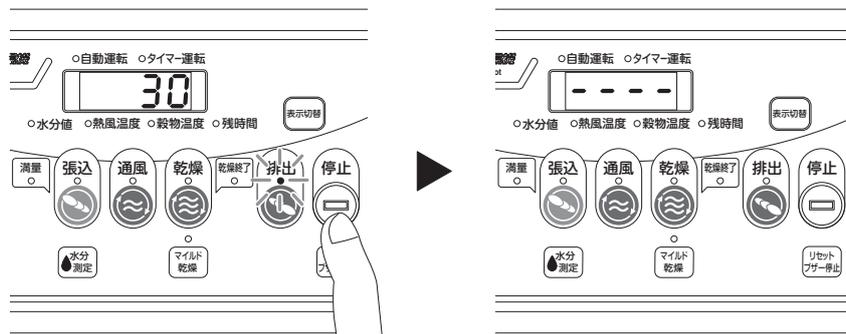
補足

本機停止までの時間は、出荷時・5分間に設定してあります。

裏モードにより冷却時間を **0.05**（5分）、**1.00**（1時間）、**2.00**（2時間）、**ALL**（連続）と選択することができます。

5章 操作説明

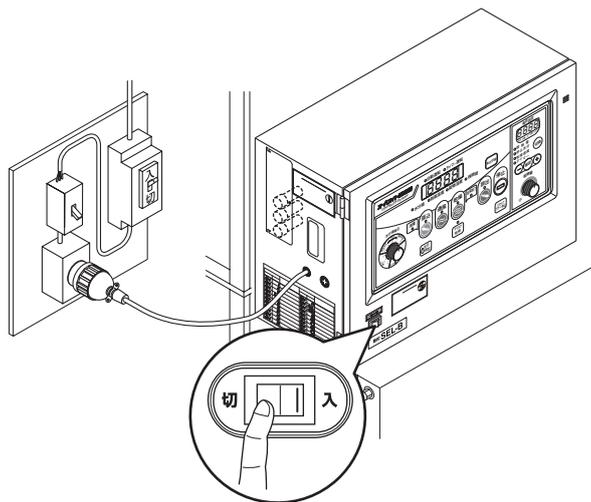
◇ 排出中に停止



補足 粉詰まり防止のため、本機停止後約 30 秒間空運転してから自動停止になります。

◇ 非常停止

制御盤の電源スイッチを押して、“切”の状態にしてください。



大切

非常停止以外に電源スイッチで本機の停止、あるいは、バーナの消火を行わないでください。粉詰まりやバーナ構成部品の損傷につながる可能性があります。

●乾燥条件について

操作パネル上のダイヤルあるいは、ボタン操作によって設定可能範囲内で変更することができます。

乾燥条件	設定可能範囲	変化幅
穀物量	10～100	1石ずつ変化します。
停止水分	11.0～23.0	0.1%ずつ変化します。
タイマー	1～24.00	1分ずつ変化します。

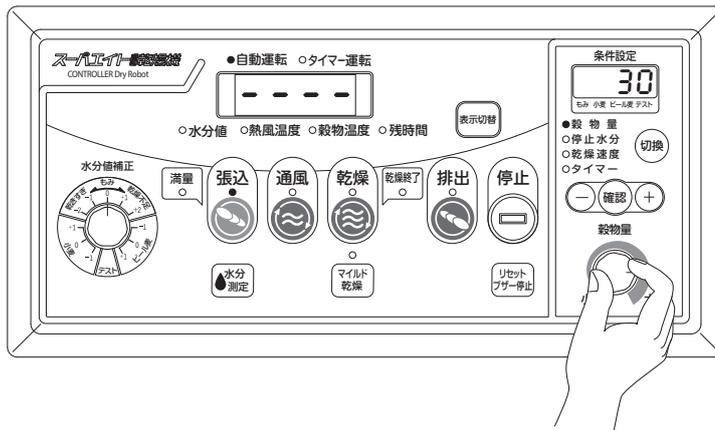
乾燥条件の変更のしかた

■ 穀物量

- ① (張込)・(通風)、あるいは (乾燥) ボタンを押してください。
- ② 穀物量ダイヤルを回して、表示部に表示されている値を、希望の穀物量にあわせてください。

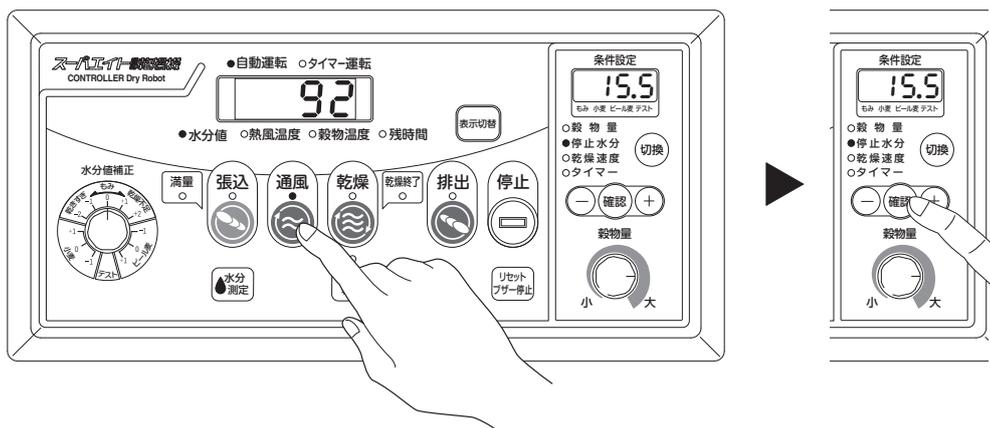
補足

穀物量ダイヤルを回すと、自動的に「穀物量」ランプが点灯し、条件設定画面に穀物量が表示されます。



■ 停止水分

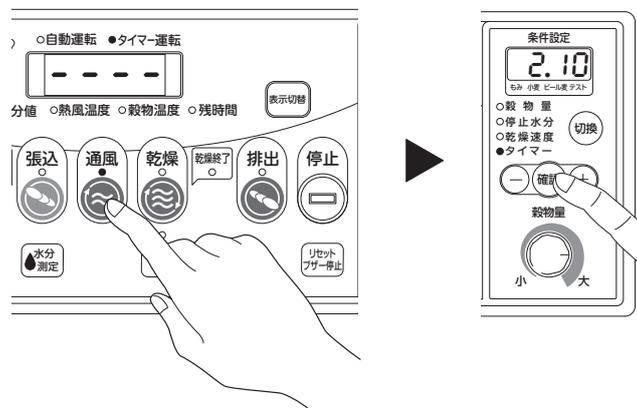
- ① (通風)、あるいは (乾燥) ボタンを押してください。
- ② 切換 (切替) ボタンで「停止水分」にあわせ、確認 (確認) ボタンを押してください。
- ③ (+)・(-)ボタンで希望の水分値にあわせ、確認 (確認) ボタンを押してください。



5章 操作説明

■ タイマー

- ① 各運転ボタンを押して起動します。
- ② **切換** (切替) ボタンを押して、「タイマー」にあわせ、**確認** (確認) ボタンを押してください。
- ③ **+**・**-** ボタンで希望の稼働時間にあわせ、再度 **確認** (確認) ボタンを押してください。
- ④ 希望の運転ボタンを押してください。自動的に「残時間」、「タイマー運転」ランプが点灯し、表示部に稼働時間が表示されます。
- ⑤ 稼働時間が1カウント(1分)ずつカウントダウンし、**E.E.E.E.** の表示で本機が停止します。



●乾燥機能と付属機能

(コーンを乾燥する場合はコーン専用のオプション品が必要になります。)

乾燥機能には“マイルド乾燥”があります。

また、付属機能として“乾燥速度の設定”と“温度調整”と“水分微調整”の3つがあり、各運転における動作は次のようになります。

■乾燥機能

1. マイルド乾燥

もち米や胴割れしやすい品種および水分ムラの多い穀物を乾燥する場合に有効となります。また、早刈り麦を乾燥する、あるいは発芽率の低下防止や水分ムラの緩和をはかる上で有効となります。

マイルド乾燥の制御

設定してある乾燥速度リミットの約30～50%減の乾燥速度で穀物が乾燥されます。

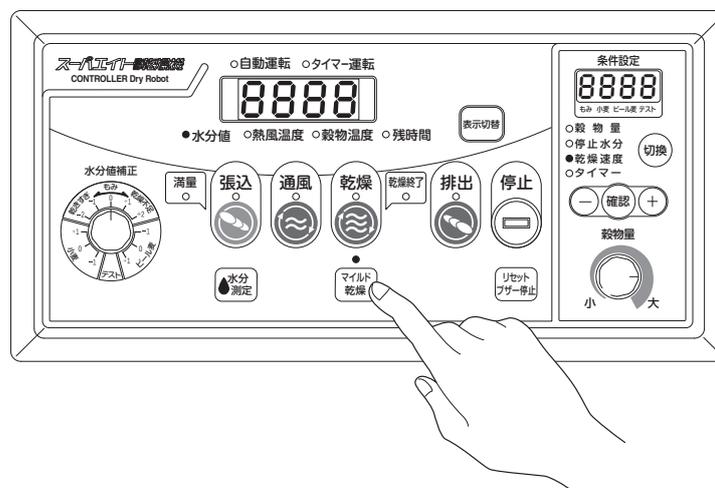
穀物種類	測定水分値	設定風温リミット
小麦・コーン	30.0% 以上	上限 50℃
	20.0～29.9% 以上	上限 55℃
	20.0% 未満	上限 60℃
粳(テスト) ビール麦	20.1% 以上	上限 40℃
	20.1% 未満	上限 45℃

マイルド乾燥の設定のしかた

 (マイルド乾燥) ボタンを押す。ランプが点灯すれば設定完了です。

マイルド乾燥の解除のしかた

 (マイルド乾燥) ボタンを押す。ランプが消灯すれば解除となります。



5章 操作説明

■付属機能（コーンを乾燥する場合はコーン専用のオプション品が必要になります。）

1. 乾燥速度

設定した乾燥速度を超えないように、バーナの燃焼制御をおこないます。
乾燥速度は、穀物の性状にあわせて選択することができます。

穀物種類	動作モード	乾燥速度	基準温度比	副表示
粉 (テスト)	自動	定温	- 5 °C	- . -
		0.8%/時	± 0 °C	0.8
		0.7%/時	- 2 °C	0.7
		0.6%/時	- 5 °C	0.6
		0.5%/時	- 7 °C	0.5
	0.4%/時	- 10 °C	0.4	
	タイマー	定温固定	± 0 °C	- . -
小麦・コーン	自動/タイマー	定温固定	± 5 °C	- . -
ビール麦	自動/タイマー	定温固定	± 0 °C	- . -

大切

以下のような場合は、乾燥速度を低く設定してから乾燥をおこなってください。

- ・ 胴割れしやすい品種および水分ムラの多い穀物を乾燥する場合
- ・ 早刈り麦を乾燥する場合
- ・ 発芽率の低下防止や水分ムラの緩和をはかる場合

大切

最大張込時の乾燥能力と、最低張込時の乾燥能力は違います。

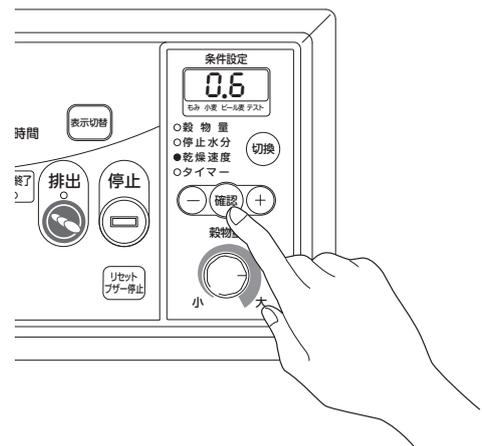
- 【例】 SEL700型 張込量 50石の場合 … 0.4 ~ 0.6%/時
 (粉乾燥時) 張込量 20石の場合 … 0.6 ~ 0.8%/時

大切

もち米等の胴割れしやすい品種は、“マイルド乾燥”を選択してください。

□ 乾燥速度の設定のしかた

- ① (切替) (切替) ボタンを押し、乾燥速度に合わせ、
 (確認) (確認) ボタンを押します。
- ② (+)・(-) ボタンで希望の値に合わせ、(確認) (確認) ボタンを押します。



基準熱風温度（温度補正 0℃の場合）

外気温度 穀物量	5℃	10℃	15℃	20℃	25℃	30℃	35℃
26	29	31	34	37	40	43	48
30	30	32	35	38	41	45	49
35	32	34	37	39	43	46	50
40	33	36	38	41	44	47	51
45	35	38	40	43	46	49	53
50	37	39	42	44	47	50	54
55	39	41	43	46	49	52	55
60	41	43	45	47	50	53	57
65	43	44	46	49	52	55	58
70	44	46	48	50	53	56	59
75	46	48	50	52	54	57	61
80	48	49	51	53	56	59	62
85	50	51	53	55	57	60	64
90	51	53	54	56	58	62	66
95	53	54	55	56	57	60	63
100	55	56	57	59	61	64	69

2. 温度調整

- 乾燥速度の設定のしかた

お買い上げの販売店、あるいは弊社営業所にお問い合わせください。

3. 水分微調整

水分微調整機能によって、水分測定値の差を $[-0.5\% \sim +0.5\%]$ の範囲内で修正することができます。

補足 乾燥機での水分測定値と実水分値の差を水分値補正ダイヤルで修正しきれない時に、水分微調整で修正します。

- 水分微調整の使い方

- ① **切替**（切替）ボタンを押し、ランプ表示のない状態にします。
- ② 0.0 が表示されている状態で、**+**・**-** ボタンで希望の値に合わせ、**確認**（確認）ボタンを押します。

補足 1) 出荷時は“0”に合わせてあります。

- 2) 水分微調整を変更すると、連動して表示水分値が変わります。



5章 操作説明

●シーズン前に

乾燥機を使用する時期が近づきましたら、次のことをおこなってください。

1. 点検・整備一覧表 (p.72 参照) にもとづき、点検・整備をおこなってください。
2. 燃料タンクに燃料を注油してください。
3. 燃料ホースのエア抜きをおこない、定レベル装置に接続してください。

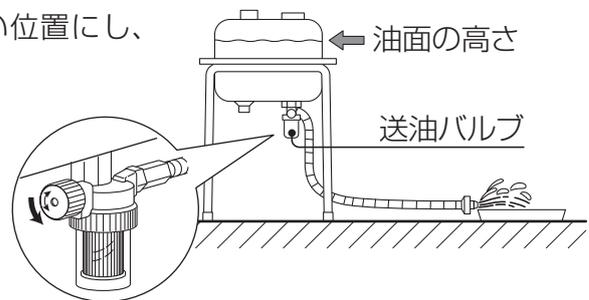


警告

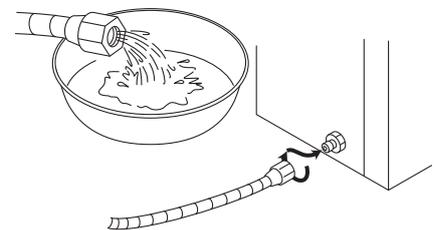
燃料ホースのエア抜きをおこなうときには、あらかじめ受皿とウエス等を準備してください。
また、エア抜き時にこぼれた燃料(灯油)は、必ず拭き取ってください。
燃料(灯油)がこぼれたままの場合、火災の原因となります。

エア抜きのしかた

- ① 燃料ホースを、燃料タンクの油面より低い位置にし、送油バルブを完全に開いてください。



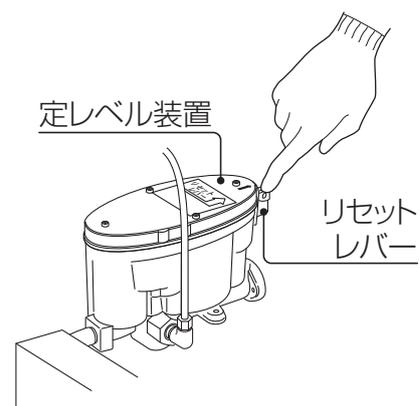
- ② 燃料ホースから灯油が吐出するのを確かめてから、定レベル装置に装着してください。



- ③ 低レベル装置のリセットレバーを押してください。

補足

リセットレバーを押さないと、灯油が定レベル装置に入りませんので、バーナが点火しません。



大切

穀物を投入せずに運転する場合には、水分補正值ダイヤルを回して必ず「テスト」にあわせてください。「テスト」にあわせず運転した場合には、表示部に次のように表示されます。

- 循環時…………… - L L L
- 乾燥時…………… - L L L (水分値ランプ点灯)

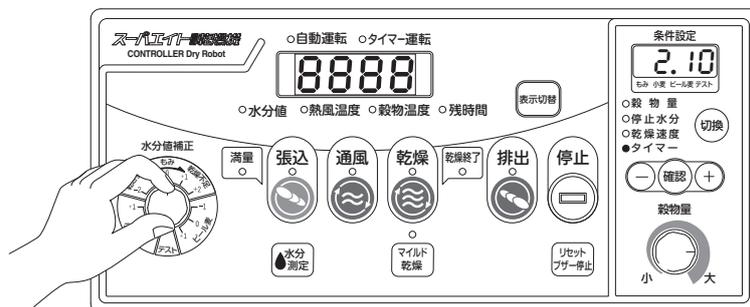
● 始動の前に

(コーンを乾燥する場合はコーン専用のオプション品が必要になります。)

乾燥時は、始動に先立ち、次のことをおこなってください。

1. 燃料タンクには、燃料が十分に入っているか確かめてください。
2. 燃料タンク下の送油バルブが完全に開いているか確かめてください。
3. 燃料タンク・燃料ホース・送油バルブから燃料洩れがないか確かめてください。
4. 乾燥機をしばらく使わなかった場合は、ストレーナのエア抜きをしてください。
5. 制御盤の電源を入れ、次の操作をおこなってください。

① 水分補正值ダイヤルを下図の位置に合わせてください。



● 籾を乾燥する場合
もみ・0 にセット



● ビール麦を乾燥する場合
ビール麦・0 にセット



● 小麦を乾燥する場合
小麦・0 にセット



● コーンを乾燥する場合
もみ・0 にセット



※ コーン用検出器に交換すると、自動で「もみレンジ」が「コーンレンジ」共通になります。

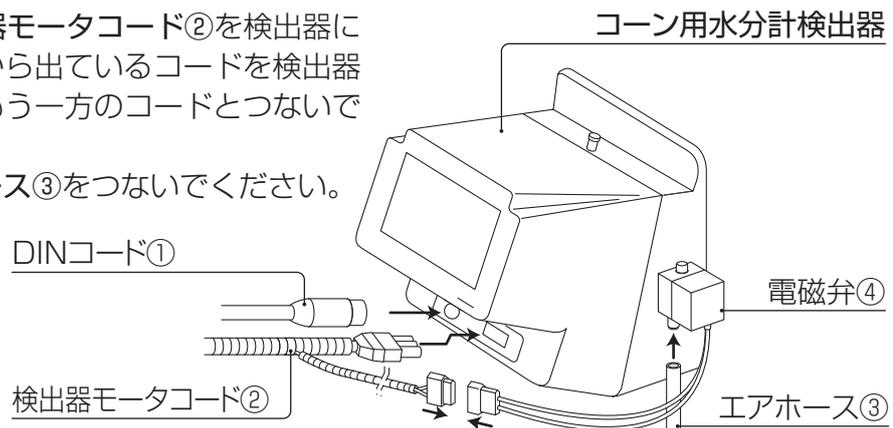
大切

コーンを乾燥する場合は、コーン用水分計検出器に取り替えてください。

コーン用水分検出器への交換

DINコード①と検出器モータコード②を検出器に差し込み、電磁弁④から出ているコードを検出器モータから出ているもう一方のコードとつないでください。

電磁弁④に、エアホース③をつないでください。



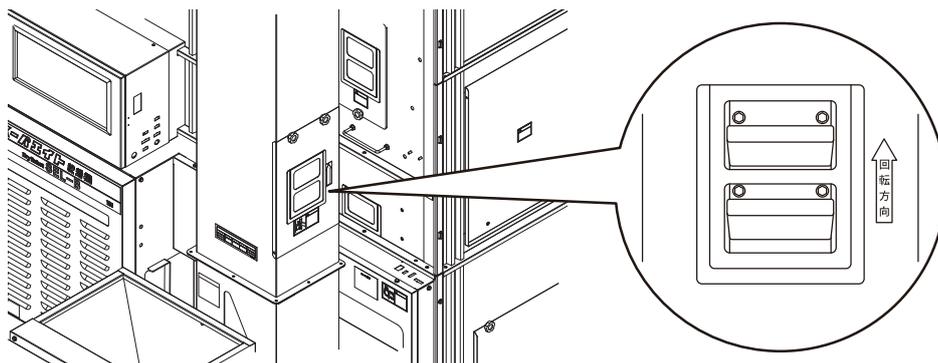
5章 操作説明

② 昇降機の回転方向を確認してください。

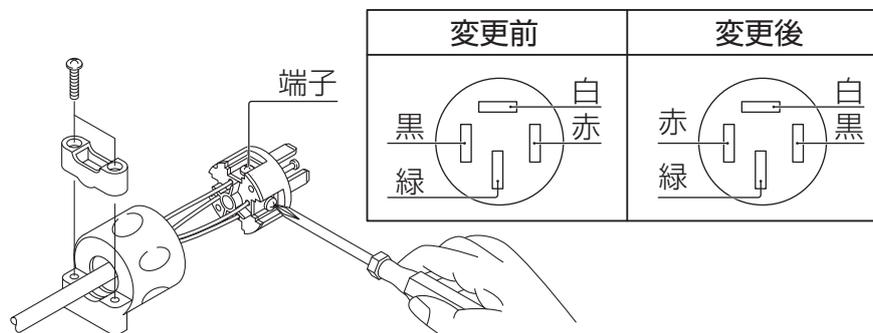
電源コードを新規にした場合や、元電源に数個のコンセントがある場合には、穀物を投入する前に昇降機の回転方向を必ず確認してください。

回転方向の確認のしかた

① (張込) ボタンを押し、昇降機点検窓から回転方向を確認してください。バケットが上方に回転していれば正常です。



回転方向が反対の場合には、必ず電源を切り、片側の電源プラグ内の配線を変えてください。電源プラグ端子に締付けてある赤線と黒線を入れ替え、端子を締付けてください。



危険

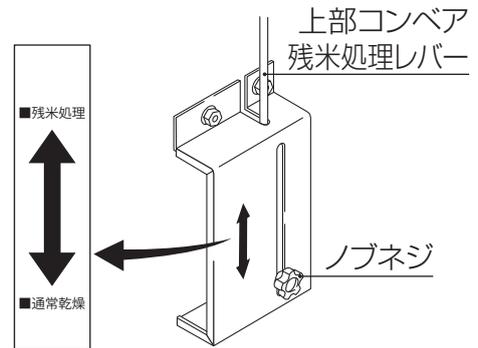
電源プラグ内の配線を変更する場合には、必ず元電源から電源プラグを抜いてください。感電の原因になります。

●穀物の乾燥（自動運転）

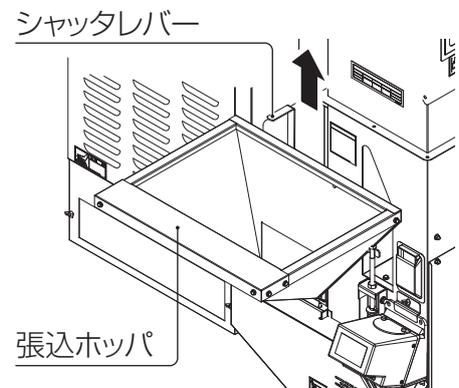
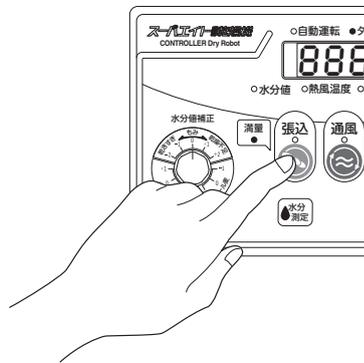
■穀物を張り込む

※コーンを張り込むときはコーン用水分検出器に交換してください。(p.51 参照)

1. 上部コンベア残米処理レバーを“通常乾燥”側に操作し、ノブネジで締め付けてください。



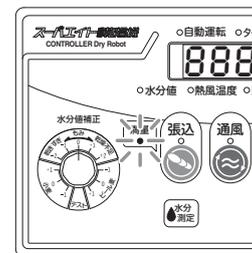
2. (張込) ボタンを押してください。
3. 張込ホップのシャッタレバーを引き上げ、穀物を投入してください。



※最大張込量に達すると“満量”ランプが点灯し、ブザーが鳴ります。1分後に自動停止します。

大切

“満量”ランプが点灯し、ブザーが鳴ったときには、穀物の投入を中止してください。穀物の投入を続けると、詰まりの原因になります。



4. 張込終了後は、必ずシャッタを閉じてください。

大切

穀物にワラくずなどが多く混入していると、穀物の流動性が悪く、乾燥ムラや変質の原因となりますので、乾燥機に投入する前に再選別するなどして取り除いてください。

穀物は刈取り後、直ちに乾燥機に投入し、乾燥する量を全て投入するまでバーナに点火しないで通風循環してください。

5章 操作説明

■ 穀物を通風循環する

大切

- 通風循環状態で、穀物の張込はおこなわないでください。穀物の張込すぎによって、詰まりの原因になります。
- 高水分時（25%以上）の通風循環は、2時間～12時間の間でおこなってください。12時間以上通風循環すると、損傷が出る場合があります。

※コーンを通風循環するときは、コーン用水分計検出器に交換してください。

1. （通風）ボタンを押してください。

自動的に水分測定をおこない、約95秒後に現在の水分値を表示します。

その後、水分測定は穀物の種類と水分値に応じて決められた測定間隔（下図参照）で自動的におこない、約95秒後に現在の水分値を表示します。

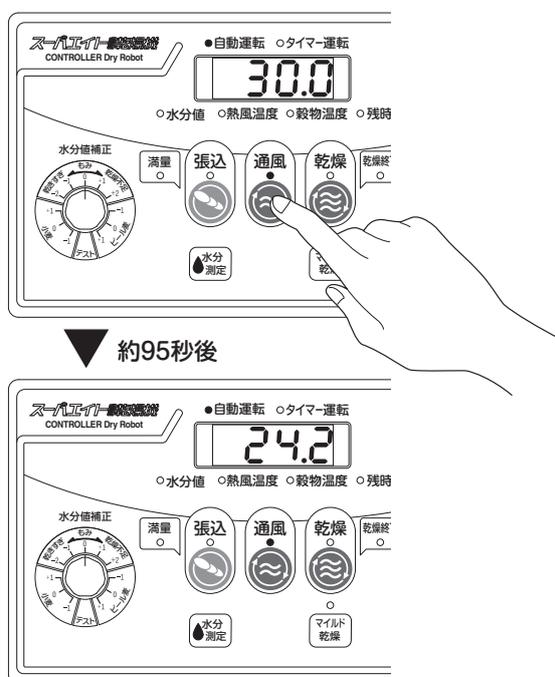
※コーンの水分測定は（下図参照）で自動的におこない、10分後に表示します。

補足

- 1) 水分値の表示は、次回の水分測定時まで変わりません。

現在の水分値を確認したい場合には、（水分測定）ボタンを押してください。（p.56参照）

- 2) 運転中、繰出しローラーは間欠運転となりますが、水分測定中は連続運転となります。



水分測定間隔

○ 粉の場合

停止水分 + X%	測定時間
+1.1%以上	1時間毎
+1.0%以下	10分毎

○ 小麦・ビール麦の場合

停止水分 + X%	測定時間
+13.0%以上	4時間毎
+7.0～12.9%	2時間毎
+1.1～6.9%	1時間毎
+1.0%以下	10分毎

○ コーンの場合

停止水分 + X%	測定時間
+7.0%以上	2時間毎
+1.1～6.9%	1時間毎
+1.0%以下	20分毎

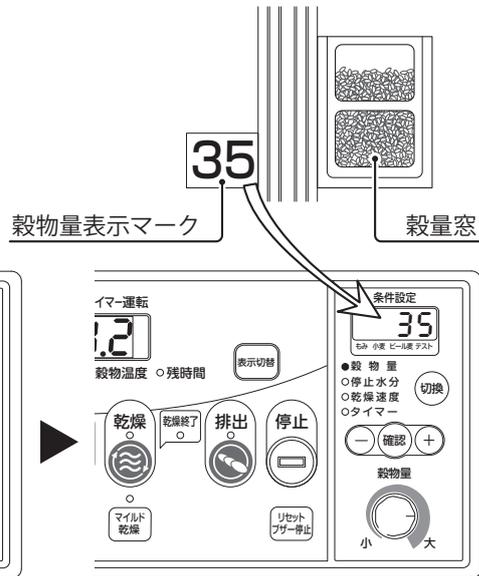
大切

穀物が高水分の場合、長時間に渡り通風循環し続けると変色する恐れがあります。

- 穀物量ダイヤルを回し、張り込んだ穀物量にあわせてください。
自動的に「穀物量」ランプが点灯し、条件設定画面に穀物量が表示されます。

穀物量のあわせかた

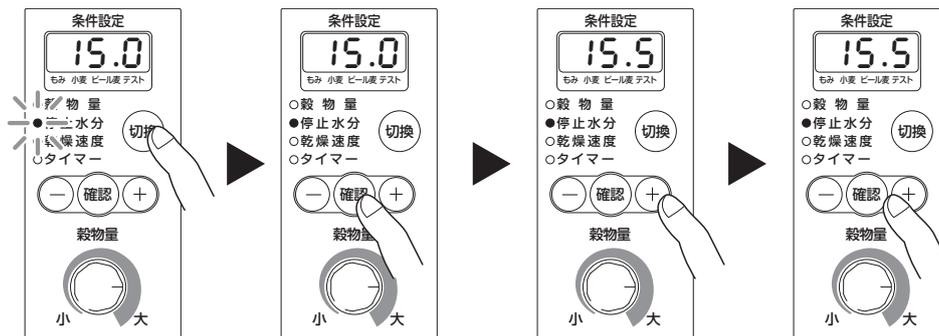
- 貯留槽前面の穀量窓から穀物の量を確認し、穀量窓横の穀物量表示マークの値を確認してください。
- 穀物量ダイヤルを回し、条件設定画面に、①で確認した値をあわせてください。



- 条件設定にある (切替) (切替) ボタンを、「停止水分」が点灯するまで数回押し、 (確認) (確認) ボタンを押します。

(-)・(+) ボタンで希望の水分値に合わせ、 (確認) (確認) ボタンを押してください。

停止水分を 15.5%にあわせるには…



大切

毎年、初回の乾燥時には必ず停止水分を希望の値よりも 1%高い値に合わせて運転をおこなってください。

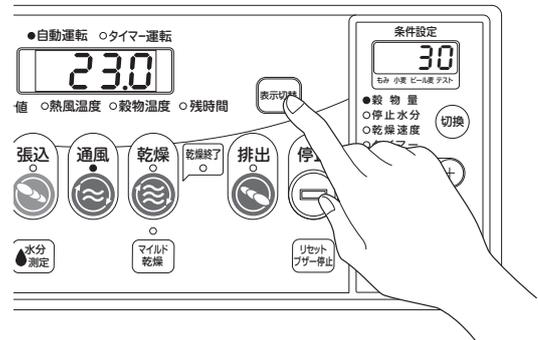
穀物の性状によっては、過乾燥ぎみになる場合があります。

5章 操作説明

4. 現在の水分値は、次の操作手順で確認することができます。

- ① **表示切替** (表示切替) ボタンを「水分値」が点灯するまで数回押してください。

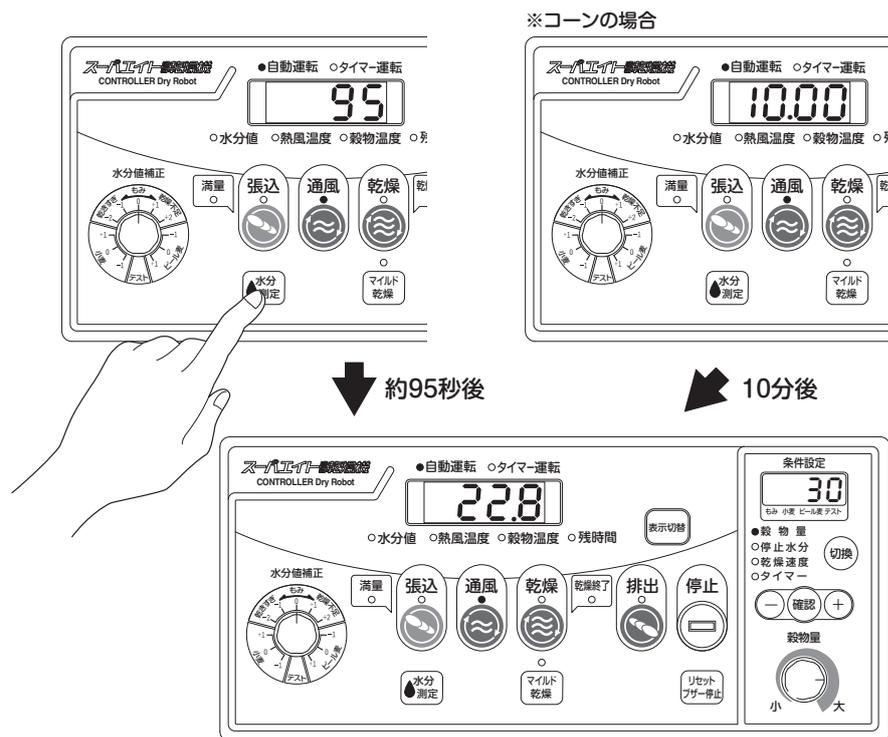
※この時表示される値は、前回測定時の水分値です。



- ② **水分測定** (水分測定) ボタンを押してください。

表示部に **95** (95 秒) が表示され、カウントダウン終了後に現在の水分値が表示されます。

※コーンの場合は表示部に **10:00** (10 分) が表示され、測定に 10 分間かかります。



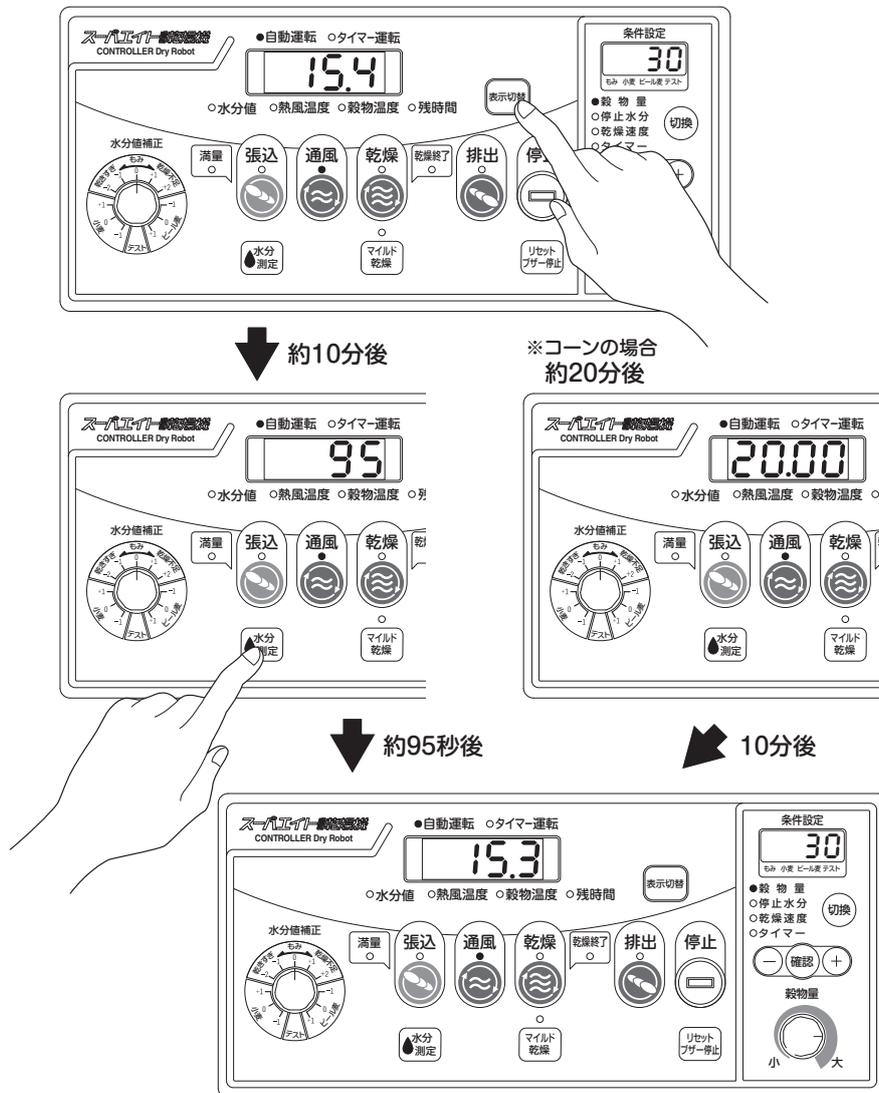
補足 通風循環中、**水分測定** (水分測定) ボタンによる水分測定は、何度でも可能です。

5. 通風循環中に、次の条件が満たされると循環が終了となります。

通風循環終了の条件は、

設定した停止水分値以下の値を自動的に連続2回検出すると、通風循環が終了となります。

通風循環が終了すると、本機が停止します。



補足  (水分測定) ボタンによる水分測定値が、設定した停止水分値以下であっても、通風循環終了の条件からは除外されます。

5章 操作説明

■ 穀物を乾燥する（コーンを乾燥する場合はコーン専用のオプション品が必要になります。）

大切

- 穀物にゴミくすなどが多く混入していると、穀物の流動性が悪く、乾燥ムラや変質の原因となりますので、乾燥機に投入する前に再選別するなどして取り除いてください。
- 穀物は刈取り後、直ちに乾燥機に投入し、乾燥する量を全て投入するまでバーナに点火しないで通風循環してください。
- もち米等の胴割れしやすい品種は、マイルド乾燥を選択してください。
- 張込量が15石未満の場合には、乾燥をおこなわないでください。損傷粒の危険性と穀物が送風機から飛散することがあります。
- 乾燥終了後は、必ず手持ちの手動水分計で水分を確認し、必要に応じて水分値補正をおこなってください。
- コーンを乾燥するときは、コーン用水分検出器に交換してください。

1. （乾燥）ボタンを押してください。

ボタンを押すと同時に、自動的に水分測定をおこない、約95秒後に現在の水分値を表示します。その後、水分測定は穀物の種類と水分値に応じて決められた測定間隔（下図参照）で自動的におこなわれ、約55秒後にその時の水分値を表示します。

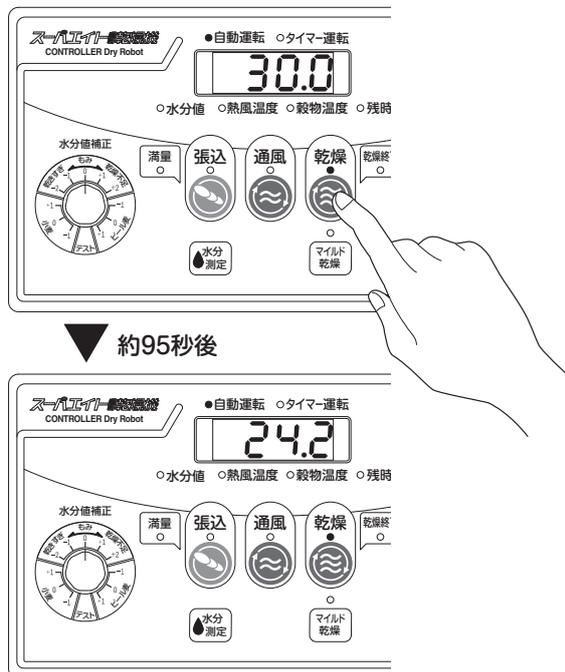
※コーンの場合は、測定時間が10分間かかります。

補足

1) 水分値の表示は、次回の水分測定時まで変わりません。

現在の水分値を確認したい場合には、（水分測定）ボタンを押してください。（p.60参照）

2) 一度の着火動作でバーナが点火しない場合には、自動的に再点火作業がおこなわれます。



水分測定間隔

○ 粳の場合

停止水分 + X%	測定時間
+1.1%以上	20分毎
+1.0%以下	10分毎

○ 小麦・ビール麦の場合

停止水分 + X%	測定時間
+13.0%以上	4時間毎
+7.0 ~ 12.9%	2時間毎
+1.1 ~ 6.9%	1時間毎
+1.0%以下	10分毎

○ コーンの場合

停止水分 + X%	測定時間
+7.0%以上	2時間毎
+1.1 ~ 6.9%	1時間毎
+1.0%以下	20分毎

張込終了後、通風循環をおこなわずに直接乾燥する場合

- ① 穀物量ダイヤルを回して、張り込んだ穀物量に合わせてください。
- ② 条件設定にある **（切替）**（切替）ボタンを、「停止水分」が点灯するまで数回押し、**（確認）**（確認）ボタンを押してください。
- ③ 条件設定にある **（切替）**（切替）ボタンを、「乾燥速度」が点灯するまで数回押し、**（確認）**（確認）ボタンを押してください。
- ④ **（-）**・**（+）**ボタンで希望の数値にあわせ、**（確認）**（確認）ボタンを押してください。

補足 乾燥速度については、p.48を参照してください。

大切

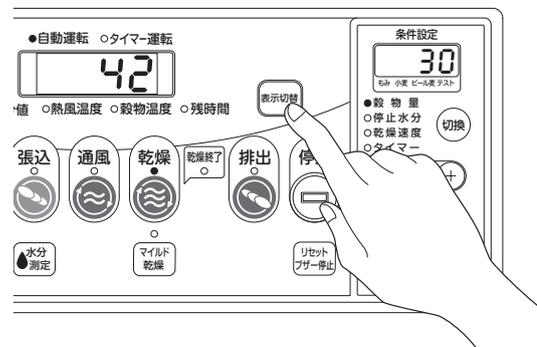
乾燥が進むにつれて、穀物量が目減りしていきませんが、穀物量をそのつど修正する必要はありません。

穀物量を修正すると、乾燥時間が長くなるなどの問題につながります。

2. 乾燥中の温度は、次の操作手順で確認することができます。

熱風温度の確認のしかた

（表示切替）（表示切替）ボタンを「熱風温度」が点灯するまで数回押してください。
現在の熱風温度が表示部に表示されます。



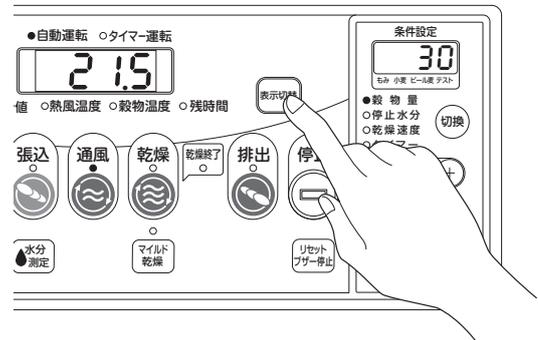
※イラストは、熱風温度が42°Cの場合のものです。

5章 操作説明

3. 現在の水分値は、次の操作手順で確認することができます。

- ① **表示切替** (表示切替) ボタンを「水分値」が点灯するまで数回押してください。

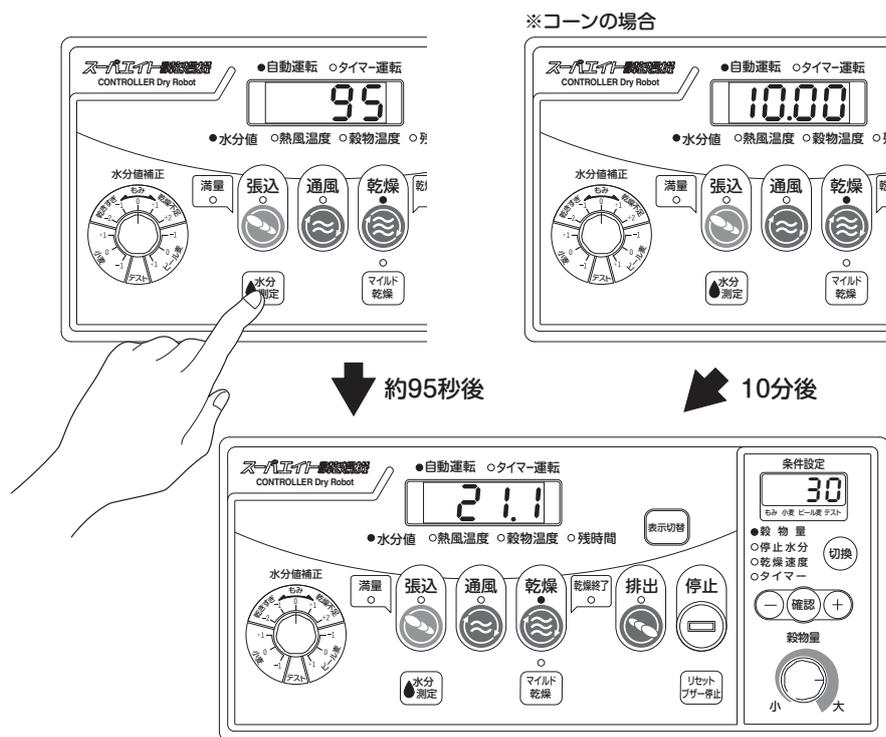
※この時表示される値は、前回測定時の水分値です。



- ② **水分測定** (水分測定) ボタンを押してください。

表示部に **95** (95 秒) が表示され、カウントダウン終了後に現在の水分値が表示されます。

※コーンの場合は表示部に **10.00** (10 分) が表示され、測定に 10 分間かかります。



補足 通風循環中、**水分測定** (水分測定) ボタンによる水分測定は、何度でも可能です。

4. 乾燥中に、次の条件が満たされると乾燥が終了となります。

乾燥終了の条件は、**設定した停止水分値以下の値を自動的に連続2回検出すると、乾燥が終了**となります。

乾燥が終了すると、バーナが消火し、5分後に本機が停止します。

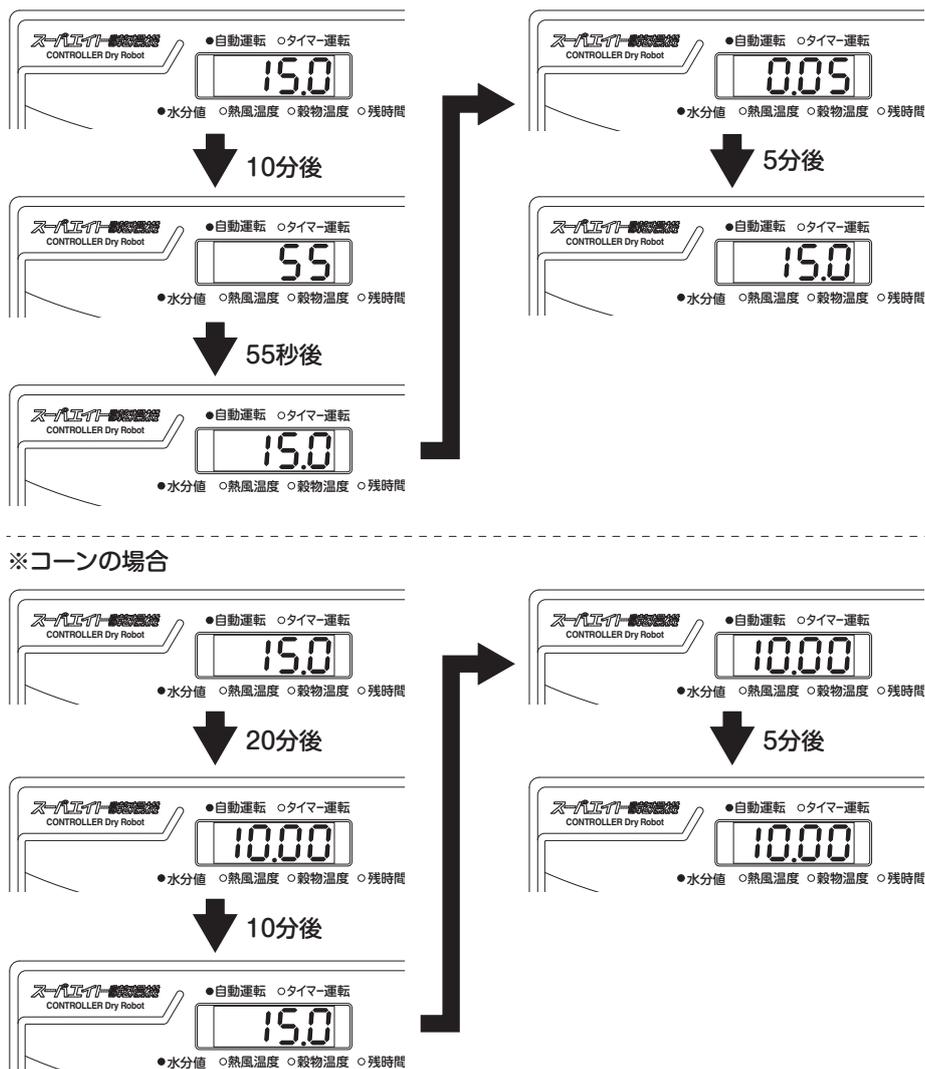
補足 本機停止までの時間は、出荷時・5分間に設定してあります。

裏モードにより冷却時間を **0.05** (5分)、**1.00** (1時間)、**2.00** (2時間)、**ALL** (停止しない) と選択することができます。

 (水分測定) ボタンによる水分測定値は、乾燥終了の条件から除外されます。

また、設定した停止水分値以下の水分値が表示されているにもかかわらず、バーナが燃焼している場合には、約10分間お待ちください。10分間に自動的に水分測定がおこなわれ、停止水分値以下の水分値が検出されると乾燥が終了となります。(コーンの場合は20分間です。)

自動乾燥終了時の操作パネル表示 (例：停止水分値が15.0%の場合)



5章 操作説明

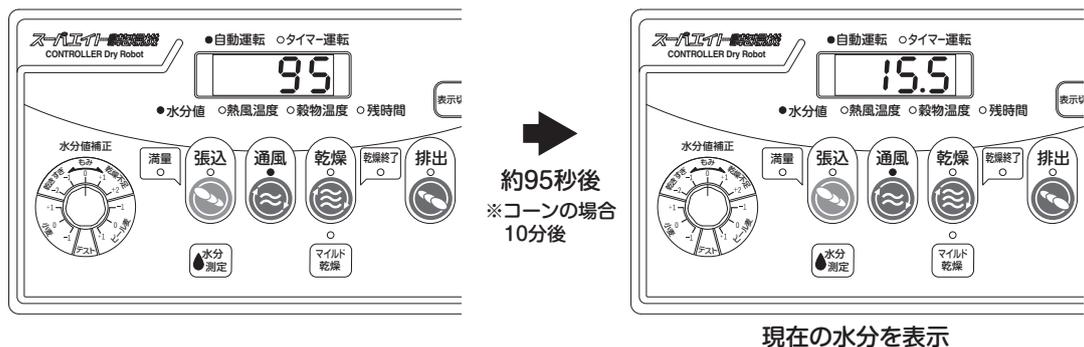
穀物を排出する前に（水分値の確認）



本機内の穀物をサンプル容器で取り出し、必ず手動水分計の水分測定値と制御盤に表示される水分値を比較し、必要に応じて水分値補正をおこなってください。

※水分値補正とは、乾燥機で測定された水分値を実際の水分値（手動水分計による水分測定値）にあわせることです。

1. 乾燥終了後、本機で水分確認をおこなってください。

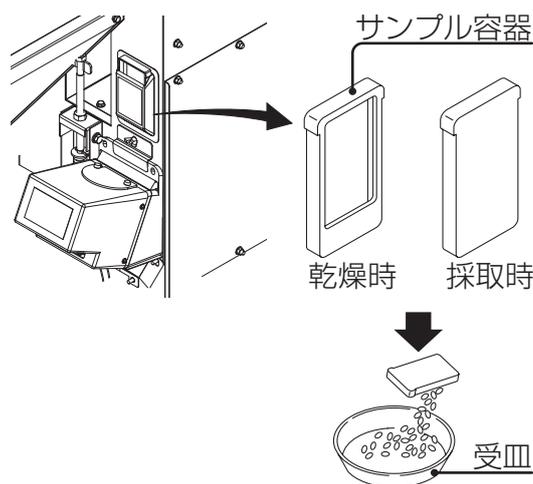


2. サンプル容器を取り出し、“採取時”の状態に入れ直してから （通風）ボタンを押してください。

約30秒の間隔でサンプル容器を数回取り出し、容器内の穀物を受皿にあげてください。

※採取した穀物の量が少ない場合は （水分測定）ボタンを押して、再び穀物を採取してください。

※穀物の採取が終了しましたら、サンプル容器を“乾燥中”の状態に戻してください。



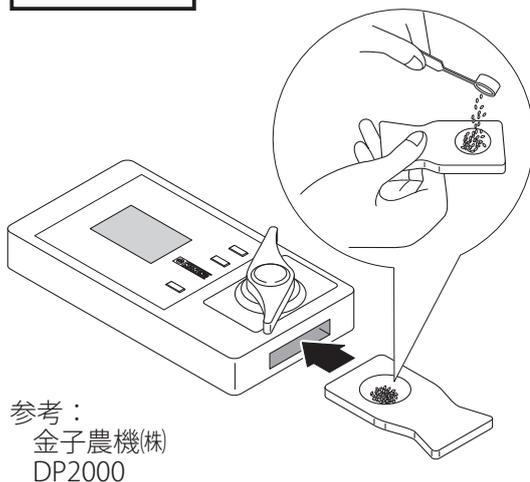
3. 受皿に採取した穀物の水分を、お客様が持っている手動水分計で測定し、確認してください。

大切

手動水分計で水分を測定する場合には、必ず次のことを守ってください。

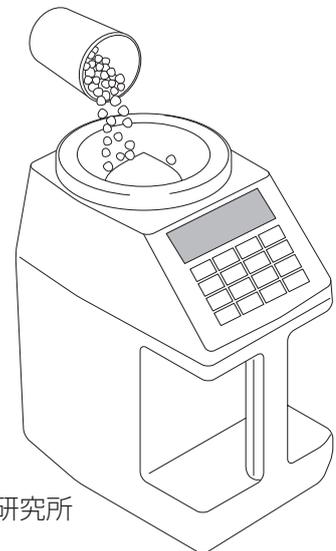
- ①採取した穀物には、手を触れないでください。
- ②採取した穀物の温度が、常温となってから測定してください。
- ③水分を最低3回以上測定し、その平均値を求めてください。
また、コーンの場合は大豆測定レンジ（大粒 05）にて、仕上げは14%以下に乾燥してください。
- ④手動水分計のハンドルは、ストップまで締め込んでください。

粉・麦用
水分測定器



参考：
金子農機(株)
DP2000

コーン用
水分測定器



参考：
(株)ケット科学研究所
PM830-2

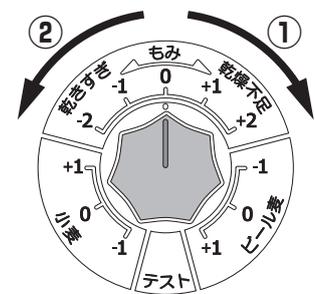
4. 制御盤に表示された水分値と手動水分計の測定値に誤差がある場合には、次の「水分値補正のしかた」を参照し、水分値の補正をおこなってください。

水分値補正のしかた

1. 水分値補正は、水分値補正ダイヤルのセット位置を変えることによっておこなえます。水分値補正ダイヤルは、次のように操作してください。

- ① 希望の停止水分値まで乾燥されていない場合は、“乾燥不足”の方向に回してください。
- ② 希望の停止水分値よりも乾燥されている場合は、“乾きすぎ”の方向に回してください。

※水分補正ダイヤルを1目盛移動すると1%の水分値補正ができます。



水分値補正

補足 必要に応じて水分微調整を使って水分値を補正してください。(p.49 参照)

5章 操作説明

コーン乾燥時“もみレンジ・0”が標準セット位置です。(コーン用検出器に交換する)

補足

水分値補正ダイヤルは、穀物の種類に応じてセットする位置が異なります。
水分値補正ダイヤル水分値補正ダイヤルの標準セット位置は、以下の通りです。

米粉の場合



水分値補正

小麦の場合



水分値補正

ビール麦の場合

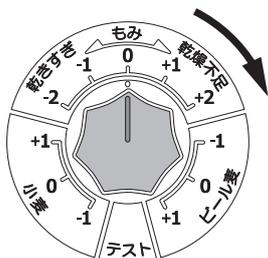


水分値補正

例1 希望の停止水分値まで乾燥されていない場合

表示水分値が15.5%で、手動水分計による測定値の平均が16.5%の場合の水分値補正のしかたは、

- ➔ “乾燥不足”の方向に回し、“+1”にあわせてください。
表示水分値が15.5から16.5に変わります。



水分値補正

15.5

変更



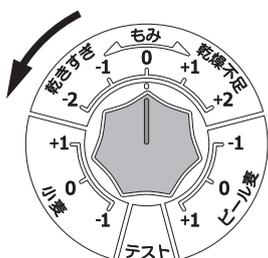
水分値補正

16.5

例2 希望の停止水分値よりも乾燥されている場合

表示水分値が15.5%で、手動水分計による測定値の平均が14.5%の場合の水分値補正のしかたは、

- ➔ “乾きすぎ”の方向に回し、“-1”にあわせてください。
表示水分値が15.5から14.5に変わります。



水分値補正

15.5

変更



水分値補正

14.5

2. 水分値補正終了後は、次の対応をしてください。

- ①あわせた水分値が元の水分値よりも大きくなった場合、穀物が設定した停止水分値まで乾燥されていません。再び、 (乾燥) ボタンを押し、再乾燥をしてください。水分値が設定水分値以下になると、乾燥が終了となります。
- ②あわせた水分値が、元の水分値よりも小さくなった場合、穀物が設定停止水分よりも乾燥されています。お買い上げの販売店あるいは弊社営業所にご相談ください。

■ 穀物を排出する

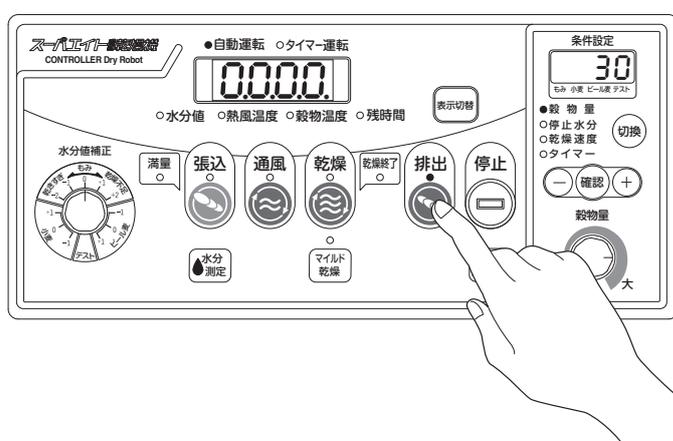
1.  (排出) ボタンを押してください。

※外部搬入時（排出スロワ等）を使用しているときは、本機と同時に稼働します。

補足

外部搬入機を使用する場合、契約電力によっては送風機が稼働しないように設定する必要がありますので、お買い上げの販売店あるいは弊社営業所にお問い合わせください。

2. 穀物が機外に排出されます。



5章 操作説明

●穀物の乾燥（タイマー運転）

大切

穀物にワラくすなどが多く混入していると、穀物の流動性が悪く、乾燥ムラや変質の原因になりますので、乾燥機に投入する前に再選別するなどして取り除いてください。

穀物は刈取り後、直ちに乾燥機に投入し、乾燥する量を全て投入するまでバーナに点火しないで通風循環してください。

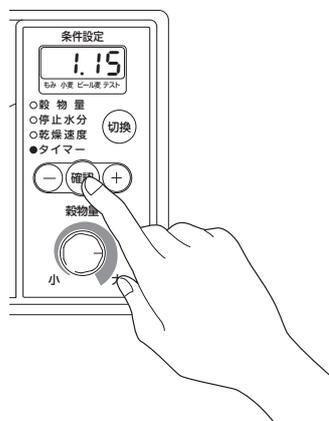
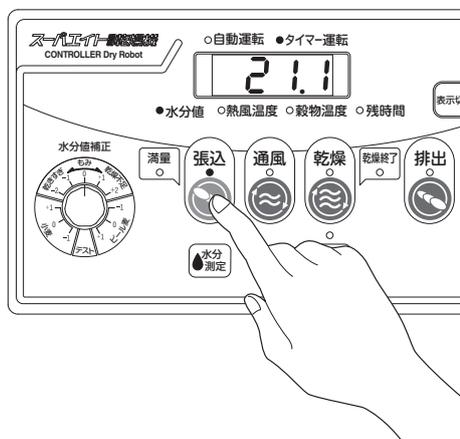
補足

1. タイマー運転中は、水分計が自動的に作動しません。特に乾燥をおこなう場合には、過乾燥にならないように注意してください。
2. タイマー運転の解除のしかたは次の通りです。
 - ① 本機が停止すると自動解除となります。
 - ② （停止）ボタンを押して、本機が自動停止すると解除となります。

■ 穀物を張り込む

例 張込時間を1時間15分に設定する

- ① （張込）ボタンを押してください。
- ② （切替）ボタンを押し、“タイマー”にあわせて （確認）ボタンを押します。
 /  ボタンで時間を 1.15（1時間15分）にあわせ、 （確認）ボタンを押してください。



- ※ “タイマー運転” ランプが点滅します。張込ホップのシャッターレバーを引き上げ、穀物を投入してください。
- ※ “残時間表示” が1分ずつカウントダウンしていきます。



※張込ホップはオプションです。

■ 穀物を通風循環する

大 切

高水分時（25%以上）の通風循環は、2時間～12時間の間でおこなってください。
12時間以上通風循環すると、損傷が出る可能性があります。

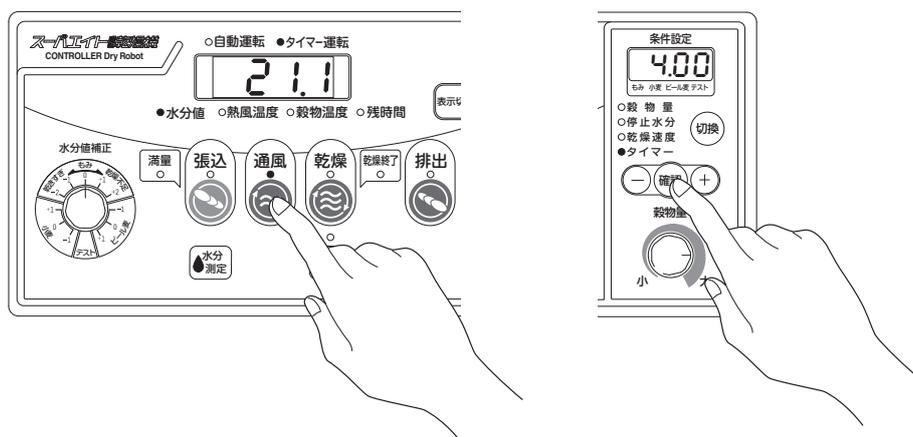
※コーンを通風循環するときは、コーン用水分計検出器に交換してください。

例 通風循環を4時間00分に設定する

- ① （通風）ボタンを押してください。
- ② （切替）ボタンを押し、“タイマー”にあわせて （確認）ボタンを押します。
 /  ボタンで時間を4.00（4時間00分）にあわせ、 （確認）ボタンを押してください。

※ “タイマー運転” ランプが点滅します。

※ “残時間表示” が1分ずつカウントダウンしていきます。



5章 操作説明

■ 穀物を乾燥する

大切

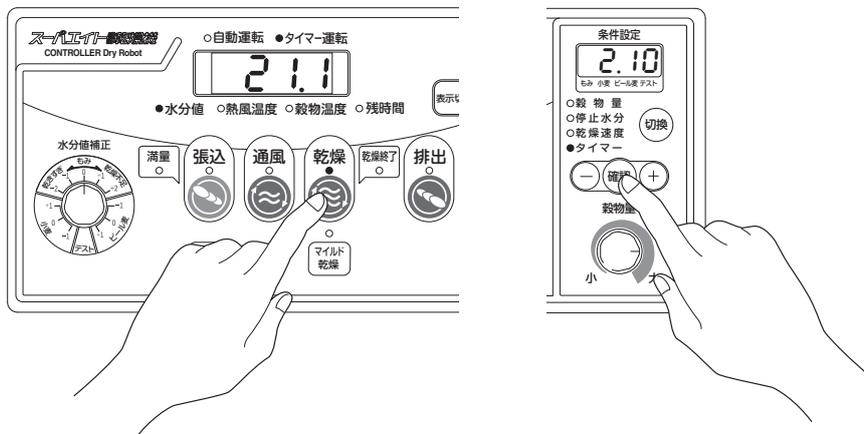
- 穀物にゴミくずなどが多く混入していると、穀物の流動性が悪く、乾燥ムラや変質の原因となりますので、乾燥機に投入する前に再選別するなどして取り除いてください。
- 穀物は刈取り後、直ちに乾燥機に投入し、乾燥する量を全て投入するまでバーナに点火しないで通風循環してください。
- もち米等の胴割れしやすい品種は、マイルド乾燥を選択してください。
- 張込量が15石未満の場合には、乾燥をおこなわないでください。損傷粒の危険性と穀物が送風機から飛散することがあります。
- 乾燥終了後は、必ず手持ちの手動水分計で水分を確認し、必要に応じて水分値補正をおこなってください。
- タイマー運転中は、水分測定がおこなわれません。したがって、乾燥時には過乾燥にならないように十分注意してください。
- タイマー運転時には定温固定の温度制御になります。p.48～49を参照してください。

例 乾燥時間を2時間10分に設定する

- ①  (乾燥) ボタンを押してください。
- ②  (切替) ボタンを押し、“タイマー” にあわせて  (確認) ボタンを押します。
 /  ボタンで時間を 2.10 (2時間10分) にあわせ、  (確認) ボタンを押してください。

※ “タイマー運転” ランプが点滅します。

※ “残時間表示” が1分ずつカウントダウンし、残時間が5分になるとバーナが消火します。その後、約5分経過すると本機が停止します。

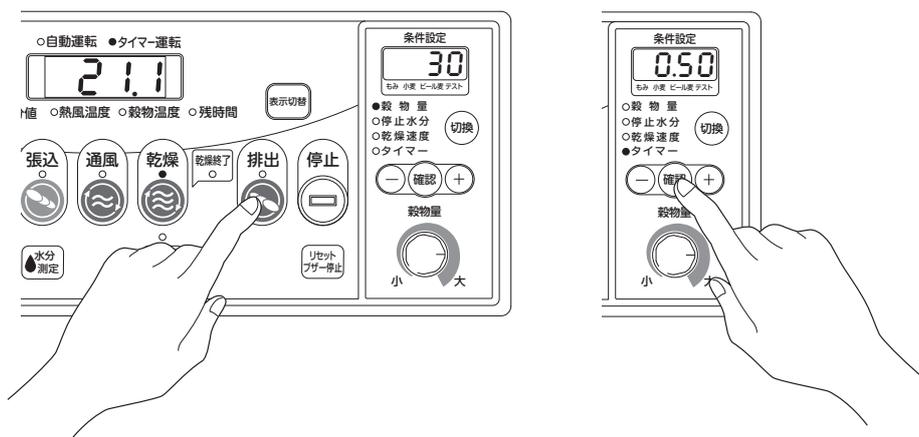


補足 裏モードにより冷却時間を 0.05 (5分)、1.00 (1時間)、2.00 (2時間)、ALL (連続) に選択することができます。

■ 穀物を排出する

例 乾燥時間を0時間50分に設定する

- ①  (排出) ボタンを押してください。
 - ②  (切替) ボタンを押し、“タイマー” にあわせて  (確認) ボタンを押します。
 /  ボタンで時間を **0.50** (0時間50分) にあわせ、  (確認) ボタンを押してください。
- ※ “タイマー運転” ランプが点滅します。



第6章

点検・整備

6章 点検・整備

●点検・整備一覧表

点検整備一覧表		点検・整備の時期			
		参 照 ペ ー ジ	シーズン 前	シーズン 中	シーズン 終了後
配線・配管	電源プラグ・コードの確認	74	○		
	配管の油もれの確認	74	○	○	
グリス塗布箇所	駆動チェーンへのグリス塗布	75			○
エアータ フィルタ	エアーフィルタの掃除	75	○	○ 4~5乾燥毎	
	エアーフィルタの交換		4年毎		
燃料系統	油受け容器の残油処理	76		○ 随時	
	ストレーナの洗浄	76			○
燃焼系統	バーナの分解掃除	77			○
	フレームアイの掃除	78	○		
検出器	ロール上の掃除 とブラシの掃除	79			○
昇降機	平ベルトの張り方	80	○	○	
送風機	ベルト調整とベア リンググリス補給	81	○	○	
保護用ブ ヒューズ	交換のしかた	82		○ 随時	
テスト運転	異常音の有無	83~84	○		
	水分表示値の確認				
	バーナ燃焼状態の確認				
	異常メッセージ 表示の有無確認				

大切

点検・整備期間は、個々の状態によって変わります。使用状態に合わせて点検・整備の時期を随時設定してください。

●点検・整備

この章では、乾燥機の性能を最高に保つために必要な点検・整備上の手順を説明します。最良の効率を上げるには、乾燥機の定期的な点検・整備が大切です。

特に、バーナ掃除は火災予防のためにも重要ですので、必ずおこなってください。

以下各項で示す期間に点検・整備をおこなってください。

点検・整備は必ず制御盤から電源プラグを抜いておこなってください。

随時点検・整備

本書で言う“随時”とは、定期以外の点検・整備期間を示しています。

随時点検・整備期間は個々の使用状態に合わせて随時の点検・整備を決めてください。

平均的な点検期間は、毎乾燥終了後です。

警告

点検・整備をおこなう場合、次に述べる衛生上のルールを守ることが大切です。

1. 点検・整備をおこなう前に、適当なハンドクリームを手に塗ってください。
2. 保護衣、つなぎ、ゴム手袋などを着用してください。また、バーナの分解掃除をするときには、必ずマスクを着用してください。
3. 点検・整備が終わりましたら、直ちに付着した灯油、カーボンを石鹼で洗い流してください。
4. 汚れた衣服は必ず洗濯してください。
5. 点検・整備をおこなうときには作業所を明るくし、換気も十分におこなってください。

6章 点検・整備

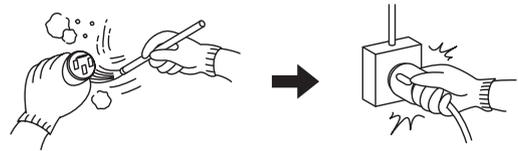
●配線・配管

□電源プラグ・コードの確認 ⇨ シーズン前におこなってください。

⚠ 危険

ホコリが付着して接続が不完全な場合は、感電・火災の原因になります。電源コードに断線、または被覆の剥がれがあると感電・火災の原因になります。

①電源プラグの刃および刃の取付面のホコリを定期的に清掃し、ガタのないように刃の根元まで差し込んでください。



②電源コードが断線、または被覆の剥がれがないか確認してください。

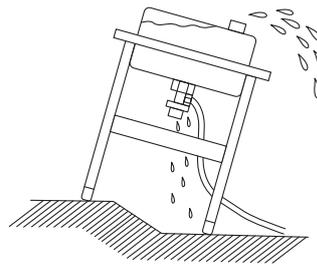
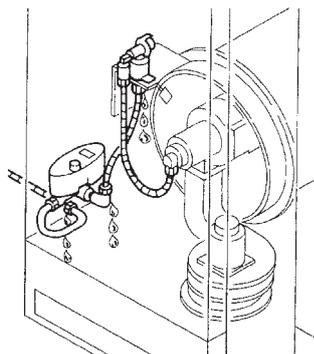


□配管の油もれの確認 ⇨ シーズン前、シーズン中におこなってください。

⚠ 危険

配管に油もれがあると、火災の原因になります。

①配管に油もれがないか確認してください。



●グリス塗布箇所

□駆動チェーンへのグリス塗布 ⇨ シーズン終了後におこなってください。

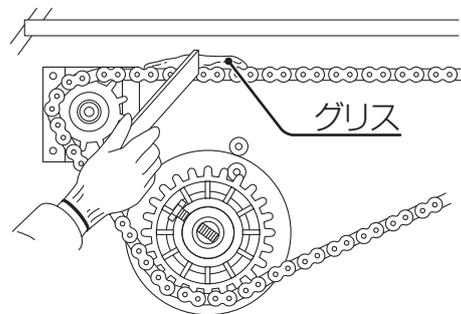
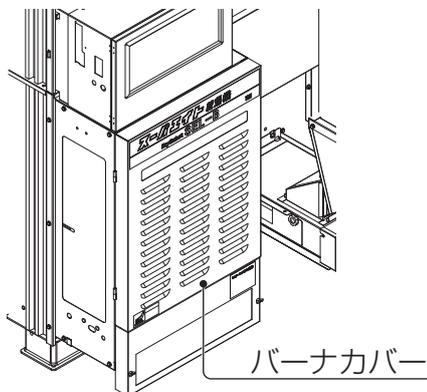
⚠ 注意

本機が起動しているときには、駆動チェーンにグリスを塗布してはいけません。手がチェーンに触れ、ケガをすることがあります。

大切

グリスを塗布したときに下に落ちたグリスは、必ずウエス等で拭きとってください。

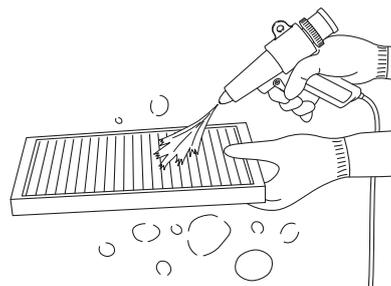
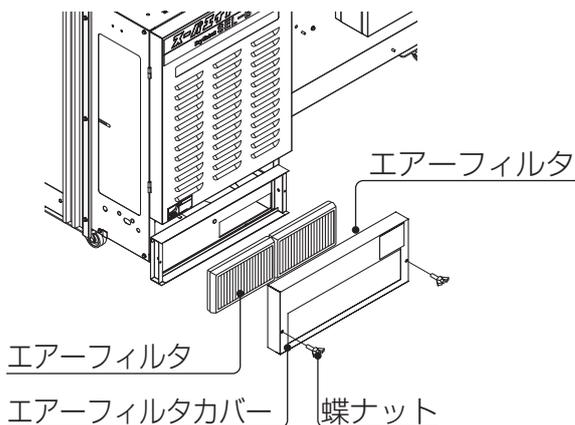
- ①バーナカバーを開けてください。
- ②駆動チェーンにグリスを適量塗布してください。
- ③作業終了後は、バーナカバーを元に戻してください。



●エアフィルタ

□エアフィルタの掃除・交換 ⇨ シーズン前と、シーズン中4～5乾燥毎に掃除をしてください。また、4年毎に交換してください。

- ①エアフィルタカバーを固定している蝶ナット（2ヶ）を手で回して取り外します。
- ②フィルターカバーを取り外し、エアフィルタを取り外します。
- ③フィルターカバーの内側をきれいにしてください。
- ④エアフィルタの内側から、エアブローでホコリを吹き落としてください。または、古いエアフィルタは廃棄して、新しいものに交換してください。

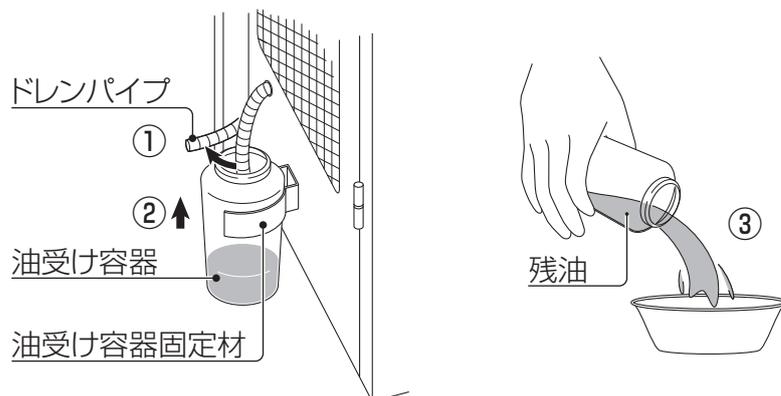


6章 点検・整備

●燃料系統

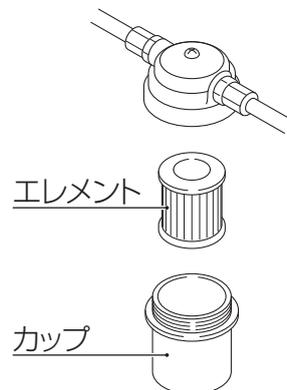
□油受け容器の残油処理 ⇨ 随時おこなってください。

- ①油受け容器からドレンパイプの先端を取り外してください。
- ②油受け容器を上引き抜いてください。
- ③油受け容器内の残油を処理してください。
- ④油受け容器を油受け容器固定材にセットし、ドレンパイプの先端を油受け容器内に戻してください。



□ストレーナの洗浄 ⇨ シーズン終了後におこなってください。

- ①燃料タンクのコックを完全に閉めてください。
- ②カップを回して取り外し、カップ内の残油を処理してください。
- ③エレメントを下に引き抜いて灯油で洗浄してください。
- ④カップを手でねじ込んでください。締めすぎないでください。



● 燃焼系統

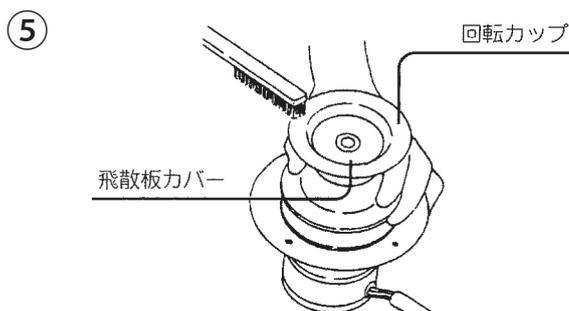
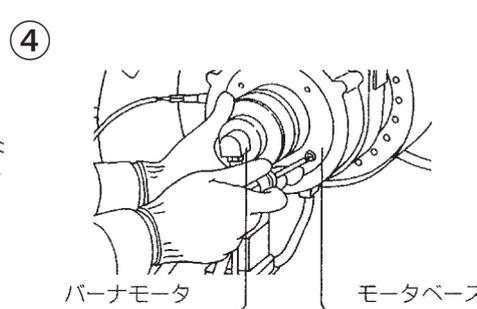
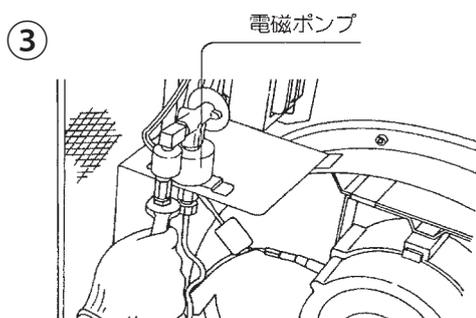
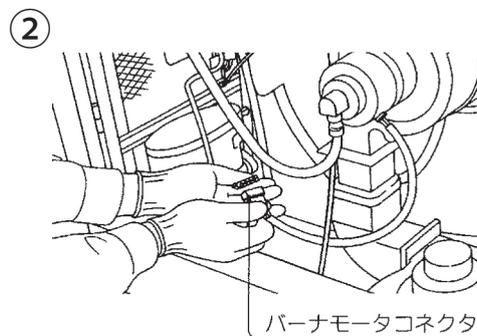
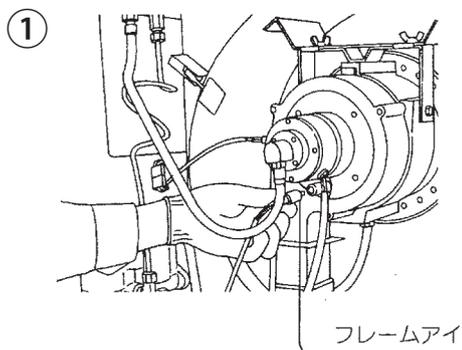
□バーナの分解掃除 ⇨ 4～5 乾燥毎、およびシーズン終了後におこなってください。



警告

バーナが熱いあいだにバーナの分解掃除をしてはいけません。
ヤケドの原因となります。

- ①バーナカバーを開け、バーナからフレームアイを引き抜いてください。
- ②バーナモータコネクタを抜いてください。
- ③電磁ポンプに接続してある燃料ホースをスパナで回し、取り外してください。
- ④片手をバーナモータにあてがいながら、モータベースの固定ビス（4本）を、プラスドライバで取り外します。その後、バーナ回転部を外部に取り外してください。
- ⑤バーナ回転先端部の飛散板カバー、およびカップに付着しているカーボンをワイヤブラシなどで取り除いてください。



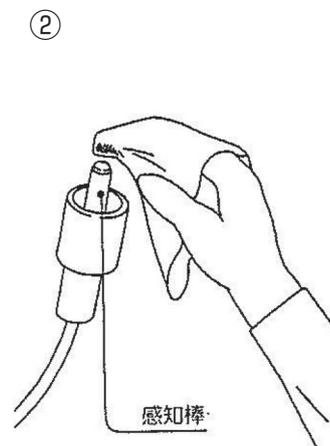
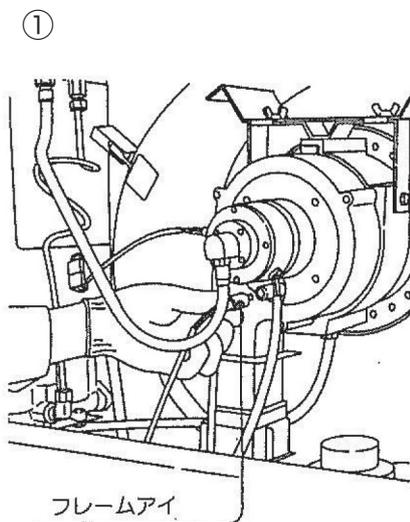
6章 点検・整備

□ フレームアイの掃除 ⇨ シーズン前におこなってください。

大切

フレームアイの感知面にキズをつけないように取り扱ってください。
感知面にキズがつくとバーナの炎を感知できず、連続燃焼しません。

- ① バーナカバーを開け、バーナからフレームアイを引き抜いてください。
- ② 感知棒の先端とフレームアイの先端をやわらかい布で拭きとってください。
- ③ 作業終了後は、フレームアイを差し込み、バーナカバーを元に戻してください。

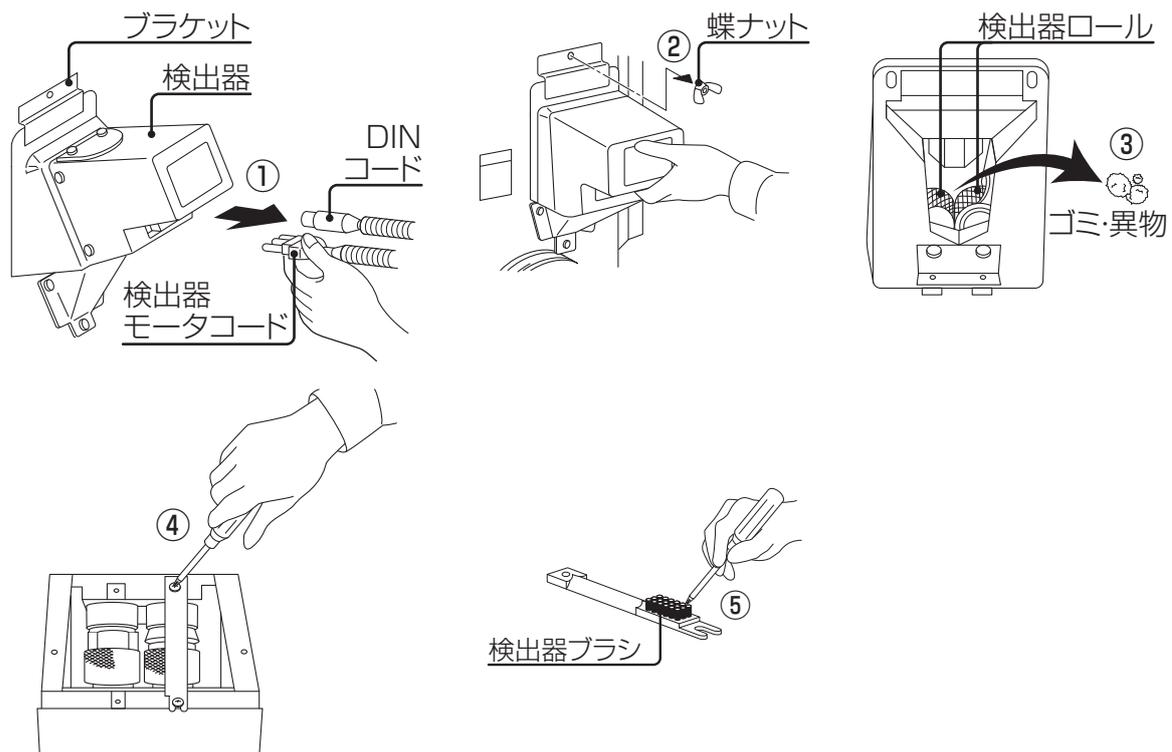


● 検出器

□ ロール上の掃除とブラシの掃除 ⇨ シーズン終了後におこなってください。

補足 検出器を取り外すときには、落とさないように慎重に取り扱ってください。

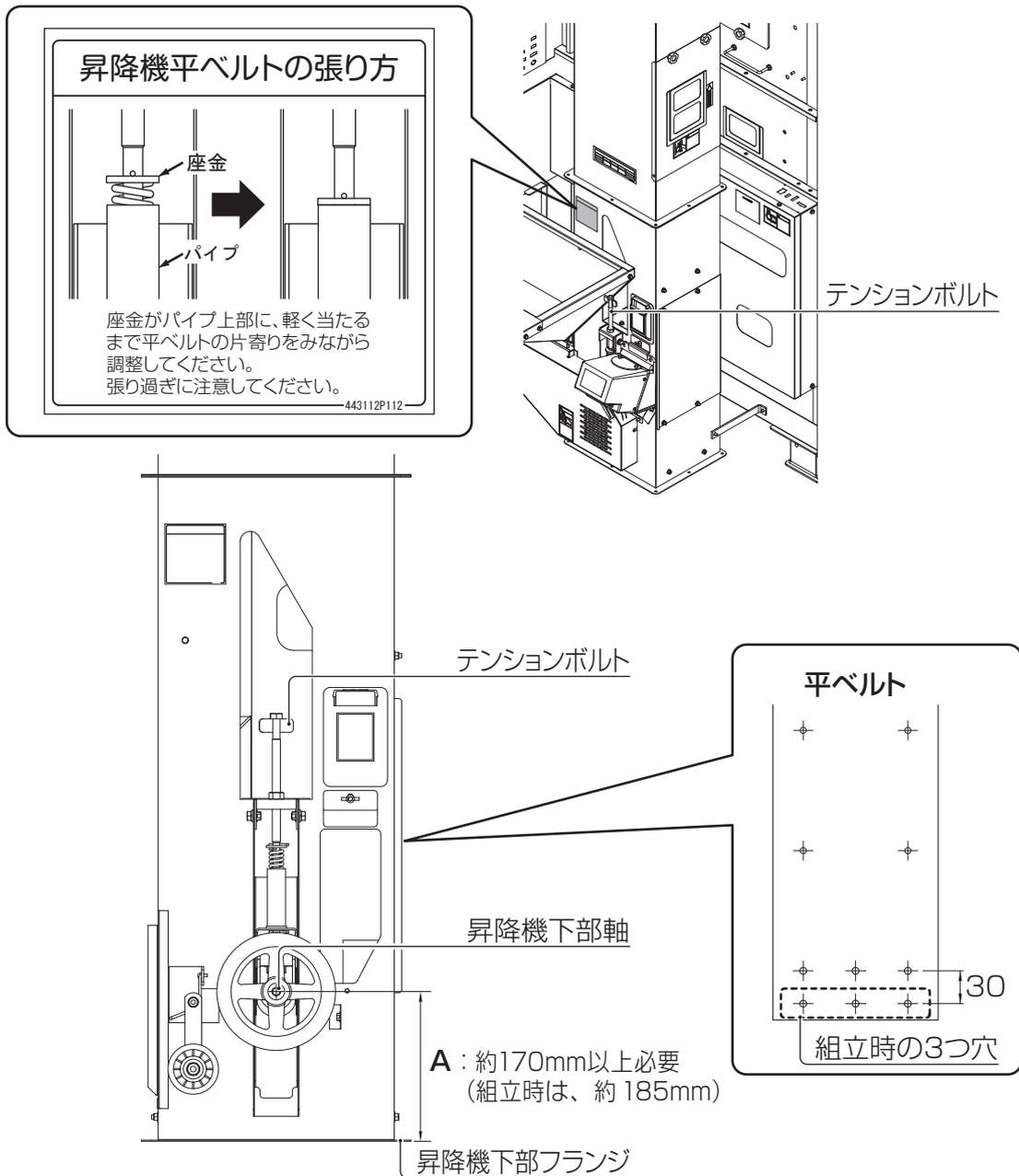
- ① 検出器に接続されているコード（2本）のコンネクター部をつかんで手前に引き、外してください。
- ② 片手を検出器にあてがい、もう一方の手でブラケットを留めている蝶ナットを外してください。
- ③ ロール上にゴミ・異物等がありましたら、取り除いてください。
- ④ 検出器を裏側にして置き、適当な（+）ドライバーで検出器ブラシ（2ヶ）を固定している小ネジ（各2ヶ）を取り外してください。
- ⑤ 検出器ブラシを取り外し、（-）ドライバー等の先端を利用してブラシ内の穀物の粉碎クズを取り除いてください。その後、元の形に組付けてください。
- ⑥ 検出器を流し板の上に乗せ、ブラケットをボルトにあわせてから蝶ナットで固定してください。
- ⑦ 検出器にコード（2本）を再び接続してください。



6章 点検・整備

●昇降機

□平ベルトの張り方 ⇨ シーズン前におこなってください。



⚠ 注意

- A寸法（昇降機下部フランジと昇降機下部軸の中心）は、約170mm以上確保してください。（組立時は約185mm）
- A寸法が約170mm以下になった場合は、平ベルトのもう一方の3つ穴を利用して組み直してください。
- 3つ穴を利用して組み直しても、Aの寸法が170mm以上を確保できない場合は、平ベルトを交換してください。

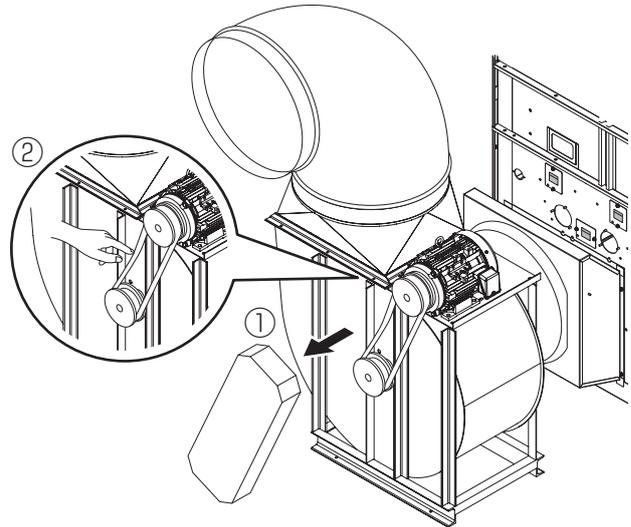
●送風機

□送風機ベルトの張り点検 ⇨ シーズン前、シーズン中におこなってください。

大切

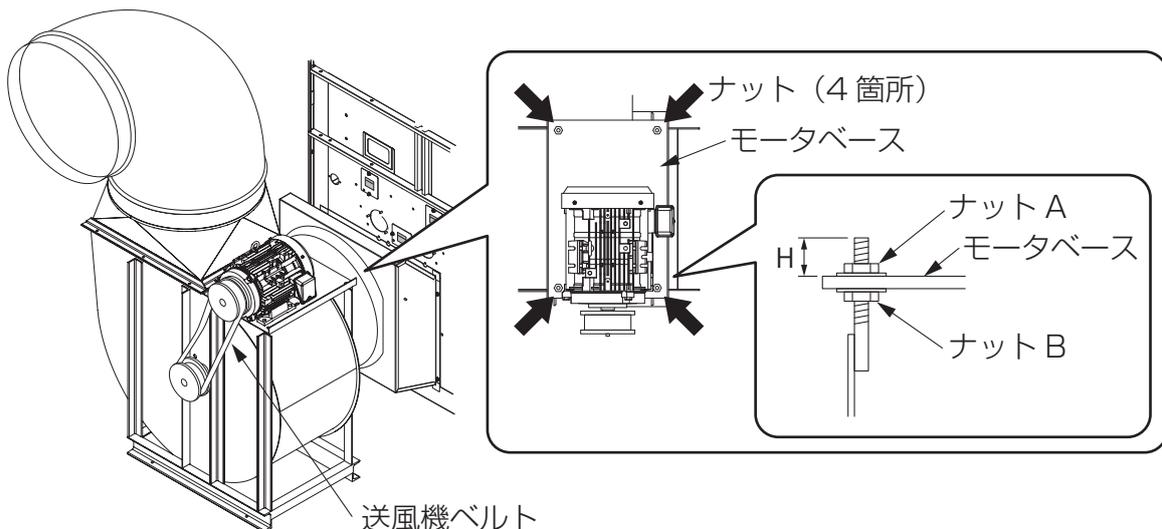
ベルトがゆるんでいるときは、モータベースを調整してベルトを引っ張ってください。

- ①ベルトカバーをはずしてください。
- ②送風機ベルトのセンターを指先で押して、ベルトのたわみ量を確認してください。たわみ量が10mm以上あるときには、送風機ベルトを、次項の手順で張ってください。



□送風機ベルトの張り方

- ①モータベース上のナット A (4箇所) をスパナでゆるめてください。
- ②送風機ベルトのたわみ量を確認しながら、モータベース下のナット B (4箇所) を、H 寸法が 4 箇所とも同寸法になるように締めつけてください。
- ③送風機ベルトが適正なたわみ量になりましたら、モータベース上のナット A (4箇所) をスパナで締め付けてください。



□送風機ベアリンググリスの補給 ⇨ シーズン前、シーズン中におこなってください。

- ①ベルトカバーをゆるめて、主軸プーリーの奥のベアリングにグリスガンを使用して、ベアリンググリスを補給してください。
- ②下部本体と送風機をつなぐ送風機接続管上部のグリスニップルに、グリスガンを使用してベアリンググリスを補給してください。

6章 点検・整備

●保護用ヒューズの交換

□ヒューズ交換のしかた ⇨ シーズン前におこなってください。

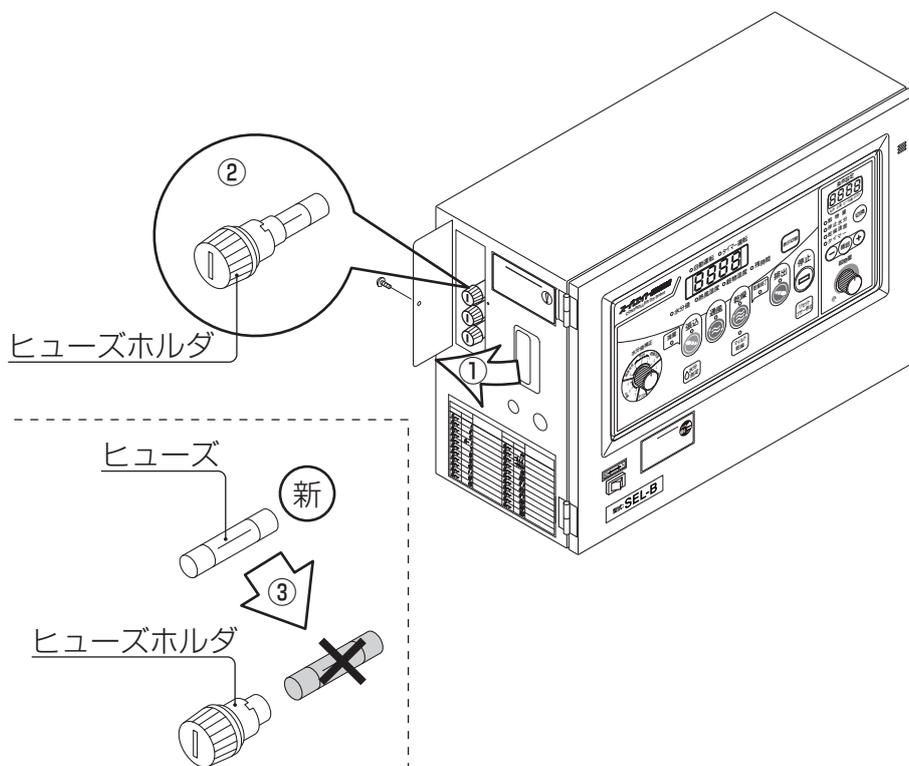


注意

(1)保護用ヒューズを交換するときには、必ず制御盤から電源プラグを抜いてください。感電の原因となります。

(2)切れたヒューズの代わりにアンペアの大きいヒューズを取り付けるのは絶対にやめてください。漏電したり、火災の原因となります。

- ①制御盤の左側面のネジを外し、蓋を開けてください。
- ②ヒューズホルダの溝部分に（-）ドライバを差し込み、反時計回りに回してヒューズホルダを取りはずしてください。
- ③ヒューズホルダ（3ヶ）から不良品を引き出し、新品と交換してください。
取付時には溝部分が地面に対して垂直になるようにセットしてください。
- ④ヒューズ交換後、蓋は元に戻してください。

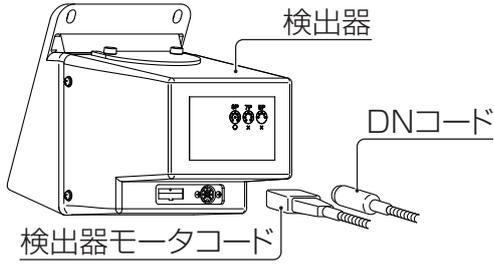


補足

保護ヒューズには 全て 2A の管ヒューズを使用しています。

●テスト運転

シーズンに入る前に必ずテスト運転をおこない、乾燥機の動作チェックをおこなってください。
事前に乾燥機の故障箇所の有無をチェックできますので余裕をもってシーズンをむかえることができます。

運転順序		確認事項	チェック欄												
1	①電源プラグを接続する ②電源スイッチを“入”にする	①全ランプが点灯し、表示部が次のように変化しますか？  ②異常モニタランプが点滅しますか。													
2	穀物種類に“テスト”を選択する	①条件設定が  になります。													
3	 (張込) ボタンを押す	①昇降機、上部・下部コンベア、送風機、排塵機が起動します。 ②異常音の発生がありますか？													
4	 (通風) ボタンを押す	①繰出しモータが回転し、水分測定がおこなわれます。 ②水分測定後、下記の水分値(目安)が表示されますか？ <table border="1" data-bbox="750 1176 1276 1411"> <thead> <tr> <th>サーミスタ温度</th> <th>米 麦</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0℃ & 解放</td> <td>15.7 %</td> </tr> <tr> <td>10℃</td> <td>15.0 %</td> </tr> <tr> <td>20℃</td> <td>14.3 %</td> </tr> <tr> <td>30℃</td> <td>13.6 %</td> </tr> <tr> <td>40℃</td> <td>12.9 %</td> </tr> </tbody> </table> 	サーミスタ温度	米 麦	0℃ & 解放	15.7 %	10℃	15.0 %	20℃	14.3 %	30℃	13.6 %	40℃	12.9 %	
サーミスタ温度	米 麦														
0℃ & 解放	15.7 %														
10℃	15.0 %														
20℃	14.3 %														
30℃	13.6 %														
40℃	12.9 %														
5	 (乾燥) ボタンを押す	①バーナが着火します。 約 30 分間連続燃焼させてください。 ②バーナ燃焼状態は良好ですか？													
6	①  (停止) ボタンを押す	①バーナが消火し、5 分後に本機が停止します。													

6章 点検・整備

運転順序		確認事項	チェック欄
7	①  (排出) ボタンを押す	①昇降機、上部・下部コンベア、繰出しモータ、送風機、排塵機が起動します。 ②排出スロワ使用時の場合は、排出スロワも起動します。	
8	①  (停止) ボタンを押す	①30 秒後、本機が停止します。 排出スロワ使用時の場合には、本機停止後、約 30 秒経過すると排出スロワが停止します。	
9	①  スイッチを"切"にする ② 電源プラグを抜く		

補足 テスト運転時に異常が発生した場合には、お買い上げの販売店あるいは最寄りの弊社営業所にお問い合わせください。

●消耗部品耐久時間

消耗部品の種類とそれぞれの交換時期の目安は次の通りです。

各部品の耐久時間は使用条件によって異なるため、点検時に消耗が激しい場合は、使用時間にかかわらず交換が必要です。購入先に交換を依頼してください。

※使用時間によっては、その他部品の交換も必要になります。

No	部品名	交換の目安
1	昇降機用バケット	800 時間又は 3 年
2	V ベルト・平ベルト	
3	上部コンベア	
4	下部コンベア (送り羽根含)	
5	バーナ関係	
6	軸受メタル	
7	風圧スイッチ	
8	ベアリング	
9	補強部品関係	
10	ダクト・ホース関係	

第7章

掃除と保管

7章 掃除と保管

●掃除のしかた

この章では、シーズン中に異なった品種を乾燥する場合、あるいはシーズン終了後の掃除箇所と方法および乾燥機の保管のしかたについて説明します。

注意

掃除をおこなう場合、下記のルールを守ることが大切です。

1. 掃除は制御盤から必ず電源プラグを抜いておこなってください。
2. 保護衣、つなぎ、ゴム手袋およびマスクなどを着用してください。
3. 掃除がおわりましたら、取り外した蓋、カバー、側板等は元の位置に戻してください。
4. 汚れた衣服は必ず洗濯してください。
5. 掃除をおこなうときには、作業所を明るくし、換気を十分におこなってください。
6. エアーコンプレッサーや掃除機などを使って、残留物を取り除いてください。
7. 掃除をおこなったときに、機外に取り除かれた残留物は、直ちに処理してください。
8. 屋根に登って掃除をしないでください。

1. 乾燥部

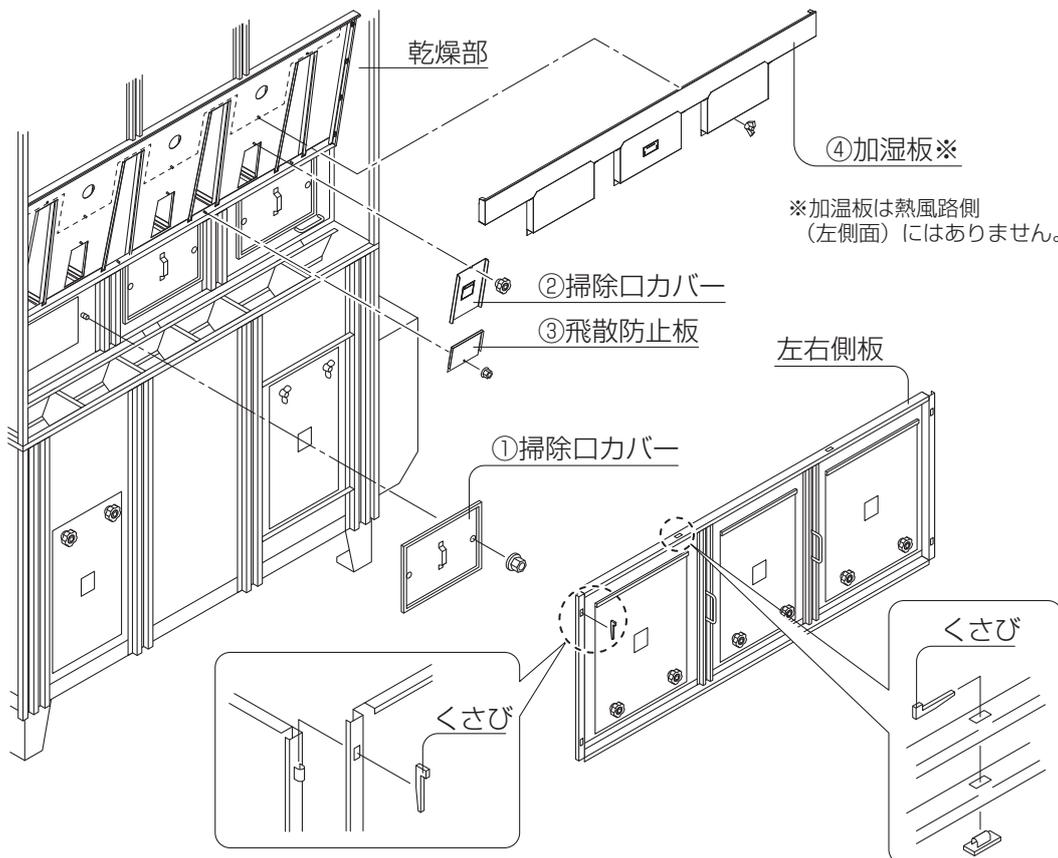


警告

乾燥部内の掃除をおこなうときには、必ず左右側板の一方は取り外さないでおこなってください。

左右側板の両方を取り外してしまうと、乾燥部が変形することがあります。

- ①左右側板を固定しているクサビをハンマーで下から軽くたたいて上に抜いてください。
- ②左右側板の上下を固定しているクサビを軽くたたいて抜き、側板止め金具を外してください。
- ③側板の取手を両手で握り、手前に引いて取り外してください。
- ④掃除口カバー①を固定しているナット(3ヶ)と掃除口カバー②を固定しているノブ(1ヶ)を取り外し、カバーを外してください。
- ⑤飛散防止板③のボルト(1ヶ)を取り外し、排風路と掃除口から、ほうき・ブロワ等を使用して残留物を取り除いてください。
- ⑥加温板④の蝶ねじ(3ヶ)を取り外し、加温板を外して内部のゴミを掃除してください。



大切

掃除が終了したら、掃除口カバー①②、飛散防止板③、加温板④、左右側板を確実に元に戻してください。機械損傷と穀物損傷の原因になります。

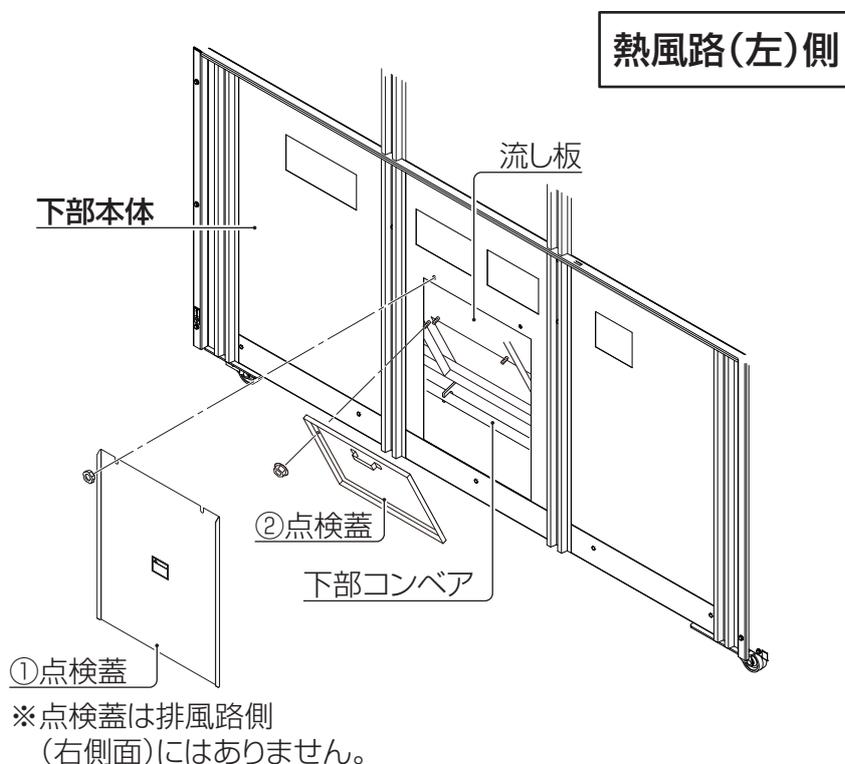
7章 掃除と保管

2. 下部本体

大切

シーズン終了後に必ず、下部本体下側の左右点検蓋を外して掃除してください。

- ①下部本体左右側面にある点検蓋を取り外してください。
- ②下部本体熱風炉（左側）内部の流し板中央部にある、点検蓋を取り外してください。
- ③開口部から下部流し板・下部コンベア見えますので、懐中電灯を使い、ゴミの堆積状態を確認し、ブロワ等で取り除いてください。
- ④下部本体排風路（右側）も、点検蓋を外し、堆積しているゴミを掃除してください。

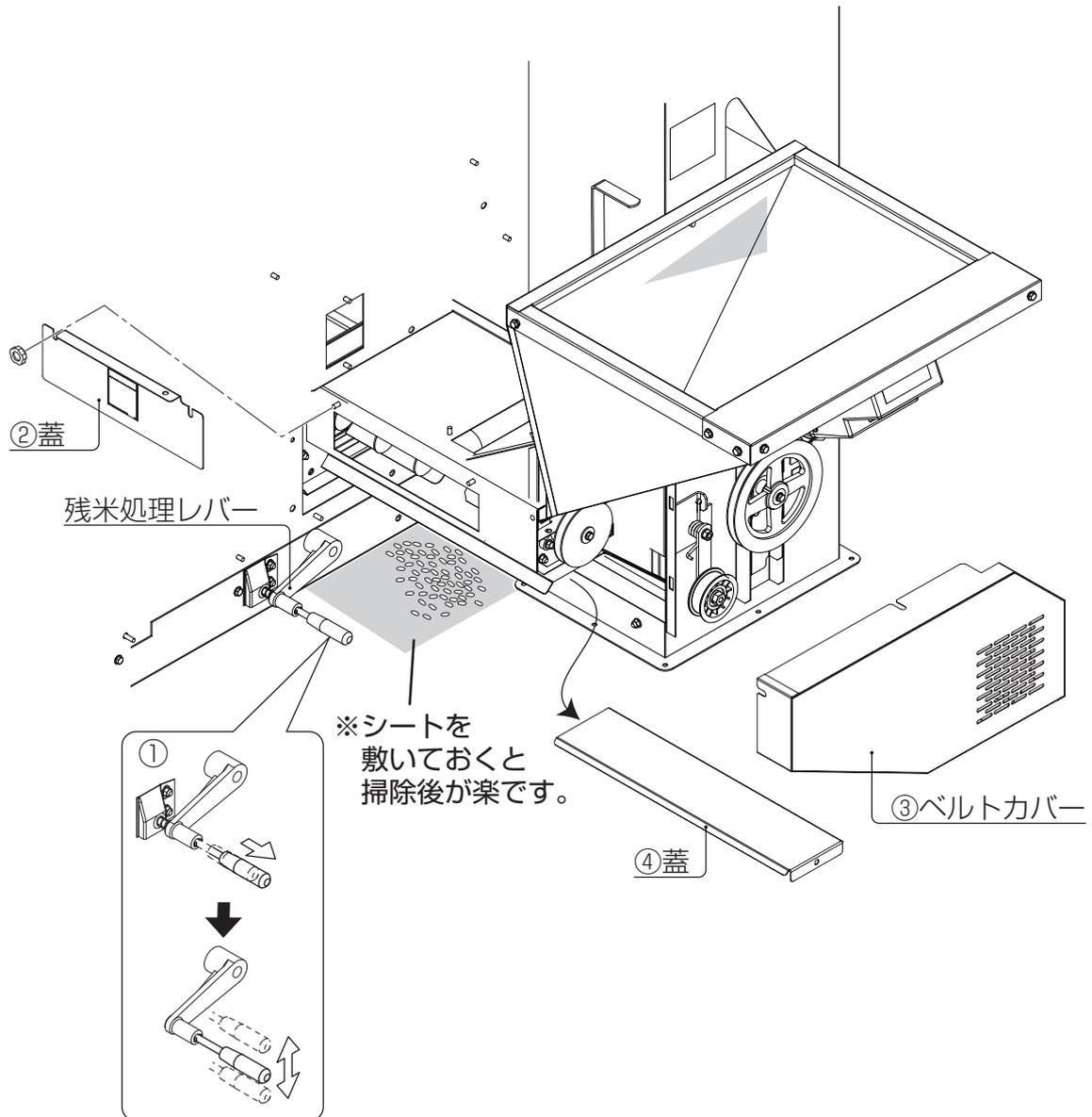


大切

掃除が終了したら、点検蓋①②を確実に元に戻してください。機械損傷と穀物損傷の原因になります。

3. 下部コンベア樋

- ①下部コンベア残米処理レバーを手前に引き、数回上下に操作してください。
※下部コンベア残米レバーを開ける前に、コンベア下にシートなどを敷いておくと掃除が楽です。
- ②側面の蓋のノブナットを外し、蓋を外してください。
- ③ベルトカバーを外してください。
- ④底の蓋を手前に引き抜き、残留物を機外に出してください。



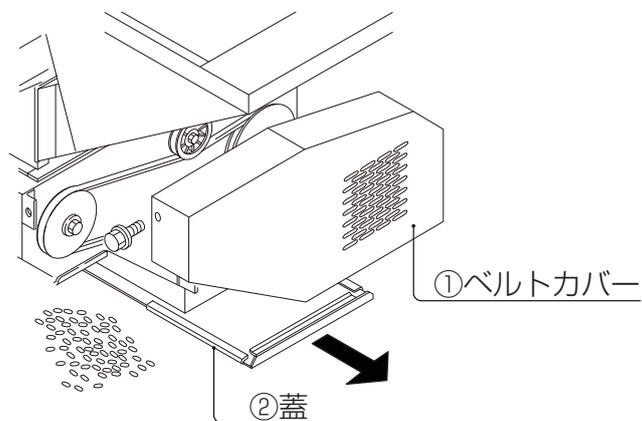
大切

掃除が終了したら、点検蓋①②を確実に元に戻してください。機械損傷と穀物損傷の原因になります。

7章 掃除と保管

4. 昇降機下部

- ①ベルトカバーを取り外してください。
- ②昇降機下部にある底の蓋を手前に引き抜き、残留物を機外に出してください。



大切

掃除が終了したら、取り外した蓋やカバーなどを確実に元に戻してください。
機械損傷と穀物損傷の原因になります。

■ 前記箇所の清掃が終了しましたら、次の手順で運転操作をおこなってください。

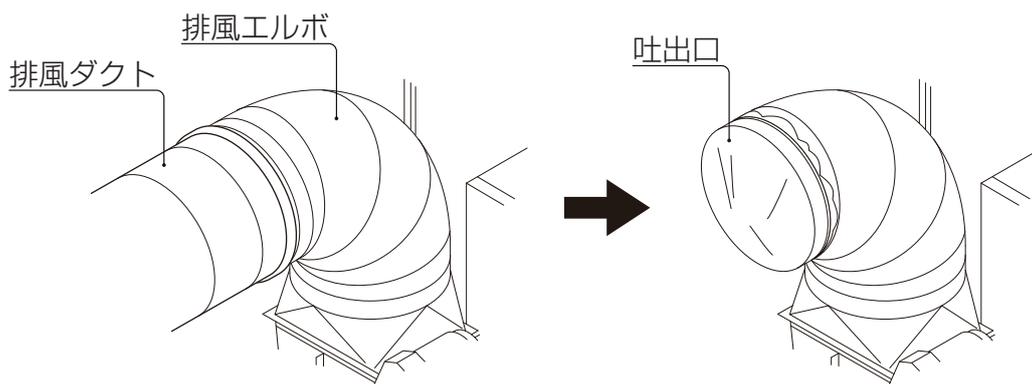
- ①掃除のために取り外した蓋やカバーなどは、必ず元に戻してください。
- ②制御盤の電源投入後、 (排出) ボタンを押し、約 10 分間のカラ運転をおこなってください。
- ③約 10 分後、本機を停止し、下記の箇所の掃除を再びおこなってください。
 - (1) 昇降機下部
 - (2) 下部コンベア樋

●保管のしかた

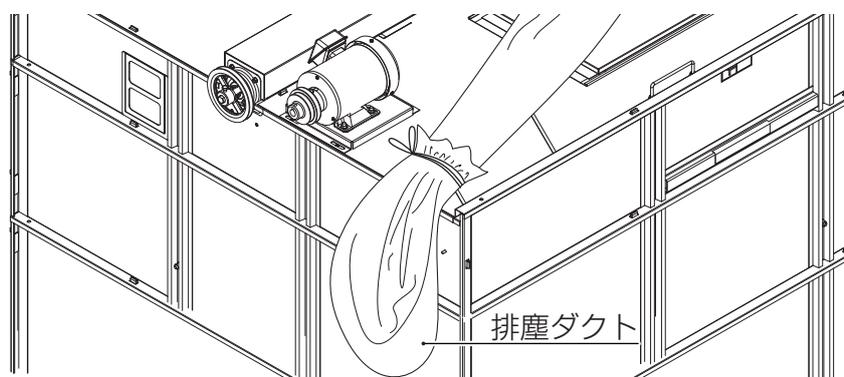
乾燥機を長期保管する場合には、乾燥機を保護するために適切な予防措置をとらなければなりません。方法については以下の通りです。

1. 本機の保管のしかた

- ①排風ダクトを使用している場合は、排風ダクトを取り外し、付着しているホコリを払って、段ボールなどに収納してください。その後、排風エルボの吐出口を適当なビニール袋などで塞いでください。



- ②防塵ダクトを使用している場合は、先端部を折りたたんで、ビニール袋などの中に収納して、ヒモで結わえてください。



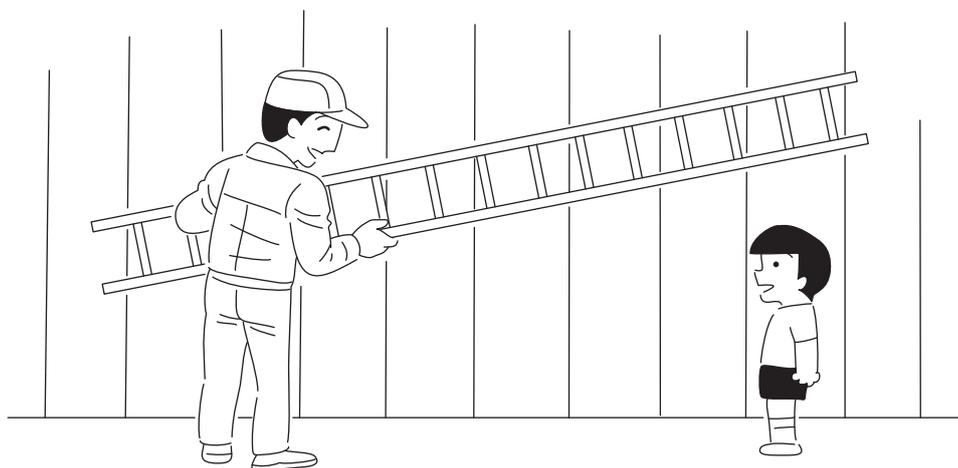
- ③安全カバー、掃除口蓋および点検蓋は、必ず元の位置に戻してください。

7章 掃除と保管

2. ハシゴの保管のしかた

大切

ハシゴは、ハシゴ掛け材から取り外して、子供の手の届かない場所に保管してください。



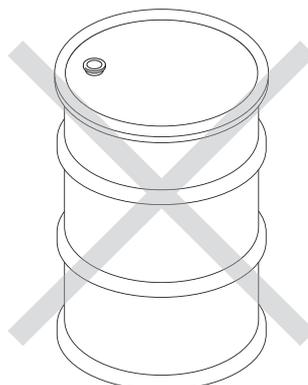
※ハシゴはオプションです。

3. 燃料（灯油）の保管のしかた

大切

最も注意すべきことは、燃料をきれいに保管することです。
次の注意事項を守って、燃料の保管に万全を期してください。

1. 灯油専用の保管容器で保管してください。
(ドラム缶等での保管はおやめください。)
2. 保管する容器の内側は、毛ばだった布切れで決して拭いてはいけません。
3. 燃料タンクはフィルタを含めて1年に1回掃除してください。



第8章

故障診断と処置

8章 故障診断と処置

下記項目に従って点検されても直らないときには、お買い上げの販売店あるいは最寄りの弊社営業所にお問い合わせください。

	こんなときには	ここをお確かめください	参照ページ
電 源	電源スイッチを“入”にしても何も表示しない	制御盤から電源プラグが外れている。 ▶電源プラグを差し込んでください。	
		元電源のアンペアブレーカが“OFF”または“切”になっている。 ▶アンペアブレーカを“ON”または“入”にしてください。	
	電源ヒューズが溶断している。 ▶電源ヒューズ（2A）を交換してください。		
	手動スイッチを押すと同時に本機が起動する	手動スイッチが“手動”側になっている。 ▶手動スイッチを“自動”側にしてください。	
張	操作ボタンを押してもモータが回転しない	電源プラグ内の端子がゆるんでいる。 ▶端子を+ドライバで締付けてください。	
		電源コードが断線してる。 ▶電源コードを交換してください。	
込	排塵ダクトが膨らまずにしぼんでしまう	排塵機が稼働していない。 ▶排塵機ヒューズ（2A）が溶断しています。交換してください。	
	満量ランプが点灯し、ブザーが鳴る	投入している穀物量が最大張込量に達している。 ▶穀物の投入を中止してください。  （停止）ボタン、あるいは  （通風）ボタンを押してください。	
循 環 ・ 乾 燥	駆動チェーンが連続で動いている	異常ではありません。 ▶循環・乾燥中は、繰出しロールが運転をおこなっています。	
	手動水分計と水分値があわない	検出器ロール状に、ゴミが溜まっている。 ▶検出器を掃除してください。	
		水分値が18.0%以上のときには、手動水分計測定値と、制御盤表示値の間に、ある程度の水分誤差が生じます。 ▶水分値が18.0%以下になってから再度、水分測定をおこなってください。	

	こんなときには	ここをお確かめください	参照 ページ
循環 ・ 乾燥	手動水分計と水分値があわない	手動水分計の使い方が間違っている。 ▶もう一度、手動水分計の使い方を確かめ、水分測定をおこなってください。	
		水分補正值のしかたが適切でない。 ▶再び、水分値補正をおこなってください。	
乾燥	水分表示値がいつになっても変わらない	異常ではありません。 ▶水分表示値は、自動的に水分測定がおこなわれたときにだけ変わり、常時変化するものではありません。現在の水分測定値を確かめるには、  (水分測定) ボタンを押してください。	
乾燥	乾燥時間が長くかかりすぎる	排風ダクトの抵抗が大きく風量が低下している。 ▶排風ダクトをまっすぐにピンと張ってください。	
	停止水分値以下の水分値が表示されていても、バーナが消火しない	異常ではありません。 ▶設定した停止水分値以下の水分値を自動的に連続2回検出すると、バーナが自動消火し、約30分後に本機が停止します。自動的に水分測定がおこなわれるまでお待ちください。	
排出	 (停止) ボタンを押してもすぐに本機が停止しない	異常ではありません。 ▶粉詰まり防止のために、約30秒間、本機を稼働し続けます。その後自動停止します。	
	本機停止後、すぐに外部搬送機が停止しない	異常ではありません。 ▶粉詰まり防止のため、本機が停止してから約30秒後に外部搬送機を停止するようにしています。	

8章 故障診断と処置

	こんなときには	ここをお確かめください	参照 ページ
エ ラ ー	バーナが着火せずに、次のエラーが表示される。(点火異常) 表示画面：Err 条件設定：1	燃料切れ ▶燃料タンクに灯油を給油してください。	
		送油バルブのコックが閉まっている。 ▶送油バルブのコックを開いてください。	
		送油バルブ内にゴミが詰まっている。 ▶エレメントを洗浄してください。	
		燃料に軽油を使用している。 ▶燃料タンク内を洗浄して、灯油を給油してください。	
メ ッ ク	バーナが着火せずに、次のエラーが表示される。 表示画面：Err 条件設定：1 内容：「点火」異常（不着火）	燃料ホースにエアが噛んでいる。 ▶燃料ホースのエア抜きをしてください。	
		バーナにカーボンが付着している。 ▶バーナエアフィルタを掃除してください。 ▶送風機ベルトの緩みを確認してください。 ▶排風ダクトがストレートに張られているか確認してください。	
ツ セ ー ジ	バーナが着火後、次のエラーが表示される。 表示画面：Err 条件設定：2 内容：「燃焼」異常（中途失火）	ヒータが赤熱していない。 ▶ヒータコードが断線している。 ▶ヒータへ電圧（AC200V）が出ていない。	
		燃料切れ ▶燃料タンクに灯油を給油してください。	
		送油バルブ内にゴミが詰まっている。 ▶エレメントを洗浄してください。	
		燃料ホースにエアが噛んでいる。 ▶燃料ホースのエア抜きをしてください。	
		バーナにカーボンが付着している。 ▶バーナエアフィルタを掃除してください。 ▶送風機ベルトの緩みを確認してください。 ▶排風ダクトがストレートに張られているか確認してください。	
		フレームアイが汚れている。 ▶フレームアイの感知棒を掃除してください。	
		フレームアイが断線している。 ▶コードを交換してください。	

8章 故障診断と処置

こんなときには	ここをお確かめください	参照 ページ	
エ	運転中に、次のエラーが表示される。 表示画面：Err 条件設定：5 内容：「送風機過負荷」	コード・コネクタの接触部が緩んでいる。 ▶コード、およびコネクタの配線をチェックしてください。	
		電圧が低い。 ▶電源電圧（AC200V）を確認してください。	
ラ	運転中に、次のエラーが表示される。 表示画面：Err 条件設定：6-1 内容：「搬送系過負荷」	コード・コネクタの接触部が緩んでいる。 ▶コード、およびコネクタの配線をチェックしてください。	
		昇降機下部の粉が詰まっている。 ▶粉詰まりを除去してください。 ▶平ベルトの張り具合をチェックしてください。	
		搬送モータ駆動ベルトが緩んでいる。 ▶ベルトの緩みをチェックしてください。	
メ	運転中に、次のエラーが表示される。 表示画面：Err 条件設定：7 内容：「繰出し過負荷」	コード・コネクタの接触部が緩んでいる。 ▶コード、およびコネクタの配線をチェックしてください。	
		繰出しロールに異物が噛んでいる。 ▶販売店にご連絡ください。	
ツ	運転中に、次のエラーが表示される。 表示画面：Err 条件設定：8 内容：「スロワモータ過負荷」	コード・コネクタの接触部が緩んでいる。 ▶コード、およびコネクタの配線をチェックしてください。	
		スロワ内部に粉が詰まっている。 ▶粉詰まりを除去してください。	
		スロワベルトが緩んでいる。 ▶ベルトの緩みをチェックしてください。	
丨	運転中に、次のエラーが表示される。 表示画面：Err 条件設定：9 内容：「乾燥条件設定」異常	乾燥条件・記憶内容に問題がある。 ▶販売店にご連絡ください。	
ジ	運転中に、次のエラーが表示される。 表示画面：Err 条件設定：10 内容：「バーナファン」異常	コード・コネクタの接触部が緩んでいる。 ▶コード、およびコネクタの配線をチェックしてください。	
		コード・コネクタが断線・短絡している。 ▶コード、およびコネクタの配線をチェックしてください。	

8章 故障診断と処置

	こんなときには	ここをお確かめください	参照 ページ
エ	<p>運転中に、次のエラーが表示される。</p> <p>表示画面：Err 条件設定：11 内容：「熱風温度センサ」異常</p>	<p>熱風温度センサが断線・短絡している。 ▶販売店にご連絡ください。</p>	
		<p>熱風温度が 80℃異常を検出している。 ▶販売店にご連絡ください。</p>	
ラ	<p>運転中に、次のエラーが表示される。</p> <p>表示画面：Err 条件設定：12 内容：「穀物温度センサ」異常</p>	<p>コード・コネクタの接触部が緩んでいる。 ▶コード、およびコネクタの配線をチェックしてください。</p>	
		<p>穀物温度センサが断線・短絡している。 ▶コード、およびコネクタの配線をチェックしてください。</p>	
I	<p>運転中に、次のエラーが表示される。</p> <p>表示画面：Err 条件設定：13 内容：「外気温度センサ」異常</p>	<p>コード・コネクタの接触部が緩んでいる。 ▶コード、およびコネクタの配線をチェックしてください。</p>	
		<p>外気温度センサが断線・短絡している。 ▶販売店にご連絡ください。</p>	
メ	<p>運転中に、次のエラーが表示される。</p> <p>表示画面：Err 条件設定：14 内容：「水分計（検出器）」異常</p>	<p>検出器接続コードが断線している。 ▶販売店にご連絡ください。</p>	
		<p>検出器ロール部に異物が噛み込んでいる。 ▶検出器ロール部をチェックしてください。</p>	
ッ	<p>運転中に、次のエラーが表示される。</p> <p>表示画面：Err 条件設定：LLL 内容：「水分データ」異常</p>	<p>ロール部に穀物が飛び込まない。 ▶昇降機バケットの摩耗をチェックしてください。</p>	
		<p>検出器ロールが回転していない。測定水分値が 10.5%以下である。 ▶販売店にご連絡ください。</p>	
セ	<p>運転中に、次のエラーが表示される。</p> <p>表示画面：Err 条件設定：HHH 内容：「金属エラー」</p>	<p>コード・コネクタの接触部が緩んでいる。 ▶コード、およびコネクタの配線をチェックしてください。</p>	
		<p>検出器ロール部に金属が噛み込んでいる。 ▶検出器ロール部をチェックしてください。</p>	
ジ	<p>運転中に、次のエラーが表示される。</p> <p>表示画面：Err 条件設定：17 内容：「コーン水分計 LLL」異常</p>	<p>検出器にコーンのサンプルが入らない。 ▶コーン検出器ロール上に異物を除去してください。</p>	

8章 故障診断と処置

\	こんなときには	ここをお確かめください	参照 ページ
エ	<p>運転中に、次のエラーが表示される。(コーン水分計ロール位置異常)</p> <p>表示画面：Err 条件設定：18 内容：「コーン水分計ロール位置」異常</p>	<p>▶販売店にご連絡ください。</p>	
	<p>運転中に、次のエラーが表示される。</p> <p>表示画面：Err 条件設定：19 内容：「フレームアイ」異常</p>	<p>フレームアイに光が洩れこんでいる。 ▶フレームアイの取り付け部分をチェックしてください。</p>	
メ		<p>コード・コネクタの接触部が緩んでいる。 ▶コード、およびコネクタの配線をチェックしてください。</p>	
		<p>コード・コネクタが断線・短絡している。 ▶コード、およびコネクタの配線をチェックしてください。</p>	
ツ	<p>運転中に、次のエラーが表示される。</p> <p>表示画面：Err 条件設定：20 内容：「風圧センサ接点」異常</p>	<p>風圧センサスイッチが接触不良を起こしている。 ▶センサスイッチ部分を掃除してください。</p>	
	<p>条件設定：21 内容：「風圧センサ動作」異常</p>	<p>風圧センサスイッチがショートしている。 ▶コードの配線をチェックしてください。</p>	
セ	<p>運転中に、次のエラーが表示される。</p> <p>表示画面：Err 条件設定：23 内容：「圧力センサ」異常</p>	<p>下部コンベアに粉が詰まっている。 ▶粉詰まりを除去してください。</p>	
		<p>圧力センサ本体にゴミが詰まっている。 ▶ゴミを取り除いてください。</p>	
ジ		<p>コード・コネクタが断線・短絡している。 ▶コード、およびコネクタの配線をチェックしてください。</p>	
		<p>駆動ベルトが摩耗している。または、バケット平ベルトがスリップしている。 ▶粉詰まりを除去して、平ベルトの張り調整、Vベルトの摩耗スリップ損傷を確認してください。</p>	

8章 故障診断と処置

	こんなときには	ここをお確かめください	参照 ページ
エ ラ ー	<p>運転中に、次のエラーが表示される。</p> <p>表示画面：Err 条件設定：27 内容：「排出シャッタ」異常</p> <p>条件設定：28 内容：「排出シャッタ」開異常</p>	<p>シャッタ開閉部に異物が噛みこんでいる。 ▶異物を取り除いてください。</p>	
		<p>コード・コネクタの接触部が緩んでいる。 ▶コード、およびコネクタの配線をチェックしてください。</p>	
		<p>コード・コネクタが断線・短絡している。 ▶コード、およびコネクタの配線をチェックしてください。</p>	
メ ッ セ ー ジ	<p>運転中に、次のエラーが表示される。(感震センサ異常)</p> <p>表示画面：Err 条件設定：32 内容：「感震センサ」動作</p>	<p>地震が発生した。 ▶リセットボタンを押し、エラーを解除してください。</p>	
		<p>コード・コネクタの接触部が緩んでいる。 ▶コード、およびコネクタの配線をチェックしてください。</p>	
		<p>コード・コネクタが断線・短絡している。 ▶コード、およびコネクタの配線をチェックしてください。</p>	
	<p>運転中に、次のエラーが表示される。(検出器穀物温度センサ異常)</p> <p>表示画面：Err 条件設定：38 内容：「検出器穀物温度センサ」異常</p>	<p>検出器穀物温度センサが断線、短絡、接触不良している。 ▶販売店にご連絡ください。</p>	

第9章

オプション品

9章 オプション品

●オプション品

機種名	型式	商品の紹介
排出用スロワ (販売型式：KW-80SK)	KW-80S	乾燥した穀物を乾燥機内から製品タンク等に搬送することができます。
	BCG-80KC	
床置き用脚	KW-80AA	排出スロワを本機に装着せずに下置きしてご使用する場合にお使いください。
スロワ用除塵機	DSB-60C	スロワ樋の先端に取り付けることによって、排出作業中に発生するホコリを作業場外に取り除くことができます。
スロワ用昇降機後時延長コード	SRA-3MC	
側面張込みホッパー	RVH-10SC	昇降機側面から穀物を投入することができます。
特大中央張込ホッパ	KWC-10SB	ホッパ幅が約 1,200mm と広く、乾燥機の前面が有効に利用できます。
中央小型ホッパー	KW-12SH	荷受昇降機等から乾燥機に配管する場合にご利用ください。
除塵箱用小型ホッパー	RKF-10SMC	
側面排風チャンバー	RKF-56FSC	下部本体右側面に送風機を装着することができます。
φ 600 用 90° エルボ	GHE-90	90 度方向に排風口を変えられる鋼板製エルボです。
φ 600 接続フランジ	GHE-600F	送風機 (φ 600) にスパイラル管をフランジで下図のように接続することができます。
昇降機後面時延長コード	SEL-EXL	昇降機を後面 (送風機側) に組付ける場合に必要です。
昇降機対面張込み装置 (販売型式：KWH-10MW)	*****	昇降機後面組付時に組付面の反対側から穀物を張込むことができます。

異常表示装置	KWH-MXN	
排出量コントロールユニット	HCY-03XL	乾燥機の排出量をコントロールすることができますので、既存の搬送設備能力に合った排出量に調節することができます。
ストレーナユニット	STN-03YC	お使いください。
保護カバー	RGL-UCC	昇降機上部の駆動部をカバーで覆うことができますので、中二階等のある作業場に設置する場合には、お使いください。
検出器側面取付け補助部品	RKC-08SC	
梯子継足し材	LAD150	乾燥機用脚で本機を持ち上げた時に梯子の足らなくなった高さを補います。
乾燥機・送風機用脚 (販売型式：MFKP-13HC)	MKP-25HC	本機を据付け面から約 250mm ほど持ち上げた位置に設置することができます。
	FKP-25HC	
燃料タンク (83 L)	EBT-92H	灯油用燃料タンクです。

9章 オプション品

機種名	型式	商品の紹介
梯子 (50 型) (販売型式: SEL50-LAD)	LAD-T1400	梯子上 (H1400)
	LAD-L2975	梯子下 (H2975)
梯子 (60 型) (販売型式: SEL60-LAD)	LAD-T1900	梯子上 (H1900)
	LAD-L2975	梯子下 (H2975)
梯子 (70 型) (販売型式: SEL70-LAD)	LAD-T2400	梯子上 (H2400)
	LAD-L2975	梯子下 (H2975)
梯子 (80 型) (販売型式: SEL80-LAD)	LAD-T2900	梯子上 (H2900)
	LAD-L2975	梯子下 (H2975)
梯子 (100 型) (販売型式: SEL100-LAD) (販売型式: SEL100-LAD)	LAD-T1800	梯子上 (H1800)
	LAD-M2100	梯子中 (H2100)
	LAD-L2975	梯子下 (H2975)

第 10 章

緊急時の連絡先

10章 緊急時の連絡先

乾燥機をお使いいただいている間に、原因が不明で適切な処置がおこなえないと判断した場合、あるいは、点検・整備の結果、機械の動作に異常があった場合には、お買い上げの販売店あるいは弊社営業所までご連絡ください。

販売元

弊社営業所

- | | | |
|---------------|--------------------------------|----------------|
| ■ 本 社 ・ 工 場 | ☎ 348-8503 埼玉県羽生市小松台1-516-10 | ☎ 048(561)2111 |
| ■ 北 海 道 営 業 所 | ☎ 068-2165 北海道三笠市岡山440-18 | ☎ 01267(4)2130 |
| ■ 東 北 営 業 所 | ☎ 984-0042 宮城県仙台市若林区大和町2-12-18 | ☎ 022(235)9011 |
| ■ 関 東 営 業 所 | ☎ 348-8503 埼玉県羽生市小松台1-516-10 | ☎ 048(561)2112 |
| ■ 新 潟 営 業 所 | ☎ 940-1146 新潟県長岡市下条町686 | ☎ 0258(22)2131 |
| ■ 大 阪 営 業 所 | ☎ 567-0854 大阪府茨木市島1-13-6 | ☎ 048(501)2257 |
| 金沢サービスセンター | ☎ 921-8062 石川県金沢市新保本1-390 | ☎ 048(501)2257 |
| 中四国サービスセンター | ☎ 567-0854 大阪府茨木市島1-13-6 | ☎ 048(501)2257 |
| ■ 九 州 営 業 所 | ☎ 839-0809 福岡県久留米市東合川8-1-1 | ☎ 0942(45)0600 |

この取扱説明書において、万一、落丁、乱丁の場合は、おとりかえいたします。
お買い上げの販売店までお申しつけください。



〒 348-8503 埼玉県羽生市小松台 1-516-10

☎ 048-561-2111

013441U100
RXXXXXXXXX